

【各コース名称の表記について】

本冊子において、各コースの名称について、それぞれ次の略称を用いているところがあります。

ストラテジックデザインコース：SD

環境設計コース：環境

人間生活デザインコース：人間生活，人間，HLD

未来共生デザインコース：未来共生，未来

メディアデザインコース：メディア，MD

音響設計コース：音響

〈表紙〉学生作品

メディアデザインコース 桐野 一海
神本 奈緒

まえがき

九州大学大学院芸術工学府長
九州大学芸術工学部長

尾 本 章



芸術工学の世界へようこそ

九州大学芸術工学部および大学院芸術工学府は、「技術の人間化」を達成するための「高次のデザイナー」の養成を目的として1968年に設立された九州芸術工科大学・芸術工学部を源流としており、2003年の九州大学との統合、さらに幾度かの改組を経て現在の形へと至っています。

設立の際に、大学設置審議会で取りまとめられた芸術工学部の目的・性質は、以下のようなものです。

「1. 一般技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基礎である科学と、人間精神の最も自由な発現である芸術とを総合し、その全体的な精神によって技術の進路を計画し、その機能の設計について研究することを目的とする。2. 現代社会の組織の複雑化、大学卒業者の活動分野の拡大に伴い、在来の専門家のほかに人文、社会、自然の諸科学にまたがる知識と芸術的感性を基礎とする総合的な設計家が要求されつつあり、この要請にこたえることを目的とする。」

設立当時、主たる技術は重厚長大産業に伴うものだったと思われませんが、それを現在の情報通信技術と置き換え、さらに設計という言葉を広義のデザインに、また大学卒業者を大学院修了者にするなど、いくつか置き換えながら読んでみても、全く色褪せない内容です。

九州大学と統合してまもなく20年になりますが、これらの目的と「技術の人間化」という理念は、総合大学において唯一の芸術工学部、大学院芸術工学府として、これまでと同様に、あるいはこれまで以上に大切にしていきたいと考えています。

同時に、我々を取り巻く社会環境の変化には敏感である必要もあります。時代とともに大きく変化するデザインの対象や方法論へ適切に対応するために、2020年に学部、また2022年に学府の改組を行っています。この改組によって誕生した新しい芸術工学部の5つのコース、大学院芸術工学府の6つのコースは、これまでの良い伝統を守りつつも、デザインの対象を「モノ」から「コト」、さらに「ビジョン」へと積極的に拡大し、新しい価値を生み出していくという我々の意志の表明です。

改組によって、カリキュラムも刷新されています。そこでは、幅広い「融合」が強く意識されています。異なるデザイン対象との融合、さらに異なる方法論との融合です。そのための仕掛けとして、他分野で学ぶことのできる単位取得の仕組みや、プロジェクトベースの演習科目がこれまで以上に設定されています。

大学では、自らの履修する内容を、定められた範囲の中で自由に設計することができます。他分野との融合は、一見すると「広く浅く」学ぶ仕組みと捉えられがちです。しかし皆さんの取り組み方によって、これを「広く深く」学ぶものへと成長させることができます。

この便覧には、文化芸術、科学、工学、そして社会にまで至る幅広い問題を対象に、解決への道筋をデザインすることを教育・研究するための科目や様々な仕組みが示されています。皆さんを高次のデザイナーへと導くための道標であり、またこれらの内容を教授する教員との契約内容を示すものでもあります。

九州大学や大橋キャンパスに広がるさまざまな資源とともにこの便覧を積極的に活用して、思う存分学んでください。

目次

まえがき

第1章 大学院芸術工学府の教育課程と科目の履修について

1. 理念・目的	1
2. 芸術工学専攻修士課程の教育理念、教育目標について	2
(1) ストラテジックデザインコース	2
(2) 環境設計コース	3
(3) 人間生活デザインコース	3
(4) 未来共生デザインコース	4
(5) メディアデザインコース	5
(6) 音響設計コース	5
3. 芸術工学専攻修士課程の修了要件について	6
ア. 修了要件	6
イ. 各コース履修細目	7
(1) 修士課程【ストラテジックデザインコース】	7
(2) 修士課程【環境設計コース】	9
(3) 修士課程【人間生活デザインコース】	11
(4) 修士課程【未来共生デザインコース】	13
(5) 修士課程【メディアデザインコース】	15
(6) 修士課程【音響設計コース】	17
4. 芸術工学専攻博士後期課程の修了要件について	19
ア. 修了要件	19
イ. 履修細目 博士後期課程	19
5. 授業科目の履修について	20
(1) 授業時間割について	20
(2) 授業日程について	20
(3) 履修登録について	20
(4) 履修登録上の注意事項	20
(5) 自然災害等による休講等の措置について	21
(6) 授業や定期試験等における欠席について	21
(7) 授業計画書（シラバス）の活用	22
(8) 試験について	22
(9) 定期試験における受験上の注意について	23

(10) 成績評価及び修得単位の確認について	23
(11) 成績確認期間について	23
(12) インターンシップについて	24
(13) 大学院基幹教育科目	24
(14) 長期履修制度について	25
6. 学位論文等の提出について	25
7. 各種プログラムについて	27
(1) ホールマネジメントエンジニア育成プログラム	27
(2) グローバル・アーキテクト・プログラム	28
(3) クリエイティブリーダーシップ・プログラム	29
8. 資格について	31
9. 研究計画及び研究指導計画書について	32
10. 博士後期課程研究経過報告について	32
11. 日本学術振興会特別研究員について	32

第2章 大橋キャンパスでの学生生活

1. 学生サービスを行う部署と担当業務	35
2. 修学上の諸手続	37
(1) 標準修業年限及び在学期間の限度	37
(2) 休学・復学・退学手続について	37
(3) 現住所等の変更手続き	38
(4) 授業料の納付	38
(5) その他の諸手続	39
3. 大橋キャンパスにおける学生への連絡方法等	40
(1) 連絡方法	40
(2) 郵便物等の取扱い	41
(3) 電話の取り次ぎ	41
4. 諸証明の発行	41
(1) 学生証	41
(2) 通学証明書	42
(3) 学内自動発行機での証明書発行	42
5. 学生生活, 修学及び就職指導等に関する相談	43
(1) 修学上の相談	43
(2) なんでも相談窓口	43
(3) オフィス・アワー制度	43
(4) ハラスメントの相談	43
(5) 海外留学	44
(6) 芸工サポーター	45
6. その他	45
(1) 学生定期健康診断	45
(2) 就職支援	46
(3) 構内交通規制	47
(4) 学生生活上の注意事項	47
7. 適正な研究の進め方を知ろう	48
8. サークル活動	48
9. 大橋キャンパスの諸施設の利用について	49
10. 安全の手引き	56
11. 受賞情報の報告について	61

付録

1. 学内建物配置図	63
2. 各号館及び施設の平面図	64
3. 九州芸術工科大学学生歌	96
4. 九州大学大学院芸術工学府規則（抜粋）	101

第 1 章

大学院芸術工学府の教育課程と科目の履修について

1. 理念・目的

本学府において養成する人材像は、九州大学教育憲章に定める教育の目的と4つの原則（人間性の原則，社会性の原則，国際性の原則，専門性の原則）を踏まえ、人類が直面する課題に真摯に向き合うため、科学技術と芸術的感性を融合する「技術の人間化」の理念を継承しつつ、「モノ・コト・ビジョン」へ拡大する新しいデザイン領域に対する意識と人文，社会，自然にまたがる広い知識を基盤とする「高次のデザイナー」です。

【修士課程】

芸術工学専攻修士課程の教育理念は、各コースのページ(P.2～5)をご覧ください。

芸術工学専攻修士課程の各コースで掲げる教育課程を通して「芸術工学」の基本・基礎を十分に理解しながら到達目標を達成し、実社会において指導的立場を果たし得る能力を修得した者に修士（芸術工学）の学位を授与します。

また、特にストラテジックデザインコースの特徴であるアントレプレナーシップやデザイン実務に関する専門知識を修得し、デザインとビジネスに関する修士研究に取り組んだ者に修士（デザインストラテジー）を授与します。

【博士後期課程】

複雑化する現代社会においては、文化に対する深い理解を備え、対象に対する正しい評価、人間に適合したモノ・コト・ビジョンの創出等を高度に推進できる専門家が求められています。芸術工学専攻博士後期課程では、特定の分野に限定されることなく芸術工学の視点に立脚し、人間に適合した環境・製品の創出、各種情報の高品質化、芸術文化の創造を実現できる人材の養成を目的としている。芸術工学およびデザイン学領域の中で、学生個人ごとの領域を設定して、芸術、科学、技術の高度かつ先端的な知識を修得させ、その知識に基づいた基礎研究、応用研究、コンテンツ制作、実践を行う場を提供します。

芸術工学専攻博士後期課程においては、「芸術工学」に関する十分な専門的知識と特に優れた技術を獲得することで成果を達成し、自ら新しい課題を設定、解決する国際的水準の、独自性のある研究成果を挙げた者に対して、「博士（芸術工学）」の学位を授与します。また、芸術工学に関する研究のうち、その成果の中で特に技術等に関する研究が工学的に見て十分な成果を達成したと指導教員グループが認める者に対しては、「博士（工学）」の学位を授与します。

2. 芸術工学専攻修士課程の教育理念，教育目標について

(1) ストラテジックデザインコース

本コースでは、「高次のデザイン」という教育理念に基づき、デザインビジネスの過程において、デザインを戦略的に推進する多様な関係性と方向性を的確に判断・創造・提案・実行する力を養うために、次のような能力を主に養成します。

- 社会，経済，産業，環境及び人間に係る深い専門的知識を背景とし，自ら問題を見出し，創造的・批判的に吟味・検討しながら，幅広い分野の課題に実践的に取り組むことができる能力
- デザイン実務におけるコンセプト構想，実際の企画，生産，知財化，流通，販売までの高度な専門的知識，さらにリーダーシップやチーム・コミュニケーションといったアントレプレナーシップに関する高度な専門的知識を有し，それらを十分に理解した上でその方法論を説明する能力
- ビジネスの基礎から知的財産として活用する能力，さらに社会，経済，産業との関わりから新しいデザインニーズを開拓し，解法に結びつける方法論，ビジネス知識やアントレプレナーシップも踏まえた，起業・実践を行うための方法論を構築できる高次の設計能力
- デザインとは異なる分野との協働を通して，専門知識を総合的に活用しながら，社会の複合的な課題を提起し，解決のための実践的な方向性を示す能力
- デザインの社会実装やビジネスに関わる戦略を把握・構想・実践し，それらを評価・分析しながら，起業・社会的実践につながる方法論を構築できる能力

そして，これらの能力を有する「デザイン戦略に関わる多様な関係性と方向性を的確に把握・構想・実践できる人材」，「それらを評価・分析できる人材」，「ビジネス知識やアントレプレナーシップも踏まえた起業・実践を行うための方法論を構築できるイノベーション・リードの専門性を身につけた人材」を育成します。

(2) 環境設計コース

本コースでは、人間と環境の共生という環境設計の理念にたち、人間が過去から受け継ぎ未来へ手渡していく環境の価値を自然と文化の持続性・多様性から学び、未来の地域と生活環境を創造していくことを目標としています。また、大学・研究所・博物館等の研究職、建築・造園・都市計画・文化振興・環境政策等の行政職、まちづくり・むらおこし等のプランナー、遺産保護・遺産修復等のマネージャー、建築・造園・景観等のデザイナー、建築・造園等のエンジニア等の幅広い職種において、将来のよりよい環境をデザインする担い手として、次のような総合的な研究能力とデザイン能力を備えた人材の育成を目指しています。

- 1) 国内外をフィールドとした実践的な教育により、多様な環境の価値評価能力を持ち、環境設計の国際ネットワークを支えることができます。
- 2) 環境の価値を評価し将来へ継承するためにサステナブルな建築・景観・社会システムをデザインする専門性を習得し、環境の維持向上に貢献できます。
- 3) 人間と環境の関係をふまえたサステナブル・デザインを可能とする安全性・健康性・機能性・快適性を実現するプロセスについて習得し、空間的な調和と時間的な視野を持って技術面から環境設計を支えることができます。

併せて「グローバル・アーキテクト・プログラム」を提供し、国際的建築家資格に対応したJABEEの建築系学士修士課程プログラム（環境設計プログラム）の修士課程部分として、建築・環境設計に関する工学的知識及び文化芸術に関する知識を備えた、総合的設計能力を有する人材を育成します。

(3) 人間生活デザインコース

本コースでは、人間の特性や高度な科学技術を基盤に、生活の在り方を俯瞰的に捉え構想し、その実現に向けて応用することができる人材を養成します。具体的には、人間の生理的・形態的・行動的・心理的特性を理解し、人間の感性や創造性を踏まえ生活の在り方を捉え直し、科学的・文化的により豊かな生活を創造するための知識の応用・統合ができる人材、安全安心で魅力的な生活を実現するための最先端の科学的知見を有する人材の育成を目指します。

修了生は、情報機器・家電・自動車・家具・生活雑貨などの製造業関連、空間・建築・都市計画関連、商社、広告代理店、アプリ・システム開発関連、印刷会社、出版社、情報アーキテクト、エクスペリエンスデザイン関連、銀行、官公庁などの行政機関、大学などの教育・研究機関などにおいて、研究職やデザイナー、クリエイティブディレクター、プランナー、アナリスト、コンサルタント、ファシリテーター、デザインエンジニア、設計・開発職などの幅広い領域で人の生活や社会を分析・構想・実践する担い手として活躍することが期待されており、それに資する教育を実施することを目指します。

(4) 未来共生デザインコース

本コースでは、情報科学、生命科学、デザイン・アート、デザイン文化の各分野の知識と方法論を身につけ、多面的で創造性に富んだアプローチで未来社会のビジョンを描き、それを実現するための教育・研究を行うことを目的としています。

未来共生社会の構築と創造に活かすため、情報科学、生命科学の知識を体系的に理解し説明することができる能力の習得を目指します。

アート・デザイン・社会・文化を架橋する、アート作品の制作やその表現理論、マネジメントや技術等について体系的に理解し、説明し、実践することができる能力の習得を目指します。

生命科学と地球環境を支える哲学・環境学・社会学・教育学・芸術学に関する創造的、先端的な技術について体系的に理解し、説明することができる能力の習得を目指します。

さらに、芸術工学及び未来共生デザインの総合的な理解に基づき、習得した情報科学、生命科学、デザイン・アート、デザイン文化の知識と方法論を駆使し、科学的知見の提示、社会的な課題の解決、文化の創造に貢献することができるようになることを目指します。

修了生は、サービスや体験、仕組みづくりに関わるクリエイターやデザインコンサルタント、新しい生活価値や商品価値をつくる企画担当、メーカーでサービスデザインを行うUXデザイナー、メーカーのデザインセンターで調査分析を行うリサーチャーやプランナー、研究所で社会データや生命情報を分析するデータサイエンティスト、国や地方の政策デザインに関わる行政職、国際関連のマネジメント職、大学院進学を通しての研究職など、幅広い分野で活躍することが期待されており、それらに資する教育を提供することを目指しています。

(5) メディアデザインコース

本コースでは、論理的な思考能力と美的感性の涵養を通じて先導的なメディアテクノロジーの応用および芸術文化の創造に関わる、国際的視野を持った高度なクリエイターや研究者をはじめとする、新時代のメディアデザインを切り拓く挑戦的な人材の養成を目的としています。

そのために、本コースでは、メディアサイエンス、メディア工学、メディア表現、メディア社会文化の4分野におけるさまざまな活動を通して、メディアデザインに関する総合的な学びを提供します。

修了生は、コンテンツデザイン、情報デザイン、メディアコミュニケーションの分野におけるクリエイター、企画者、エンジニア、教育者、研究者として、多方面で活躍することが期待されます。

(6) 音響設計コース

本コースでは、音に関する芸術工学の視点に立脚し、人間に適合した音環境の創出、音響情報の高品質化、音に関する芸術文化の創造を実現できる人材の養成を目的としています。

そのために、音響設計に関連する芸術、科学、技術の高度かつ先端的な知識を習得し、その知識に基づいた基礎研究や応用研究、作品制作などの実践的な教育を行います。

本コースでは、音に関連する芸術、科学、技術の高度かつ最先端の知識に基づき、環境の特性を熟知した視聴覚情報のトータル・コミュニケーションのデザインを担える人材を育成します。すなわち、音響設計の専門家として必要な音に対する感性と高度な専門的知識を有し、概念や考え方、方法論を十分に理解して説明することができる能力、及び課題解決のために、音に関連する芸術、科学、技術的な知識を活用して、人間に適合した音環境の創出、音響情報の高品質化、音に関する芸術文化の創造に資する研究を計画、遂行することができる能力の修得を目指します。

修了生は、情報処理産業、映像通信産業、放送、放送機器、楽器製造、自動車産業、医療技術、医療機器産業、建築音響、騒音制御、音環境計画、音声言語教育、作品制作、エンタテインメント産業、スタートアップ、音楽マネジメント、劇場・ホール管理運営、官公庁の研究所、大学等の教育・研究者など、幅広い分野で活躍することが期待されており、それらに資する教育を提供することを目指しています。

3. 芸術工学専攻修士課程の修了要件について

ア. 修了要件

修士課程に2年以上在学し、所定の科目を40単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文又は修士作品を提出して、その審査及び最終試験に合格することが必要です。ただし、優れた業績を上げた者については、博士後期課程への進学を前提として修業年限を1年に短縮することができます。

授業科目区分	単位数	内 容
修士研究関連科目 (18単位必修)	18	修士課程の研究に関連する科目
コースコア科目	6	学生各自の所属コースで開設されるコア科目から6単位を選択
スタジオプロジェクト科目	2	スタジオプロジェクト科目から2単位を選択
展開科目	14	修士研究関連科目を除く芸術工学専攻修士課程の授業科目から選択可能
合 計	40	

(履修注意)

展開科目において、研究指導教員が必要と認める場合は、他学府の授業科目から、6単位まで選択履修することができる。

イ. 各コース履修細目

(1) 修士課程【ストラテジックデザインコース】

区 授業 科目	系 統 等	授 業 科 目	単 位 数	履 修 区 分	授 業 形 態	毎週授業時間数								他コース 共同	備 考
						1前		1後		2前		2後			
						春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
修士研究関連科目		芸術工学特別研究Ⅰ	4	必修	演習	4						(4)※			
		芸術工学特別研究Ⅱ	4	必修	演習		4					(4)※			
		芸術工学特別研究Ⅲ	4	必修	演習	(4)※			4						
		芸術工学特別研究Ⅳ	4	必修	演習			(4)※			4				
		芸術工学演習	2	必修	演習			4							
コ ア 科 目	設計・制作系	シリアスゲームデザイン1	1	選択	演習	2			2				(MD)		
	設計・制作系	シリアスゲームデザイン2	1	選択	演習	2			2						
	設計・制作系	コネクティッドデザイン	1	選択	講義・演習		2			2					
	設計・制作系	デザインイノベーション	1	選択	講義・演習			2			2				
	設計・制作系	ストラテジック・サービス・デザイン	1	選択	講義・演習		2				2				
	文化・社会 デザイン系	プロデューサー原論	1	選択	講義・演習	2			2						
	文化・社会 デザイン系	デザインマネジメント	1	選択	講義・演習	2			2						
	文化・社会 デザイン系	デザインマーケティング	1	選択	講義・演習		2			2					
	文化・社会 デザイン系	デザインプロジェクトマネジメント	1	選択	講義・演習			2				2			
	文化・社会 デザイン系	ブランドビジネスデザイン	1	選択	講義・演習		2			2					
	文化・社会 デザイン系	デザイン産業事情1	1	選択	講義・演習			2			2				
	文化・社会 デザイン系	デザイン産業事情2	1	選択	講義・演習				2			2			
	文化・社会 デザイン系	知的財産法1	1	選択	講義		2				2				
	文化・社会 デザイン系	知的財産法2	1	選択	講義			2				2			
	文化・社会 デザイン系	デザイン思考	1	選択	演習			2				2			
	文化・社会 デザイン系	リーンスタートアップ演習1	1	選択	演習	2			2				QREC科目		
	文化・社会 デザイン系	リーンスタートアップ演習2	1	選択	演習	2				2			QREC科目		
	文化・社会 デザイン系	リーンスタートアップ演習3	1	選択	演習		2				2		QREC科目		
文化・社会 デザイン系	リーンスタートアップ演習4	1	選択	演習			2				2	QREC科目			
スタジオブ プロジェクト 科目		スタジオブジェクトⅠ-A	2	選択	演習	4			4						
		スタジオブジェクトⅠ-B	2	選択	演習	4			4						
		スタジオブジェクトⅡ-A	2	選択	演習	4				4					
		スタジオブジェクトⅡ-B	2	選択	演習	4					4				
		スタジオブジェクトⅢ-A	2	選択	演習		4					4			
		スタジオブジェクトⅢ-B	2	選択	演習			4					4		
		スタジオブジェクトⅣ-A	2	選択	演習				4				4		
		スタジオブジェクトⅣ-B	2	選択	演習					4				4	

区 展 開 科 目	授 業 科 目	系 統 等	授 業 科 目	単 位 数	履 修 区 分	授 業 形 態	毎週授業時間数								他コース 共同	備 考
							1前		1後		2前		2後			
							春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
展 開 科 目	工学系		機能工学デザイン	1	選択	講義・演習			2					2	(人間)	
	設計・制作系		HCIデザイン	2	選択	演習			2					2		
	設計・制作系		エクスペリエンス (UX) デザイン	1	選択	演習	2				2					
	設計・制作系		アート・シンキング	1	選択	演習		2				2				
	設計・制作系		インクルーシブデザイン	1	選択	演習			2					2	(環境)	
	設計・制作系		ソサエタルデザイン	1	選択	演習				2					2	
	設計・制作系		ソーシャル・システム・デザイン	1	選択	演習		2						2		
	文化・社会 デザイン系		リーダーシップ論	2	選択	講義・演習		2					2			QBS科目
	文化・社会 デザイン系		組織行動	2	選択	講義・演習				2				2		QBS科目
	コース共通系		SD特別プロジェクトⅠ	2	選択	演習	4				4					
	コース共通系		SD特別プロジェクトⅡ (ストラテジックデザイン)	2	選択	演習		4					4			
	コース共通系		SD特別プロジェクトⅢ (ソーシャルデザイン)	2	選択	演習			4						4	
	コース共通系		SD特別プロジェクトⅣ (アントレプレナー)	2	選択	演習				4					4	
				デザインと日本A	2	選択	講義		2				2			
				デザインと日本B	2	選択	講義			2				2		
				アカデミックイングリッシュ	2	選択	講義	4				4				
				インターンシップⅠ	1	選択	実習	2	2	2	2	2	2	2	2	
				インターンシップⅡ	1	選択	実習	2	2	2	2	2	2	2	2	
				インターンシップⅢ	2	選択	実習	4	4	4	4	4	4	4	4	
				芸術工学特別プロジェクトⅠ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2	
				芸術工学特別プロジェクトⅡ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2	
				芸術工学特別プロジェクトⅢ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2	
				芸術工学特別プロジェクトⅣ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2	
			芸術工学特別プロジェクトⅤ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4		
			芸術工学特別プロジェクトⅥ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4		
			芸術工学特別プロジェクトⅦ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4		
			芸術工学特別プロジェクトⅧ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4		
			他コースを含む全コースのコア科目、他コースの展開科目													

- ※ 1年次での「芸術工学特別研究Ⅲ」、「芸術工学特別研究Ⅳ」の履修は、早期修了を希望する者のみ認めるものとする。
- ※ 2年次での「芸術工学特別研究Ⅰ」、「芸術工学特別研究Ⅱ」の履修は、1年次に修得できなかった者のみ認めるものとする。
- ※ 秋入学の場合、「芸術工学特別研究Ⅰ」、「芸術工学特別研究Ⅲ」を後期、「芸術工学特別研究Ⅱ」、「芸術工学特別研究Ⅳ」を前期に履修するものとする。また、「芸術工学演習」は夏学期に履修するものとする。
- ※ リーンスタートアップ演習は1から4まで続けて受けることを条件とする。

(2) 修士課程【環境設計コース】

区 授業 科目 区分	系 統 等	授 業 科 目	単 位 数	履 修 区 分	授 業 形 態	毎週授業時間数								他コース 共同	備 考
						1前		1後		2前		2後			
						春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
修士研究関連科目		芸術工学特別研究Ⅰ	4	必修	演習	4				(4)※					
		芸術工学特別研究Ⅱ	4	必修	演習		4				(4)※				
		芸術工学特別研究Ⅲ	4	必修	演習	(4)※			4						
		芸術工学特別研究Ⅳ	4	必修	演習			(4)※			4				
		芸術工学演習	2	必修	演習			4							
コ ア 目	科学系	環境化学特論	2	選択	講義		2			2					
	科学系	熱環境学特論	2	選択	講義		2			2					
	工学系	建築構造学特論	2	選択	講義	2			2						
	工学系	環境材料学特論	2	選択	講義		2			2					
	工学系	音響環境学特論	2	選択	講義		2			2			(音響)		
	工学系	音環境評価特論	2	選択	講義	4			4				(音響)		
	工学系	環境心理学特論	1	選択	講義		2			2					
	設計・制作系	建築計画特論	1	選択	講義	2			2						
	設計・制作系	建築構法計画特論	1	選択	講義	2				2					
	設計・制作系	環境保全学特論	1	選択	講義			2			2				
	設計・制作系	景観生態学特論	1	選択	講義	2			2						
	設計・制作系	ランドスケープデザイン特論	1	選択	講義	2				2					
	文化・社会 デザイン系	日本建築史特論	1	選択	講義		2				2				
	文化・社会 デザイン系	西洋建築史特論	1	選択	講義			2				2		隔年開講	
	文化・社会 デザイン系	文化財学特論	2	選択	講義	2			2						
	文化・社会 デザイン系	国際環境政策特論	2	選択	講義	2			2						
	文化・社会 デザイン系	環境人類学特論	2	選択	講義	2			2						
	文化・社会 デザイン系	共生社会デザイン論	1	選択	演習	2			2					(未来)	
	文化・社会 デザイン系	環境リスクマネジメント	1	選択	講義	2				2				(未来)	
	文化・社会 デザイン系	デザイン哲学	1	選択	講義	2				2				(未来)	
	文化・社会 デザイン系	美術史	1	選択	講義			2			2			(未来)	
	文化・社会 デザイン系	環境文化特論	2	選択	講義		2				2			隔年開講	
	コース共通系	環境デザインプロジェクトA	2	選択	演習	4									
	コース共通系	環境デザインプロジェクトB	2	選択	演習		4								

区 分 目 録	系 統 等	授 業 科 目	単 位 数	履 修 区 分	授 業 形 態	毎週授業時間数						他コース 共同	備 考		
						1前		1後		2前				2後	
						春	夏	秋	冬	春	夏			秋	冬
スタジオプロジェクト科目		スタジオプロジェクトⅠ-A	2	選択	演習	4			4						
		スタジオプロジェクトⅠ-B	2	選択	演習	4			4						
		スタジオプロジェクトⅡ-A	2	選択	演習		4			4					
		スタジオプロジェクトⅡ-B	2	選択	演習		4			4					
		スタジオプロジェクトⅢ-A	2	選択	演習			4			4				
		スタジオプロジェクトⅢ-B	2	選択	演習			4			4				
		スタジオプロジェクトⅣ-A	2	選択	演習				4			4			
	スタジオプロジェクトⅣ-B	2	選択	演習				4			4				
展 開 科 目	科学系	環境人間工学特論	1	選択	講義・演習	2				2				(人間)	
	科学系	視覚心理学特論	1	選択	演習		2				2			(MD)	
	科学系	色彩科学特論	1	選択	演習			2				2		(MD)	
	科学系	統計情報学	1	選択	講義・演習	2				2				(人間 未来)	
	設計・制作系	インクルーシブデザイン	1	選択	演習			2				2		(SD)	
	コース共通系	ランドスケープデザイン プロジェクト	4	選択	演習		4				4				
	コース共通系	ストラテジックアーキテクト プロジェクトA	4	選択	演習		4				4				
	コース共通系	ストラテジックアーキテクト プロジェクトB	4	選択	演習			4				4			
	コース共通系	グローバル・アーキテクト・ プロジェクト	4	選択	演習						4				
	コース共通系	アーキテクト・インターンシップⅠ	3	選択	演習		4								
	コース共通系	アーキテクト・インターンシップⅡ	3	選択	演習						4				
	コース共通系	建築インターンシップ	4	選択	演習						4				
		デザインと日本A	2	選択	講義		2			2					
		デザインと日本B	2	選択	講義			2				2			
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	講義	4			4						
		インターンシップⅠ	1	選択	実習	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		インターンシップⅡ	1	選択	実習	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		インターンシップⅢ	2	選択	実習	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		芸術工学特別プロジェクトⅠ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		芸術工学特別プロジェクトⅡ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		芸術工学特別プロジェクトⅢ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		芸術工学特別プロジェクトⅣ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		芸術工学特別プロジェクトⅤ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	芸術工学特別プロジェクトⅥ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	芸術工学特別プロジェクトⅦ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	芸術工学特別プロジェクトⅧ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	他コースを含む全コースのコア科目、他コースの展開科目														

- ※ 1年次での「芸術工学特別研究Ⅲ」、「芸術工学特別研究Ⅳ」の履修は、早期修了を希望する者のみ認めるものとする。
- ※ 2年次での「芸術工学特別研究Ⅰ」、「芸術工学特別研究Ⅱ」の履修は、1年次に修得できなかった者のみ認めるものとする。
- ※ 秋入学の場合、「芸術工学特別研究Ⅰ」、「芸術工学特別研究Ⅲ」を後期、「芸術工学特別研究Ⅱ」、「芸術工学特別研究Ⅳ」を前期に履修するものとする。また、「芸術工学演習」は夏学期に履修するものとする。

(3) 修士課程【人間生活デザインコース】

区 授業 科目	系 統 等	授 業 科 目	単 位 数	履 修 区 分	授 業 形 態	毎週授業時間数								他コース 共同	備 考
						1前		1後		2前		2後			
						春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
修士研究関連科目		芸術工学特別研究Ⅰ	4	必修	演習	4				(4)※					
		芸術工学特別研究Ⅱ	4	必修	演習		4				(4)※				
		芸術工学特別研究Ⅲ	4	必修	演習	(4)※			4						
		芸術工学特別研究Ⅳ	4	必修	演習			(4)※			4				
		芸術工学演習	2	必修	演習			4							
コ ア 科 目	科学系	応用人間工学	1	選択	講義・演習	2			2						
	科学系	生活機能支援科学特論	1	選択	講義・演習	2			2						
	科学系	環境人間工学特論	1	選択	講義・演習	2			2				(環境)		
	科学系	生理人類学特論	1	選択	講義・演習			2			2				
	科学系	脳・行動生理学特論A	1	選択	講義・演習	2			2						
	科学系	脳・行動生理学特論B	1	選択	講義・演習	2			2						
	科学系	感性科学特論	1	選択	講義・演習		2				2				
	科学系	統計情報学	1	選択	講義・演習	2			2				(環境) (未来)		
	工学系	デザイン認知論	1	選択	演習	2			2					一部集中	
	工学系	人間情報工学	1	選択	講義・演習			2			2		(未来) (音響)		
	工学系	機能工学デザイン	1	選択	講義・演習		2			2			(SD)		
	工学系	生体模倣工学	1	選択	演習	2			2				(未来)		
	設計・制作系	パブリックデザイン	1	選択	講義・演習	2			2						
	設計・制作系	コンテキストデザイン	1	選択	講義・演習	2			2						
	設計・制作系	レジリエンスデザイン	1	選択	演習			2			2		(未来)		
文化・社会 デザイン系	コミュニケーションデザイン論	1	選択	講義・演習	2			2							
文化・社会 デザイン系	ライフスケープデザイン	2	選択	演習		4			4				集中講義		
コース共通系	人間生活デザイン特論	2	必修	講義	4			4							
スタジ オ プ ロ ジ ェ ク ト 科 目		スタジオプロジェクトⅠ-A	2	選択	演習	4			4						
		スタジオプロジェクトⅠ-B	2	選択	演習	4			4						
		スタジオプロジェクトⅡ-A	2	選択	演習	4			4						
		スタジオプロジェクトⅡ-B	2	選択	演習	4			4						
		スタジオプロジェクトⅢ-A	2	選択	演習		4			4					
		スタジオプロジェクトⅢ-B	2	選択	演習		4			4					
		スタジオプロジェクトⅣ-A	2	選択	演習			4			4				
		スタジオプロジェクトⅣ-B	2	選択	演習			4			4				

区 授 業 科 目	系 統 等	授 業 科 目	単 位 数	履 修 区 分	授 業 形 態	毎週授業時間数						他コース 共同	備 考	
						1前	1後	2前	2後					
						春	夏	秋	冬	春	秋			冬
展 開 科 目	工学系	リーガルデザイン	1	選択	演習	2			2					集中講義
		デザインと日本A	2	選択	講義	2			2					
		デザインと日本B	2	選択	講義			2			2			
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	講義	4			4					
		インターンシップⅠ	1	選択	実習	2	2	2	2	2	2	2		
		インターンシップⅡ	1	選択	実習	2	2	2	2	2	2	2		
		インターンシップⅢ	2	選択	実習	4	4	4	4	4	4	4		
		芸術工学特別プロジェクトⅠ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2		
		芸術工学特別プロジェクトⅡ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2		
		芸術工学特別プロジェクトⅢ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2		
		芸術工学特別プロジェクトⅣ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2		
		芸術工学特別プロジェクトⅤ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4		
		芸術工学特別プロジェクトⅥ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4		
		芸術工学特別プロジェクトⅦ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4		
	芸術工学特別プロジェクトⅧ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4			
	他コースを含む全コースのコア科目，他コースの展開科目													

- ※ 1年次での「芸術工学特別研究Ⅲ」，「芸術工学特別研究Ⅳ」の履修は，早期修了を希望する者のみ認めるものとする。
- ※ 2年次での「芸術工学特別研究Ⅰ」，「芸術工学特別研究Ⅱ」の履修は，1年次に修得できなかった者のみ認めるものとする。
- ※ 秋入学の場合，「芸術工学特別研究Ⅰ」，「芸術工学特別研究Ⅲ」を後期，「芸術工学特別研究Ⅱ」，「芸術工学特別研究Ⅳ」を前期に履修するものとする。また，「芸術工学演習」は夏学期に履修するものとする。

(4) 修士課程【未来共生デザインコース】

区 授業 科目	系 統 等	授 業 科 目	単 位 数	履 修 区 分	授 業 形 態	毎週授業時間数								他コース 共同	備 考
						1前		1後		2前		2後			
						春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
修士研究関連科目		芸術工学特別研究Ⅰ	4	必修	演習	4				(4)※					
		芸術工学特別研究Ⅱ	4	必修	演習			4			(4)※				
		芸術工学特別研究Ⅲ	4	必修	演習	(4)※			4						
		芸術工学特別研究Ⅳ	4	必修	演習			(4)※			4				
		芸術工学演習	2	必修	演習			4							
コ ア 目	科学系	統計情報学	1	選択	講義・演習	2				2				(環境) (人間)	
	科学系	時間生物学	1	選択	演習	2			2						
	科学系	数理モデリングA	1	選択	演習	2			2					隔年開講	
	科学系	分子生物学	1	選択	講義・演習	2				2					
	工学系	Design in General Education	1	選択	演習			2			2			隔年開講	
	工学系	生体模倣工学	1	選択	演習	2				2				(人間)	
	工学系	バイオマテリアルエンジニアリング	1	選択	講義・演習	2				2					
	設計・制作系	現代アート実践	1	選択	演習		2				2				
	設計・制作系	情報編集デザイン	1	選択	演習	2				2				集中講義	
	設計・制作系	レジリエンスデザイン	1	選択	演習			2			2			(人間)	
	設計・制作系	サステイナブルデザイン	1	選択	演習		2				2			集中講義	
	文化・社会 デザイン系	アート&リサーチ	1	選択	演習	2				2					
	文化・社会 デザイン系	アーツマネジメント	1	選択	演習	2				2					
	文化・社会 デザイン系	共生社会デザイン論	1	選択	演習	2				2				(環境)	
	文化・社会 デザイン系	環境リスクマネジメント	1	選択	講義		2				2			(環境)	
文化・社会 デザイン系	デザイン哲学	1	選択	講義		2				2			(環境)		
文化・社会 デザイン系	イメージ感性論	1	選択	演習		2				2					
スタジ オ プ ロ ジ エ ク ト 科 目		スタジオプロジェクトⅠ-A	2	選択	演習	4				4					
		スタジオプロジェクトⅠ-B	2	選択	演習	4				4					
		スタジオプロジェクトⅡ-A	2	選択	演習		4				4				
		スタジオプロジェクトⅡ-B	2	選択	演習		4				4				
		スタジオプロジェクトⅢ-A	2	選択	演習			4				4			
		スタジオプロジェクトⅢ-B	2	選択	演習			4				4			
		スタジオプロジェクトⅣ-A	2	選択	演習				4				4		
		スタジオプロジェクトⅣ-B	2	選択	演習					4				4	

区 授 業 科 目	系 統 等	授 業 科 目	単 位 数	履 修 区 分	授 業 形 態	毎週授業時間数						他コース 共同	備 考	
						1前	1後	2前	2後					
						春	夏	秋	冬	春	秋			
展 開 科 目	科学系	数理解モテリングB	1	選択	演習	2			2					隔年開講
	工学系	人間情報工学	1	選択	講義・演習			2				2	(人間) (音響)	
	工学系	Curriculum and Management for Design Education	1	選択	演習		2				2			隔年開講
	設計・制作系	生命とアート	1	選択	講義	2			2					
	設計・制作系	スペキュラティブデザイン	1	選択	演習	2			2					隔年開講
	設計・制作系	デザイン・シビック	1	選択	演習	2			2					隔年開講
	文化・社会 デザイン系	文化政策	1	選択	演習			2				2		
	文化・社会 デザイン系	美術史	1	選択	講義			2				2	(環境)	
		デザインと日本A	2	選択	講義	2			2					
		デザインと日本B	2	選択	講義			2			2			
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	講義	4			4					
		インターンシップⅠ	1	選択	実習	2	2	2	2	2	2	2		
		インターンシップⅡ	1	選択	実習	2	2	2	2	2	2	2		
		インターンシップⅢ	2	選択	実習	4	4	4	4	4	4	4		
		芸術工学特別プロジェクトⅠ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2		
		芸術工学特別プロジェクトⅡ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2		
		芸術工学特別プロジェクトⅢ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2		
		芸術工学特別プロジェクトⅣ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2		
		芸術工学特別プロジェクトⅤ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4		
		芸術工学特別プロジェクトⅥ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4		
	芸術工学特別プロジェクトⅦ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4			
	芸術工学特別プロジェクトⅧ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4			
	他コースを含む全コースのコア科目、他コースの展開科目													

- ※ 1年次での「芸術工学特別研究Ⅲ」、「芸術工学特別研究Ⅳ」の履修は、早期修了を希望する者のみ認めるものとする。
- ※ 2年次での「芸術工学特別研究Ⅰ」、「芸術工学特別研究Ⅱ」の履修は、1年次に修得できなかった者のみ認めるものとする。
- ※ 秋入学の場合、「芸術工学特別研究Ⅰ」、「芸術工学特別研究Ⅲ」を後期、「芸術工学特別研究Ⅱ」、「芸術工学特別研究Ⅳ」を前期に履修するものとする。また、「芸術工学演習」は夏学期に履修するものとする。

(5) 修士課程【メディアデザインコース】

区 授業 科目	系 統 等	授 業 科 目	単 位 数	履 修 区 分	授 業 形 態	毎週授業時間数								他コース 共同	備 考
						1前		1後		2前		2後			
						春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
修士研究関連科目		芸術工学特別研究Ⅰ	4	必修	演習	4				(4)※					
		芸術工学特別研究Ⅱ	4	必修	演習		4				(4)※				
		芸術工学特別研究Ⅲ	4	必修	演習	(4)※			4						
		芸術工学特別研究Ⅳ	4	必修	演習			(4)※			4				
		芸術工学演習	2	必修	演習			4							
コ ア リ キ ョ ウ 目	科学系	視覚心理学特論	1	選択	演習	2				2				(環境)	
	科学系	色彩科学特論	1	選択	演習		2				2			(環境)	
	科学系	心理学的思考法特別演習	1	選択	演習			2				2			
	工学系	コンピュータサイエンス特論	1	選択	演習	2				2					集中講義
	工学系	視覚メディア設計特論	1	選択	演習			2				2			
	工学系	画像情報処理システム設計特論	1	選択	演習		2					2			
	工学系	視覚環境知能設計特論	1	選択	演習			2				2			
	工学系	コンピュータグラフィックス特論	1	選択	演習		2					2			
	工学系	メカニクスデザイン特論	1	選択	演習	2				2					
	工学系	メディアサービス特論	1	選択	演習		2				2				
	工学系	バーチャルリアリティ特論	1	選択	演習		2				2				一部集中
	設計・制作系	メディアアート表現	1	選択	講義・演習		2					2			
	設計・制作系	視覚記号特論	1	選択	講義・演習	2				2					
	設計・制作系	グラフィックデザイン特論	1	選択	演習	2					2				
	設計・制作系	映像コンテンツデザイン特論	1	選択	演習	2					2				
	設計・制作系	シリアスゲームデザイン1	1	選択	演習	2				2				(SD)	
	設計・制作系	映像表現史特論	1	選択	演習	2				2					
	設計・制作系	造形芸術特論	1	選択	講義・演習	2					2				
	文化・社会 デザイン系	演劇学特論	1	選択	演習	2				2					
	文化・社会 デザイン系	マルチモーダル・コミュニケーション 特論	1	選択	講義・演習		2					2			
スタジ オ プ ロ ジ ェ ク ト 科 目		スタジオプロジェクトⅠ-A	2	選択	演習	4				4					
		スタジオプロジェクトⅠ-B	2	選択	演習	4				4					
		スタジオプロジェクトⅡ-A	2	選択	演習	4					4				
		スタジオプロジェクトⅡ-B	2	選択	演習	4					4				
		スタジオプロジェクトⅢ-A	2	選択	演習			4				4			
		スタジオプロジェクトⅢ-B	2	選択	演習			4				4			
		スタジオプロジェクトⅣ-A	2	選択	演習				4				4		
		スタジオプロジェクトⅣ-B	2	選択	演習				4				4		

区 展 開 科 目	系 統 等	授 業 科 目	単 位 数	履 修 区 分	授 業 形 態	毎週授業時間数						他コース 共同	備 考	
						1前	1後	2前	2後					
						春	夏	秋	冬	春	夏			秋
展 開 科 目	コース共通系	メディアデザインプレゼンテーション演習	2	選択	演習							2		
		デザインと日本A	2	選択	講義	2			2					
		デザインと日本B	2	選択	講義			2			2			
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	講義	4				4				
		インターンシップⅠ	1	選択	実習	2	2	2	2	2	2	2	2	
		インターンシップⅡ	1	選択	実習	2	2	2	2	2	2	2	2	
		インターンシップⅢ	2	選択	実習	4	4	4	4	4	4	4	4	
		芸術工学特別プロジェクトⅠ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2	
		芸術工学特別プロジェクトⅡ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2	
		芸術工学特別プロジェクトⅢ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2	
		芸術工学特別プロジェクトⅣ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2	
		芸術工学特別プロジェクトⅤ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4	
		芸術工学特別プロジェクトⅥ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4	
		芸術工学特別プロジェクトⅦ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4	
	芸術工学特別プロジェクトⅧ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4		
他コースを含む全コースのコア科目、他コースの展開科目														

- ※ 1年次での「芸術工学特別研究Ⅲ」、「芸術工学特別研究Ⅳ」の履修は、早期修了を希望する者のみ認めるものとする。
- ※ 2年次での「芸術工学特別研究Ⅰ」、「芸術工学特別研究Ⅱ」の履修は、1年次に修得できなかった者のみ認めるものとする。
- ※ 秋入学の場合、「芸術工学特別研究Ⅰ」、「芸術工学特別研究Ⅲ」を後期、「芸術工学特別研究Ⅱ」、「芸術工学特別研究Ⅳ」を前期に履修するものとする。また、「芸術工学演習」は夏学期に履修するものとする。

(6) 修士課程【音響設計コース】

区 授業 科目	系 統 等	授 業 科 目	単 位 数	履 修 区 分	授 業 形 態	毎週授業時間数								他コース 共同	備 考
						1前		1後		2前		2後			
						春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
修士研究関連科目		芸術工学特別研究Ⅰ	4	必修	演習	4				(4)※					
		芸術工学特別研究Ⅱ	4	必修	演習		4				(4)※				
		芸術工学特別研究Ⅲ	4	必修	演習	(4)※			4						
		芸術工学特別研究Ⅳ	4	必修	演習			(4)※			4				
		芸術工学演習	2	必修	演習			4							
コ ア 科 目	科学系	聴覚心理学特論	2	選択	講義			2			2				
	科学系	聴覚生理学特論	2	選択	講義			2			2				
	科学系	時間知覚特論	2	選択	講義			2			2				
	科学系	音声生成特論	2	選択	講義	2				2					
	工学系	音声情報学特論	2	選択	講義・演習			4					4		
	工学系	音響制御特論	2	選択	講義	4			4						
	工学系	音響工学特論	2	選択	講義	4				4					
	工学系	計算音響学	2	選択	講義			4					4		
	工学系	福祉音響学	2	選択	講義・演習			2				2			
	工学系	音響イメージング特論	2	選択	講義			2			2				
	工学系	音響信号処理特論	2	選択	講義	2			2						
	工学系	音響環境学特論	2	選択	講義			2			2		(環境)		
	工学系	音環境評価特論	2	選択	講義	4			4				(環境)		
	設計・制作系	音響芸術特論	2	選択	演習	4				4					
	設計・制作系	作曲学特論	2	選択	演習		4					4			
	設計・制作系	サウンドデザイン特論	2	選択	講義・演習		4					4			
	文化・社会 デザイン系	民族音楽学特論	2	選択	演習	2					2				
	文化・社会 デザイン系	音楽社会文化特論	2	選択	講義	2					2				
	文化・社会 デザイン系	聴覚文化論特論	2	選択	講義		4					4		隔年開講	
	文化・社会 デザイン系	言語学特論	2	選択	講義			4					4	隔年開講	
コース共通系	音響設計特別講話	2	必修	講義			2				2				
コース共通系	輪講	2	必修	演習	2					2					
スタジオプロジェクト科目		スタジオプロジェクトⅠ-A	2	選択	演習	4			4						
		スタジオプロジェクトⅠ-B	2	選択	演習	4			4						
		スタジオプロジェクトⅡ-A	2	選択	演習	4				4					
		スタジオプロジェクトⅡ-B	2	選択	演習	4				4					
		スタジオプロジェクトⅢ-A	2	選択	演習		4				4				
		スタジオプロジェクトⅢ-B	2	選択	演習		4				4				
		スタジオプロジェクトⅣ-A	2	選択	演習			4				4			
		スタジオプロジェクトⅣ-B	2	選択	演習			4				4			

区 展 開 科 目	系 統 等	授 業 科 目	単 位 数	履 修 区 分	授 業 形 態	毎週授業時間数						他コース 共同	備 考		
						1前		1後		2前				2後	
						春	夏	秋	冬	春	夏			秋	冬
展 開 科 目	工学系	人間情報工学	1	選択	講義・演習				2				2	(人間) (未来)	
	コース共通系	ホール工学技術特論	2	選択	講義				2				2		
	コース共通系	ホール工学技術演習	2	選択	演習	2	2	2	2	2	2	2			
		デザインと日本A	2	選択	講義	2			2						
		デザインと日本B	2	選択	講義				2				2		
		アカデミックイングリッシュ	2	選択	講義	4				4					
		インターンシップⅠ	1	選択	実習	2	2	2	2	2	2	2	2		
		インターンシップⅡ	1	選択	実習	2	2	2	2	2	2	2	2		
		インターンシップⅢ	2	選択	実習	4	4	4	4	4	4	4	4		
		芸術工学特別プロジェクトⅠ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2		
		芸術工学特別プロジェクトⅡ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2		
		芸術工学特別プロジェクトⅢ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2		
		芸術工学特別プロジェクトⅣ	1	選択	講義	2	2	2	2	2	2	2	2		
		芸術工学特別プロジェクトⅤ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4		
		芸術工学特別プロジェクトⅥ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4		
		芸術工学特別プロジェクトⅦ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4		
	芸術工学特別プロジェクトⅧ	2	選択	講義	4	4	4	4	4	4	4	4			
	他コースを含む全コースのコア科目，他コースの展開科目														

- ※ 1年次での「芸術工学特別研究Ⅲ」，「芸術工学特別研究Ⅳ」の履修は，早期修了を希望する者のみ認めるものとする。
- ※ 2年次での「芸術工学特別研究Ⅰ」，「芸術工学特別研究Ⅱ」の履修は，1年次に修得できなかった者のみ認めるものとする。
- ※ 秋入学の場合，「芸術工学特別研究Ⅰ」，「芸術工学特別研究Ⅲ」を後期，「芸術工学特別研究Ⅱ」，「芸術工学特別研究Ⅳ」を前期に履修するものとする。また，「芸術工学演習」は夏学期に履修するものとする。

音
響

4. 芸術工学専攻博士後期課程の修了要件について

ア. 修了要件

26ページに示す図のように博士後期課程に定められた期間在学し、所定の科目を10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。ただし、優れた業績を上げた者については、修業年限を短縮することができます。

授業科目区分	単位数	内 容
論文作成関連科目 (4単位必修)	4	論文作成に関連する科目
研究指導科目 (6単位必修)	6	博士後期課程の研究に関連する科目
合 計	10	

イ. 履修細目

博士後期課程

授業科目区分	授 業 科 目	単位数	履修区分	授業形態	毎週授業時間数						備 考
					1前	1後	2前	2後	3前	3後	
論文作成関連科目	リサーチ研修Ⅰ	2	必修	演習	2		2		2		
	リサーチ研修Ⅱ	2	必修	演習		2		2		2	
研究指導科目	リサーチプロジェクトⅠ	2	必修	演習	2		2		2		
	リサーチプロジェクトⅡ	2	必修	演習			2		2		
	リサーチプロジェクトⅢ	2	必修	演習					2		

※ 秋入学の場合、「リサーチ研修Ⅰ」、「リサーチプロジェクトⅠ～Ⅲ」を後期、「リサーチ研修Ⅱ」を前期に履修するものとする。

5. 授業科目の履修について

(1) 授業時間割について

年度当初に『授業時間割』を学務課教務係で配布します（芸術工学府学生向けサイトにも掲示）。学期の途中で時間割の変更（例えば、開講時限や教室の変更）を行う場合は、学務課掲示板でお知らせしますので注意してください。掲示板の場所は40ページをご覧ください。

時 限		1	2	3	4	5
授 業 時 間	開 始	8 : 40	10 : 30	13 : 00	14 : 50	16 : 40
	終 了	10 : 10	12 : 00	14 : 30	16 : 20	18 : 10

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>
→「教務関係」→「時間割」



(2) 授業日程について

『授業日程』を学務課掲示板及び芸術工学府学生向けサイトに掲示しています。授業開始・終了日、夏季・冬季休業期間、曜日を振り替えて授業を行う日を掲載しています。

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>
→「教務関係」→「学年暦・授業日程」



(3) 履修登録について

- ① 授業を履修する場合は、入学時に配付する『学生ポータルシステムの利用の手引き』により、学務課掲示板に示された履修登録期間に学生ポータルシステムにて履修登録を行ってください。集中講義も履修登録期間中に登録してください。
- ② 年度当初に履修解説（ガイダンス）を行い、新年度の履修に関する注意事項を連絡しますので必ず出席してください。

(4) 履修登録上の注意事項

履修登録を行う学生は次のことに注意してください。

- ① 授業時間割上、同一時間帯に開設される授業科目については、重複して履修登録することはできない。
- ② 履修修正期間終了後に履修登録を変更することは、原則、認められない。

- ③ 履修登録しても実際には履修しなかった授業の成績は不合格となる。本学府の科目の履修を中止する場合は、履修登録確認期間に芸術工学部学務課教務係へ申し出ること。この期間に履修中止ができなかった場合は履修中止期間に芸術工学部学務課教務係へ申し出ること。

(5) 自然災害等による休講等の措置について

芸術工学府では、台風・積雪及び地震等による休講等の措置について必要な事項を定めています。

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>

→「教務関係」→「自然災害等による休講等」



(6) 授業や定期試験等における欠席について

授業や定期試験などの出欠状況は、各授業科目の担当教員が確認・管理し、成績評価に反映しますので、次のことに注意してください。

欠席届は学務課教務係で配布しています。また、芸術工学府学生向けサイトにも掲載しています。

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>

→「教務関係」→「公認欠席」



- ① やむを得ない理由で欠席や遅刻をした場合は、その旨を授業科目の担当教員へ直接連絡してください。
- ② 以下の理由により授業等を欠席する場合は、公認欠席として認められます。
 - i) 新型インフルエンザなどの感染症（学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症）にかかった場合
 - ii) 新型インフルエンザなどの感染症にかかったおそれがあり、大学から出校停止を指示された場合
 - iii) 裁判員候補者として裁判所に出向く場合及び裁判員として職務に従事する場合
 - iv) 2親等以内の親族が死亡した場合（原則として最長1週間とする）
 - v) 天災・交通機関の障害による場合

必要に応じて提出してもらおう書類がありますので、詳しくは学務課教務係で確認してください。なお、上記以外の理由の場合は公認欠席として認められません。

公認欠席の取扱いとしては、授業については欠席扱いになりませんが、担当教員の指示により、補講への出席やレポート等の提出が求められることがあります。また、試験を受けられなかった場合には、担当教員の指示する方法により、追試験が行われる場合がありますので、ご留意ください。

公認欠席と認められるためには「欠席届」の提出が必要です。

- ③ インフルエンザ等の感染症にかかった場合は、以下の手続きにより公認欠席が認められますので、必ず下記手順に従って手続きをしてください。
- i) インフルエンザにかかったと思ったら、必ず医療機関で診断を受けてください。
 - ii) インフルエンザと診断されたら、必ず学務課教務係(092-553-4418)に連絡してください。
 - iii) 解熱後48時間以降に、学務課教務係で公認欠席の手続きをしてください。
公認欠席の申請には「欠席届」が必要です。
- ④ 定期試験における欠席(公認欠席の場合を除く)の場合、定期試験の開始時刻までに学務課教務係(092-553-4418)へ連絡のあった学生については、関係する試験科目等の担当教員へ学務課教務係から連絡を行いますが、試験後については学生が直接担当教員へ連絡を行ってください。

(7) 授業計画書(シラバス)の活用

授業計画書(シラバス)は、授業科目の目標、授業の概要、授業計画、使用するテキスト、成績評価基準等について、あらかじめ学生の皆さんに紹介することを目的として作成されたものです。

学生ポータルシステムで公開しているので、履修登録に当たってよく読んで理解し、計画的で効果的な学習を進めてください。

シラバスは、原則として年度の初めに作成して公開しますが、授業科目の担当教員の判断によって、学期の途中で内容が変更されることもありますので、注意してください。シラバスに関して不明な点は、学務課教務係へお問い合わせください。

学生ポータルシステム

<https://ku-portal.kyushu-u.ac.jp/campusweb/top.do>



(8) 試験について

試験は、定期試験及び定期試験実施後に行う追試験があります。

定期試験は、授業科目の学習達成度を評価することを目的として、各授業期間末の定められた期間に実施します。

追試験は、疾病その他のやむを得ない事情により定期試験を受験できなかった学生に対して行う試験です。追試験は、当該授業科目の担当教員の判断により行いますので、追試験の受験を希望する学生は、速やかに担当教員へ申し出てください。

定期試験と追試験は、筆記試験により行います。ただし、授業科目によっては、作品、レポート、小テスト等の審査をもってこれに代えることがありますので、担当教員の指示に従ってください。

(9) 定期試験における受験上の注意について

試験を受験する場合は、次の受験上の注意を遵守してください。

[受験上の注意]

芸術工学府で開設されている授業科目の定期試験等（筆記試験に限る。）を受験する時は、次の事項を遵守しなければならない。

- ① 学生証を持参すること。受験中は、机上に提示しておくこと。
- ② 試験期間中に学生証を紛失したり、忘れたりした者は、受験前に学務課教務係へ連絡し、学生証不携帯届を発行してもらうこと。
- ③ 試験場では監督者の指示に従うこと。
- ④ 試験開始後20分を経過してからの試験場への入室は認めない。また、試験開始後20分を経過しないうちに試験場から退室することは認めない。
- ⑤ 学期の初めに履修登録を行っていない科目は受験できない。
- ⑥ 不正行為は絶対に行ってはならない。定期試験等における不正行為者に対する処分等については、関係規則に従って退学を含め厳格に対処する。

(10) 成績評価及び修得単位の確認について

授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準により評価され、次表のとおり区分されます。

修了要件を確認するために、自らの責任で単位修得の確認を行い、常に自分自身の履修状況を認識しておくようにしてください。

不明な点は、指導教員や学務課教務係職員に気軽に相談してください。

評 語 (大学院)	評 点 (100点法)	合格・不合格
S	90点～100点	合 格
A	80点～89点	
B	70点～79点	
C	60点～69点	
F	～59点	不合格

(11) 成績確認期間について

芸術工学府では、定期試験終了後に成績確認期間を設けています。当該学期で履修した科目の成績についての問い合わせは、この期間に科目の担当教員へ申し出てください。この期間終了後の申し出には一切応じられませんので、注意してください。

具体的な期間については、前期は8月下旬、後期は3月上旬に掲示等でお知らせしますので確認してください。

なお、担当教員に照会した結果に不服がある場合は、異議申し立てを行うことができます。異議申し立てを行う場合は、担当教員からの回答が届いて1週間以内に学務課教務係まで申し出てください。成績評価への疑問に明確な根拠がある場合のみ照会・申し立てが可能です。再評価の依頼、救済目的、懇願的な内容のものは受け付けません。

(12) インターンシップについて

インターンシップとは、自らの専門分野における高度な知識・技術に触れながら、将来のキャリアに関連した実務能力を高め、さらに自己職業適性や将来設計について考えるために、企業、行政機関、公益法人等の団体などにおいて実習・研修的な就業体験を行う授業です。

この授業は、指導教員と受入れ機関との協議によって運営されるので、履修者は指導教員と相談しながら、具体的な実施方法（実施時期、受入れ機関での学習・研修内容等）を決定してください。

なお、詳細は学務課教務係で配布の資料をご参照ください。

【インターンシップの流れ】

- ① 受入れ機関の調査と申込み
- ② 受入れ機関の決定、研修期間・内容の調整（マッチング）
- ③ 「学研災付帯賠償責任保険」（学研災加入者）または同内容の別保険への加入
- ④ 誓約書・履修申込書の提出（提出先：学務課教務係）〔マッチング完了後〕
- ⑤ インターンシップ研修実施
〔研修期間：1週間～1か月〕
- ⑥ インターンシップ終了報告書の提出（提出先：学務課教務係）
〔インターンシップ終了後2週間以内に学務課教務係に提出〕
- ⑦ 成績評価

(13) 大学院基幹教育科目

本学では、すべての大学院（学府）学生を対象として「大学院基幹教育科目」を平成27年度より開講しています。

「大学院基幹教育」は、大学院における専門教育で培われる確かな学問体系とともに、高度で広範な視野と思考力を身に付けることで自由な発想と柔軟な思考で創造的・批判的に現代社会が抱える問題・課題に取り組み建設的な解決策を創出できる人材の養成を目指しております。学士課程教育と同じ考え方にに基づき、「学びの幹」として磨いてきた「ものの見方・考え方・学び方を学ぶ力」、「真理を求め、自律的に学び続ける態度」をさらに高めるものです。

普段知り合うことのない他学府の院生と交流することも、社会に出て役に立つ経験となります。1科目だけでも聴講されることをお勧めします。

芸術工学府では「展開科目」の他学府授業科目の単位として、6単位を上限として修士課程の修了要件の単位に加えることができます。

博士後期課程の学生は、修了要件の認定外となります。

(14) 長期履修制度について

長期履修制度とは、当該年度において修士課程2年次、博士後期課程3年次を除く学生が職業を有する等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、芸術工学府教授会の定めるところにより、その計画的な履修を認めることができる制度です。

この制度により、長期履修を認められた者が修了するまで、1年間に納める授業料の額は、標準修業年限（修士課程は2年、博士後期課程は3年）分の授業料を、計画的に履修することを認められた一定の期間の年数（修士課程は3年又は4年、博士後期課程は4年、5年又は6年）で除した額となります。

詳細は学務課教務係にお問い合わせください。

6. 学位論文等の提出について

本学府修士課程において授与する学位は、**修士（芸術工学）**又は**修士（デザインストラテジー）**とします。

本学府博士後期課程において授与する学位は、**博士（芸術工学）**又は**博士（工学）**とします。

提出時期、学位論文の作成要領、学位に関する規則及び申請書類の様式については、学務課教務係で配布の資料を参照してください。

【修士学位請求の流れ】

①学位申請書、修士論文等を提出〔1月〕〔6月〕→②論文等調査及び最終試験（発表会等）→③学位授与決定→④学位授与式〔3月下旬〕〔9月下旬〕

【博士（課程博士）学位請求の流れ】

①予備審査申請書、博士論文等を提出→②予備審査→③論文受理決定→④学位論文審査願、博士論文等を提出→⑤論文調査及び最終試験（発表会等）→⑥学位授与決定→⑦学位授与式

【学位の申請時期】

学年途中において学位の申請を行うことができます。

修士課程 …………… 年2回論文審査の申請機会あり（別途掲示等により通知します。）

博士後期課程 … 年4回予備審査の申請機会あり（別途掲示等により通知します。）

（博士課程の修業年限）

		1年	2年	3年	4年	5年
博士後期課程進学・編入前の学歴		博士課程（5年）40単位以上				
修士課程を修了し、博士後期課程に進学・編入	標準	修士課程（2年） 30単位以上		博士後期課程（3年） 10単位以上		
	短縮	修士課程（2年） 30単位以上		博士後期課程 （1年以上） 10単位以上		
修士課程を短縮修了し、博士後期課程に進学・編入 修業年限が1年以上2年未満の修士課程を修了し、博士後期課程に編入	標準	修士課程 （1年以上2年 未満） 30単位以上	博士後期課程（3年） 10単位以上			
	短縮	修士課程 （1年以上2年 未満） 30単位以上	博士後期課程 10単位以上		計3年以上	
大学院への入学資格に関し修士の学位もしくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が博士後期課程に編入 専門職学位課程を修了し、博士後期課程に進学・編入	標準	・個別資格審査 ・専門職学位課程（2年）		博士後期課程（3年） 10単位以上		
	短縮	・個別資格審査 ・専門職学位課程（2年）		博士後期課程 （1年以上） 10単位以上		
法科大学院を修了し、博士後期課程に進学・編入	標準	法科大学院（3年）			博士後期課程（2年） 10単位以上	
	短縮	法科大学院（3年）			博士後期課程 （1年以上） 10単位以上	
修業年限が1年以上2年未満の専門職学位課程を修了し、博士後期課程に編入	標準	専門職学位課程（1年以上2年未満）	博士後期課程（3年） 10単位以上			
	短縮	専門職学位課程（1年以上2年未満）	博士後期課程 10単位以上		計3年	

※「標準」は博士後期課程進学・編入後、標準修業年限（3年）在学した場合、「短縮」は優れた業績により、修業年限を短縮した場合を示す。

※博士後期課程の「進学」とは本学大学院修士課程から引き続き博士後期課程に進学することを、「編入」とは修士課程修了者等が博士後期課程に入学することを意味する。

7. 各種プログラムについて

各種プログラムを履修する場合は、学務課掲示板に示された履修登録期間に学務課教務係に申し出てください。

(1) ホールマネジメントエンジニア育成プログラム

このプログラムは、劇場、ホール等の文化施設の音響、照明、舞台機構等に関する工学的知識及び文化芸術に関する知識を備えた、施設の総合的管理運営能力を有する人材を育成するものです。

このプログラムを履修できる者は、大学院芸術工学府修士課程又は博士後期課程に在学し、芸術工学府長が許可した者で、プログラムの修了要件は、下記に定める履修方法により、必修科目14単位を含む20単位以上を修得することが条件となっています。

なお、2年間にわたる、本プログラムに関連するスタジオプロジェクト科目の履修を修了要件とします。また、プログラムを修了した者にはプログラム修了証を授与します。

ア. 履修方法

- (ア) 次に掲げる授業科目から20単位以上（必修科目14単位を含む。）を修得すること。
- (イ) 選択科目は、科目群ごとに2単位以上修得すること。
- (ウ) 開設授業科目の既修得単位は、プログラムの修了要件単位として取り扱う。

イ. 授業科目

科目群	授業科目	開設学府・学部	単位数	必修・選択の別	備考
ホール芸術科目群	民族音楽学特論	芸術工学府	2	選択	
	音楽社会文化特論	芸術工学府	2	選択	
	聴覚文化論特論	芸術工学府	2	選択	
	メディアアート表現	芸術工学府	1	選択	
	演劇学特論	芸術工学府	1	選択	
	映像コンテンツデザイン特論	芸術工学府	1	選択	
	現代アート実践	芸術工学府	1	選択	
ホールマネジメント科目群	文化政策	芸術工学府	1	必修	
	アーツマネジメント	芸術工学府	1	必修	
	デザイン哲学	芸術工学府	1	選択	
	知的財産法1	芸術工学府	1	選択	
	知的財産法2	芸術工学府	1	選択	
	プロテューサー原論	芸術工学府	1	選択	
	デザインプロジェクトマネジメント	芸術工学府	1	選択	

科目群	授 業 科 目	開設学府・学部	単位数	必修・選択の別	備 考
ホール工学科目群	ホール工学技術特論	芸術工学府	2	必修	
	ホール工学技術演習	芸術工学府	2	必修	
	室内音響学	芸術工学部	2	選択	
	音響メディア工学	芸術工学部	2	選択	
共通科目群	スタジオプロジェクトⅠ-B	芸術工学府	2	必修	※
	スタジオプロジェクトⅡ-B	芸術工学府	2	必修	※
	スタジオプロジェクトⅢ-B	芸術工学府	2	必修	※
	スタジオプロジェクトⅣ-B	芸術工学府	2	必修	※

※ ホールマネジメントエンジニア育成プログラムの関連科目として指定されたスタジオプロジェクトを履修すること。

(2) グローバル・アーキテクト・プログラム

このプログラムは、建築・環境設計に関する工学的知識及び文化芸術に関する知識を備えた、総合的設計能力を有する人材を育成するものです。

このプログラムを履修できる者は、九州大学芸術工学部環境設計学科を卒業、又は他大学の建築系学科を卒業し環境設計学科の教育到達目標を達成していると認められた者で、大学院芸術工学府芸術工学専攻環境設計コース修士課程に在学し芸術工学府長が許可した者としてします。

なお、プログラムを修了した者にはプログラム修了証を授与します。

本プログラムは、環境設計学科（又は同等の教育到達目標を達成したと認められる学士課程）の卒業と合わせて、JABEEの建築系学士修士課程プログラムとして認定されています。

ア. 履修方法

- (ア) 次に掲げる授業科目から、必修科目5単位、選択必修科目8単位以上を含む20単位以上を修得すること。
- (イ) 在籍する専攻を修了し修士の学位を取得すること。

イ. 授業科目

科目群	授 業 科 目	単位数	必修・選択の別	備 考
スタジオ科目群	グローバル・アーキテクト・プロジェクト	4	必修	
	ストラテジックアーキテクトプロジェクトA	4	選択必修	
	ストラテジックアーキテクトプロジェクトB	4	選択必修	
	スタジオプロジェクトⅠ-A	2	選択必修	※
	スタジオプロジェクトⅠ-B	2	選択必修	※
	スタジオプロジェクトⅡ-A	2	選択必修	※
	スタジオプロジェクトⅡ-B	2	選択必修	※

科目群	授 業 科 目	単位数	必修・選択の別	備 考
スタジオ科目群	スタジオプロジェクトⅢ-A	2	選択必修	※
	スタジオプロジェクトⅢ-B	2	選択必修	※
	スタジオプロジェクトⅣ-A	2	選択必修	※
	スタジオプロジェクトⅣ-B	2	選択必修	※
	ランドスケープデザインプロジェクト	4	選択	
コア科目群	建築計画特論	1	必修	
	西洋建築史特論	1	選択必修	
	日本建築史特論	1	選択必修	
	環境デザインプロジェクトA	2	選択必修	
	環境デザインプロジェクトB	2	選択必修	
	環境心理学特論	1	選択	
	建築構法計画特論	1	選択	
	建築構造学特論	2	選択	
	環境材料学特論	2	選択	
インターンシップ科目群	アーキテクトインターンシップⅠ	3	選択	
	アーキテクトインターンシップⅡ	3	選択	
	建築インターンシップ	4	選択	

※ グローバル・アーキテクト・プログラムの関連科目として指定されたスタジオプロジェクトを履修すること。

(3) クリエーティブリーダーシップ・プログラム

このプログラムは、デザイン、アート、ビジネス、リーダーシップの4要件に長けた「高度デザイン人材」を育成するものです。創造的思考力に基づく社会・文化の長期的なビジョン構想や、深い人間・環境理解にもとづく価値提案を実践でき、その価値を社会実装するために多様な他者への共感力・協働力を備え、イノベーション・プロジェクトを進行していける人材の養成を目指します。

このプログラムを履修できる者は、大学院芸術工学府修士課程又は博士後期課程に在学し、芸術工学府長が許可した者で、プログラムの修了要件は、下記に定める履修方法により、10単位以上を修得することが条件となっています。

なお、プログラムを修了した者にはプログラム修了証を授与します。

ア. 履修方法

- (ア) 次に掲げる授業科目から10単位以上を修得すること。
- (イ) SDコース科目群のうち、工学系または設計・制作系から1単位以上、文化・社会デザイン系から1単位以上修得すること。
- (ウ) QBS・QREC科目群から4単位以上修得すること。
- (エ) 協働科目群から4単位以上修得すること。
- (オ) 開設授業科目の既修得単位は、プログラムの修了要件単位として取り扱う。

イ. 授業科目

科目群	授業科目	開設学府等	単位数	必修・選択の別	備考
SD コース 科目群	シリアスゲームデザイン1	芸術工学府	1	選択	設計・制作系
	シリアスゲームデザイン2	芸術工学府	1	選択	設計・制作系
	コネクティッドデザイン	芸術工学府	1	選択	設計・制作系
	デザインイノベーション	芸術工学府	1	選択	設計・制作系
	ストラテジック・サービス・デザイン	芸術工学府	1	選択	設計・制作系
	プロデューサー原論	芸術工学府	1	選択	文化・社会デザイン系
	デザインマネジメント	芸術工学府	1	選択	文化・社会デザイン系
	デザインマーケティング	芸術工学府	1	選択	文化・社会デザイン系
	デザインプロジェクトマネジメント	芸術工学府	1	選択	文化・社会デザイン系
	ブランドビジネスデザイン	芸術工学府	1	選択	文化・社会デザイン系
	デザイン産業事情1	芸術工学府	1	選択	文化・社会デザイン系
	デザイン産業事情2	芸術工学府	1	選択	文化・社会デザイン系
	知的財産法1	芸術工学府	1	選択	文化・社会デザイン系
	知的財産法2	芸術工学府	1	選択	文化・社会デザイン系
	デザイン思考	芸術工学府/QREC	1	選択	文化・社会デザイン系
	機能工学デザイン	芸術工学府	1	選択	工学系
	HCIデザイン	芸術工学府	2	選択	設計・制作系
	エクスペリエンス (UX) デザイン	芸術工学府	1	選択	設計・制作系
	アート・シンキング	芸術工学府	1	選択	設計・制作系
インクルーシブデザイン	芸術工学府	1	選択	設計・制作系	
ソサエタルデザイン	芸術工学府	1	選択	設計・制作系	
ソーシャル・システム・デザイン	芸術工学府	1	選択	設計・制作系	
QBS・QREC 科目群	リーダーシップ論	QBS/芸術工学府	2	選択	
	組織行動	QBS/芸術工学府	2	選択	
	ベンチャー企業	QBS	2	選択	
	イノベーション・マネジメント	QBS	2	選択	
	企業戦略	QBS	2	選択	
	技術系アントレプレナーシップ (特論)	QBS/QREC	2	選択	
	起業価値評価 (特論)	QBS/QREC	2	選択	
	コーポレート・アントレプレナーシップ (特論)	QBS/QREC	2	選択	
	テクノロジーマーケティングゲーム	QREC	2	選択	
	Technology Marketing Game (English)	QREC	2	選択	
	ベンチャーファイナンス	QREC	2	選択	
アントレプレナーシップ・組織論応用	QREC	2	選択		
協働 科目群	スタジoproject I-A	芸術工学府	2	選択	QBS・QREC 連携プロジェクト に限る
	スタジoproject I-B	芸術工学府	2	選択	
	スタジoproject II-A	芸術工学府	2	選択	
	スタジoproject II-B	芸術工学府	2	選択	
	スタジoproject III-A	芸術工学府	2	選択	
	スタジoproject III-B	芸術工学府	2	選択	
	スタジoproject IV-A	芸術工学府	2	選択	
	スタジoproject IV-B	芸術工学府	2	選択	
	リーン・スタートアップ演習1	芸術工学府/QREC	1	選択	
	リーン・スタートアップ演習2	芸術工学府/QREC	1	選択	
	リーン・スタートアップ演習3	芸術工学府/QREC	1	選択	
	リーン・スタートアップ演習4	芸術工学府/QREC	1	選択	
	グローバルPBLプログラム	QREC	2	選択	

8. 資格について

建築士資格登録ための大学院における実務経験要件について

コース名：芸術工学専攻修士課程 環境設計コース

専門領域：意匠

実務年数：2年又は1年

必要単位数	
実務経験年数2年	実務経験年数1年
30単位以上	15単位以上

以下1, 2に示す必要単位数の修得により、建築士免許登録のために必要な実務経験として認められます。

1. インターンシップ科目

科目名	単位	必要単位数
アーキテクト・インターンシップⅠ	3	実務経験年数2年：14単位以上 実務経験年数1年：4単位以上
アーキテクト・インターンシップⅡ	3	
建築インターンシップ	4	
ストラテジックアーキテクトプロジェクトA	4	
ストラテジックアーキテクトプロジェクトB	4	
グローバル・アーキテクト・プロジェクト	4	

2. 関連科目

科目名	単位	必要単位数
環境デザインプロジェクトA	2	8単位以下
環境デザインプロジェクトB	2	
スタジオプロジェクトⅠ-A	2	
スタジオプロジェクトⅠ-B	2	
スタジオプロジェクトⅡ-A	2	
スタジオプロジェクトⅡ-B	2	
スタジオプロジェクトⅢ-A	2	
スタジオプロジェクトⅢ-B	2	
スタジオプロジェクトⅣ-A	2	
スタジオプロジェクトⅣ-B	2	
熱環境学特論	2	8単位以下
建築構造学特論	2	
環境材料学特論	2	
建築計画特論	1	
環境心理学特論	1	
建築構法計画特論	1	
日本建築史特論	1	
西洋建築史特論	1	

9. 研究計画及び研究指導計画書について

修士課程の学生及び博士後期課程の学生は、毎年、4月入学者は5月末まで、10月入学者は11月までに研究計画及び研究指導計画書を提出してください。学生は、指導教員と十分な相談・打ち合わせ等を行ったうえで自らの研究計画を記入し、指導教員は、学生と打ち合わせた内容を踏まえ研究指導計画を記入することとなっています。

また、初年度は、48ページに記載のある「研究倫理教育」を計画書の提出までに受講する必要がありますので、忘れずに受講して下さい。

10. 博士後期課程研究経過報告について

(1) 研究経過発表の実施

博士後期課程の学生は毎年1回以上、研究経過発表を実施してください。研究経過発表とは、関連学会における口頭発表、学術雑誌への論文投稿、コンペ等への出品、企画書の作成などの制作・研究成果を発表することです。学外における発表がない学生は、学内において複数の教員・学生、または外部の研究者が参加する公開発表会を実施し、研究状況を発表してください。

(2) 研究経過報告書の提出

博士後期課程の学生は、上記の研究経過発表の状況を「研究経過報告書」に記入し、関連資料を添えて指導教員に提出して研究経過報告を行い、次年度の研究計画について指導を受けてください。提出期限については、別途掲示等により通知します。

11. 日本学術振興会特別研究員について

「特別研究員」制度とは、優れた若手研究者に、その研究生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与えることにより、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的として、大学院博士後期課程在学者及び大学院博士後期課程修了者等で、優れた研究能力を有し、大学その他の研究機関で研究に専念することを希望する者を、日本学術振興会が「特別研究員」として採用し、研究奨励金を支給する制度です。

また、特別研究員が行う研究に対しては、「科学研究費助成事業（特別研究員奨励費）」が助成されます。

同研究員となるには、日本学術振興会が公募する時期に研究機関事務局を通じて「申請書」を提出し、書面審査に合格することが必要です。

応募方法等の詳細は、日本学術振興会のホームページで見ることができます。募集から採用までのスケジュールは、次のとおりですが、詳細は学生ポータルの情報で確認するようにしてください。

日本学術振興会ホームページ：

<https://www.jspss.go.jp/j-pd/index.html>



令和6（2024）年度採用分・採用スケジュール（予定） DCの場合

スケジュールは次のとおりです。なお、時期は前後する可能性があります。

募集要項公表	2月中旬
学内募集通知	2月中旬
電子申請システムID・パスワード発行依頼期限	4月下旬
書類提出期限	5月上旬
第一次選考結果開示	10月上旬頃
第二次選考結果開示	1月上旬
採用決定	4月1日

<参考> 令和6（2024）年度研究奨励金支給予定額

・研究奨励金

- (1) 特別研究員－DC（大学院博士課程在学者）：月額200,000円
- (2) 特別研究員－PD（博士の学位取得者等）：月額362,000円

・研究費

特別研究員申請時に科学研究費助成事業（特別研究員奨励費）に応募することができます。日本学術振興会の科学研究費委員会の審査を経て研究奨励金とは別に450万円以内の研究費が交付されます。

問い合わせ

芸術工学部総務課研究支援係（管理棟2階 092-553-4570）

第 2 章

大橋キャンパスでの学生生活

1. 学生サービスを行う部署と担当業務

	担 当	担 当 業 務
学 務 課	教 務 係	履修登録, 授業・定期試験, 成績管理, ★証明書関係, 休学・退学・復学, 学位論文審査, 講義室管理, 非常勤講師, 大学入学共通テスト, 研究生, 公開講座, 出前授業 ほか
	学 生 係	学部入試・大学院入試, 入学料・授業料免除, 奨学金, 留学関係, 就職関係, 課外活動施設・物品貸出, ★通学定期券, 何でも相談窓口, 在留資格変更等に係る申請手続き ほか
	グローバル学生交流 センター	留学に関する情報提供 ほか
	芸工インターナショナル オフィス	国際関係 ほか
総 務 課	庶 務 係	学府内アルバイトの任用
	企 画 ・ 広 報 係	芸工Webサイト, 芸工公式SNS, 施設公開事業, 学生作品等, 広報関係
	研 究 支 援 係	日本学術振興会特別研究員, 研究倫理教育
財 務 課	経 理 係	学府内アルバイト給与の支給 (口座登録)
	用 度 係	施設の時間外使用届
	大 橋 保 全 係	☆電子錠の登録申請

★成績証明書(和文・英文)・在学証明書(和文・英文)・修了見込証明書(和文・英文)・学生旅客運賃割引証については、自動発行機により発行。

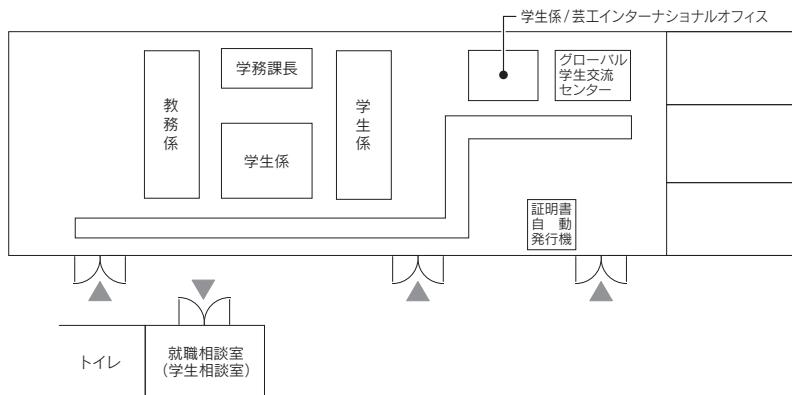
☆電子錠の登録申請書は、芸術工学府学生向けサイトでダウンロードできます。

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>
→「学生支援」→「電子錠登録申請書」

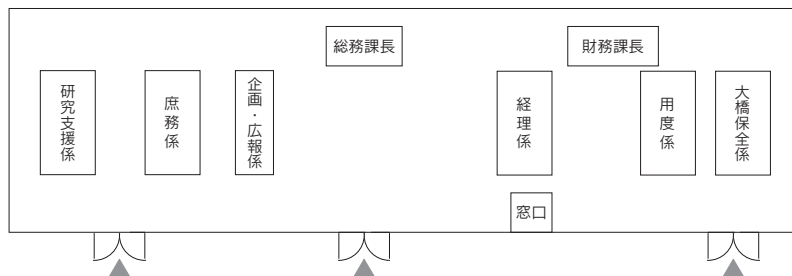


管理棟

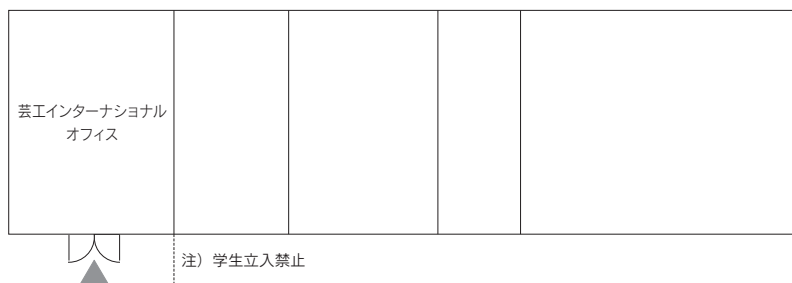
1F



2F



3F



2. 修学上の諸手続

(1) 標準修業年限及び在学期間の限度

	標準修業年限	在学期間の限度
修士課程	2年	4年
博士後期課程	3年	6年

※休学期間は在学期間に含まれません。

(2) 休学・復学・退学手続について

休学・復学・退学に関する様式は学務課教務係で配布しています。また、芸術工学府学生向けサイトにも掲載しています。

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>
→「教務関係」→「休学・復学・退学」



ア. 休学手続

疾病又は経済的理由などのため2か月以上修学できない場合は、学府長の許可を得て、休学することができます。

休学手続は、研究指導教員と相談して、学務課教務係に「休学願」を提出してください。疾病の場合は、医師の診断書を併せて提出してください。

〔手続時期〕

前期（4月1日～）を休学する場合は2月末日まで

後期（10月1日～）を休学する場合は8月末日まで

※各学期の開始前に休学を申請した場合は、休学期間の授業料は免除となりますが、学期開始後に休学を申請した場合は、その学期の授業料は免除になりませんので注意してください。

イ. 復学手続

休学者が休学期間中に復学する場合は「復学願」を提出してください。

また、休学期間が満了の場合は「復学届」を提出してください。

〔手続時期〕

後期（10月1日～）から復学する場合は8月末日まで

前期（4月1日～）から復学する場合は2月末日まで

(5) その他の諸手続

これまでに述べた手続き以外にも皆さんが学生生活を送る上で様々な手続きが必要になってきます。以下に代表的なものを載せていますので参考にしてください。分からないことがあれば、気軽に学務課職員に声をかけてください。

掲示・施設使用等

種 別	担当課・係	期 日	備 考
掲示許可願	学務課学生係	その都度	7号館に掲示できます
施設使用許可願		使用日の 3日前(土日 祝日を除く) まで	サークル等で施設の使用を申し込む場合
施設の時間外 使用届			土曜日、日曜日、祝日に施設を使用する場合 (研究室等除く)
学内・外催物 開催届		その都度	顧問教員を経由すること
施設の時間外 使用届	財務課用度係	当日の 17時まで	研究室等を21時以降に使用する場合

3. 大橋キャンパスにおける学生への連絡方法等

(1) 連絡方法

大学から学生の皆さんに対し、下記により、授業や学生生活上の重要事項などをお知らせしますので、1日に一度は必ずチェックしてください。

連絡方法	場 所
学生ポータルシステム	(使用方法ホームページ) https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/class/learning/portal/ 
	(パソコン) https://ku-portal.kyushu-u.ac.jp/campusweb/top.do 
	(携帯電話) https://ku-portal.kyushu-u.ac.jp/campusweb/sptop.do 
	※住所や連絡先を変更した場合は、必ず学務課学生係に届けてください。学生本人の住所、連絡先については学生ポータルシステムから変更できます。 ※学生ポータルシステムからの連絡（メール）は、初期設定では大学から割り当てられたメールアドレスに送られます。通常使用しているメールアドレスへ転送するようにしておくなど、常に見られる状態にしておいてください。
学務課掲示板	デザインコモン前（授業関係、授業料・学生生活関係、就職関係、海外留学関係等の情報を掲載しています。）
コース・専攻 掲示板	ストラテジックデザインコース：7号館1階 環境設計コース：2号館2階 人間生活デザインコース：1号館2階 未来共生デザインコース：7号館1階（予定） メディアデザインコース：2号館2階 音響設計コース：3号館1階

※緊急の要件は、直接、電話しますので、自宅または携帯電話の電話番号を必ず学務課学生係に届けてください。

連絡事項	連絡方法
休講, 時間割変更, 講義室変更, 補講, 集中講義, 定期試験	学生ポータルシステム デザインコモン前学務課掲示板 (授業関係)
レポート・課題, その他の授業連絡	デザインコモン前学務課掲示板 (授業関係) コース・専攻掲示板
学科・教員からの連絡	コース・専攻掲示板
授業料納付, 授業料免除, 学生生活に関する連絡 奨学金	デザインコモン前学務課掲示板 (授業料関係・学生生活関係)
留学生奨学金, 留学生への連絡事項 海外留学	HPで各自確認 (留学生奨学金) 学生ポータルシステム デザインコモン前学務課掲示板 (海外留学関係)
就職情報	デザインコモン前学務課掲示板 (就職関係) コース・専攻掲示板
コンペ・公募, イベント等	デザインコモン前学務課掲示板 (学生生活関係) 学務課学生係 コース・専攻掲示板

(2) 郵便物等の取扱い

学生個人宛の郵便物や宅配便は取り扱いませんので、必ず自宅宛に配達するよう、発信元に知らせておいてください。なお、公認サークル宛の郵便物等は、学務課に設置してある各サークルのメールボックスに入れますので、定期的に見るようになっています。

(3) 電話の取り次ぎ

学生個人あての電話連絡は取り次ぐことができません。緊急時の連絡方法などは自分の責任で確立しておいてください。

4. 諸証明の発行

(1) 学生証

学生証は身分を証明する重要な証明書です。定期試験、履修登録の追加・変更、成績確認及び通学証明や学割証の発行などの際に必ず必要ですので、常に携帯するとともに、紛失や汚損のないよう大切に取扱いください。

万一、紛失又は汚損した場合には、速やかに学務課学生係へ届け出て、再交付を受けてください。

なお、再発行手数料として、2,000円の費用が必要となります。

学生証は、そのまま卒業まで使用できます。ただし、標準修業年限を超えて在学することとなったときは、新たに学生証を発行します。(有効期間1年)

(2) 通学証明書

通学で利用する公共交通機関の通学定期車乗券を購入する場合には通学証明書が必要です。購入申込書を兼ねた用紙が学務課学生係にありますので、必要事項を記入の上、学生証と一緒に提出してください。

(3) 学内自動発行機での証明書発行

在学証明書、成績証明書、修了見込証明書、健康診断証明書及び学生旅客運賃割引証(学割証)は、学内(大橋地区は学務課)に設置されている自動発行機で発行されますが、事前にオンライン申請が必要です。詳細は、以下の本学Webサイトをご参照ください。

九州大学Webサイト 各種証明書の発行

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/procedure/certificate/>



なお、学生旅客運賃割引証(学割証)の発行及びその利用に当たっては、以下の事項に留意してください。

○留意事項

実習見学や帰省など下記の目的でJRを利用して旅行しようとする場合に交付を受けて使用できます。

- ・ 休暇、所用による帰省
- ・ 実験実習及び試験などの正課の教育活動
- ・ 学校が認めた特別教育活動又は体育・文化に関する正課外の教育活動
- ・ 就職又は進学のための受験等
- ・ 学校が修学上適当と認めた見学又は行事への参加
- ・ 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
- ・ 保護者の旅行への随行

鉄道、航路または自動車線のいずれかの区間を片道100kmを越えて利用する場合、2割引の割引普通乗車券が購入でき、有効期間は発行の日から3か月です。

割引証1枚で往復分を購入することができます。不正使用は絶対にしないでください。

5. 学生生活、修学及び就職指導等に関する相談

(1) 修学上の相談

本学府の教育課程の内容やその履修方法について、不明な点や履修上の疑問点等があれば、遠慮なく学務課教務係職員へ相談してください。修学上に生じる個別の問題等についても、必要に応じて授業の担当教員に連絡をとるなどの取り次ぎを行います。

(2) なんでも相談窓口

学生生活上起こるどんな小さな疑問点や要望でも結構です。そのほか相談先がわからない場合等であっても、気軽に学務課学生係（10：00～16：00）に相談してください。

(3) オフィス・アワー制度

本学府では、教育改革の一環として「オフィス・アワー」の制度を設けています。大いに利用してください。

この「オフィス・アワー」制度は、教員と学生との信頼関係をより緊密なものとし、学生の皆さんが安心して学生生活を送ることができることを期待して各教員が研究室等で都合のよい日の一定時間（90分程度）を「オフィス・アワー」の時間帯に設定し、勉学、学生生活及び進路上の問題や個人的な心配事などの相談に応じるものです。所属するコース・専攻にとらわれることなく、どこのコース・専攻の教員でも相談できることになっています。各教員の「オフィス・アワー」の時間帯などはシラバス等で案内しますので、有効に活用してください。

なお、相談をする時は、教員の研究室を訪ねてください。電話又は電子メールを利用してかまいません。

(4) ハラスメントの相談

九州大学では、ハラスメントに関する相談や苦情の申し出に対応するため、相談窓口・相談員を配置しています。相談員への相談は面談によるほか、電話、手紙、電子メールでもできます。また、相談は被害者本人だけでなく、被害者から相談を受けた人又は被害を目撃した第三者でもかまいません。

相談者のプライバシーは必ず守られますので、相談したことがあなたの不利益になることは決してありません。詳細については九州大学HPで確認してください。

九州大学HP <https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/>

→「九州大学について」→「公表事項」

→「ハラスメントの防止・対策」



(5) 海外留学

九州大学では、国際的視野を持つ人材育成のため、大学間または部局間で学生交流協定を締結し、海外の大学との交換留学を奨励しています。

交換留学の場合、留学期間は1年以内で、一部の学生交流協定校を除き、九州大学に在学して授業料を納めていれば、留学先で授業料、検定料、入学金を納付する必要がありません。

また、留学先大学で修得した単位および在学期間は、九州大学の卒業要件として取り扱われます。ただし、修得単位の認定（単位互換）については、芸術工学府で審査があり、どこまで認定されるかは芸術工学府の判断となります。

協定校以外への留学は、留学先大学に授業料を納める必要があることから、留学期間によっては、休学の手続きが必要です。修得単位は、交換留学同様、審査を受けて認定が可能です。

(English Community Space)

平成26年度から、国際化促進のための取組として、大橋キャンパス内にEnglish Community Spaceを設置し、日本人学生と留学生が各種イベントを通じて多文化交流を行っています。English Community Spaceでは、いろいろな具材が混じった日本の“鍋”料理のように、多文化交流が進むようにというアイデアから、通称「CULTURE NABE」として活動しています。

例えばクッキングナイトのように外国の文化や料理を紹介するイベントなど皆さんが参加しやすい企画もたくさんあります。イベントの案内は、学生ポータルより随時お知らせしますので、ぜひご参加ください。

(国際交流ポータルサイト Geiko Global)

芸術工学部・芸術工学府では、海外からの留学生や本学から海外の大学への交換留学を希望する学生の皆さんをサポートするポータルサイトを設置しています。

芸術工学府HP <https://www.design.kyushu-u.ac.jp>
→「国際交流」



交換留学については、学務課へお問い合わせください。

【問い合わせ先】

学生係 TEL：092-553-9489 E-mail：gkggakusei@jimu.kyushu-u.ac.jp

教務係 TEL：092-553-4460 E-mail：gkgkyomu@jimu.kyushu-u.ac.jp

※留学に関するご相談は、グローバル学生交流センター（管理棟1階）まで

TEL：092-553-4650 E-mail：gkglobal@design.kyushu-u.ac.jp

なお、留学に関する情報は、次の九州大学および芸術工学府のホームページをご覧ください。

九大生のための留学情報 https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study	
九州大学協定締結校 https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/agreeview/worldmap.php	
芸術工学府HP https://www.design.kyushu-u.ac.jp	
国際交流ポータルサイト Geiko Global https://www.gg.design.kyushu-u.ac.jp/	

(6) 芸工サポーター

九州大学に新たに入学者の留学生が福岡での生活をスムーズに始められるよう、日本人学生や先輩留学生で構成されたサポートチームが新入留学生を支援する制度です。サポーターの活動は日本国内で出来る貴重な国際交流の機会であり、外国語力向上や国際的視野の拡大など、皆さんの成長にもつながるとも良い機会です。芸工サポーターに関する質問等は芸工インターナショナルオフィスまでお問い合わせください。

芸工インターナショナルオフィス（管理棟3F）

TEL：092-553-4652 E-mail：intl-ofc@design.kyushu-u.ac.jp

6. その他

(1) 学生定期健康診断

毎年4月には、病院地区および伊都地区で学生定期健康診断を実施しています。みなさんの健康をチェックするために必ず受診してください。毎年の健康診断は、学校保健安全法により義務づけられています。就職活動等において健康診断書が必要となります。健康診断を受診しなかった場合は大学から健康診断書を発行することができません。また、学生定期健康診断を受けた人は、健康診断証明書（無料）

を自動発行機で受け取ることができます。

キャンパスライフ・健康支援センターHP

<https://www.chc.kyushu-u.ac.jp/~webpage/>

→「学生の方へ」→「学生健康診断」



(2) 就職支援

芸術工学府では、各コース・専攻に就職担当教員を配置して、就職相談・指導・支援にあたっています。なお、求人票については、学務課内に設置しているファイルを閲覧することができます。

芸術工学府の就職活動について

ア. 就職情報の入手について、必要な情報は学生ポータルシステムまたは掲示板により連絡し、場合によっては、学務課学生係にて配布します。

イ. 学内・学外説明会、インターンシップ、イベント等就職に関する芸術工学府独自の情報については、学生ポータルシステムにて更新毎に配信します。

※検索する場合は【重要】就職関連情報（求人情報・説明会・インターンシップ・デザイン実習等）の情報配信についてを検索ください。

ウ. 九州大学（学府指定なし）への求人情報の閲覧は、九州大学HPの九州大学キャリア・就職支援システムを利用してください。利用するには初回登録が必要です。

九州大学HPには、他にOB・OG名簿や就職活動に係る情報が掲載されているので、参照してください。

※OB・OG名簿については、学務課学生係でも閲覧できます。

エ. 就職活動で不明な点は、大橋地区で相談ができます。水・金曜日12:20～16:40に受け付けています。九州大学HPの九州大学キャリア・就職支援システムから予約ができます。

また、九州大学には学務部キャリア・奨学金支援課が設置されており、①就職ガイダンス等の就職支援行事の開催、②各種就職情報の提供、③就職相談員の配置（大橋キャンパスには毎週水・金曜日12:20～16:40に相談員を派遣）、など就職活動全般の支援を行っています。

九州大学HP <https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/>

→「教育・学生支援」→「キャリア・就職支援」の各項目



(3) 構内交通規制

ア. 自動車の入構

学生の自動車での入構は、原則として認めません。身体に障がいのある学生及び社会人の大学院学生については、例外として自動車による通学を認めることがあります。希望者は、学務課学生係にご相談ください。

また、実験機材の搬入等で一時的に入構を希望する場合は、事前に「臨時入構許可申請書」を入構の3日前までに学務課学生係へ提出し、許可を受けてください。

イ. 駐輪場

構内の通行や教育研究の妨げにならないよう自転車、バイクは、必ず所定の駐輪場に置いてください。なお、駐輪違反のバイク等には定期的に取り締まりを実施し、空気を抜くなど厳しく対処します。

芸術工学府学生向けサイトも参照してください。

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>

→「学生支援」→「駐輪場・バイク置場」



(4) 学生生活上の注意事項

生活するうえでのトラブル回避や適切な対処のため、入学時に『学生ハンドブック』を配布しています。HP上からダウンロードもできますので、いざという時のため、いつも手元に置くよう心がけてください。

(ダウンロードの方法は以下のとおりです。)

九州大学HP <https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/>

→「教育・学生支援」→「生活支援（キャンパスライフ）」

→「各種パンフレット・手引き等」→「学生ハンドブック（PDF）」



学生生活に関する各種相談の連絡先一覧表

連絡先	電話番号	相談内容
芸術工学部学務課学生係	092-553-4586	各種相談全般
大橋キャンパス警務員室	092-553-4428	休日、夜間の事件・事故の緊急通報
キャンパスライフ・健康支援センター大橋分室	092-553-4581	健康相談全般
学務部学生支援課	092-802-5961	悪質な勧誘・薬物の目撃など
学生相談室	092-802-5881	学生生活・修学相談全般
福岡市消費生活センター	092-781-0999	契約トラブル・悪質商法など
ミズ・リリーフ・ライン	092-632-7830	女性を狙った犯罪等の相談(福岡県警)

7. 適正な研究の進め方を知ろう

「研究をする」とは、どんな活動でしょうか？研究を開始するためには、まず、研究対象についてこれまでにどんな研究が行われていて、何が判っているかを確認することが必要になります。あなたが研究対象とした事柄と同じ(ような)ことを研究してきた先人の成果・研究業績をまずはしっかりと確認する作業が必要です。先人の業績を無視したり、自分に都合の良いものだけを引用してはいけません。

適正な研究の進め方については、九州大学HPに掲載されているので、下記URLを参考にしてください。

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/research/ethics/propulsion/>



本学においては、文部科学大臣が定めたガイドラインに基づき、**「研究倫理教育」**をe-learningにより実施しており、研究開始前までに「研究倫理教育」の受講が義務づけられています。そのため、学生ポータルサイトで通知が届いたら、速やかに受講し修了証を発行してください。

8. サークル活動

サークル活動とは、正課外の活動として学生が自主的、組織的、継続的に営む団体の活動であり、その目的や内容等に対して大学が公認している活動です。

サークル活動の詳細については、芸術工学府学生向けサイトを参考にしてください。

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>

→「学生支援」→「課外活動」



団体（サークル）結成等

種 別	担当課・係	期 日	備 考
学生団体組織許可願	学務課学生係	その都度	規約及び構成員の名簿を添付のこと
学生団体継続許可願		3月末まで	

9. 大橋キャンパスの諸施設の利用について

大橋キャンパスには、次のような厚生施設や課外教育教養施設を整備しています。なお、施設の配置等については、巻末の図面を参照してください。

(1) デザインコモン

学生の学修支援施設として「デザインコモン」があり、1階に食堂及び売店、2階にキャンパスライフ・健康支援センター大橋分室があります。また、2階のアクティブラーニングスペースはイベント等専有での利用がない時間は自由に利用できます。

詳細については、下記URLを参考にしてください。

<Manly> <https://twitter.com/KyushuManly>



<九大生協> <https://www.coop.kyushu-u.ac.jp/>



(2) キャンパスライフ・健康支援センター大橋分室

大学に入学し、生活習慣や住環境が変化すると、心身に大きな変化が生じることがあります。大学では皆さんの心身の健康維持を図り、健康診断、健康相談、救急処置、カウンセリング等を行うため、医師、保健師（看護師）、臨床心理士を配したキャンパスライフ・健康支援センターを設置しています。

詳細については、下記URLを参考にしてください。

<https://www.chc.kyushu-u.ac.jp/~webpage/>



(3) 休養室（女性用）

女子学生・女性教職員が体調がすぐれない等の理由で一時的休養を必要とする場合などに気軽に利用できる休養室（女性用）をデザインコモン2階に設置しています。

利用の際は、管理棟2階の総務課庶務係にお申し出ください。

総務課庶務係 TEL：092-553-4400

(4) 附属図書館芸術工学図書館

芸術工学図書館は、教育・研究に必要な図書、雑誌、文献を収集、整理、保存して、広く学術研究・学習に利用することを目的とした共同利用施設です。

芸術工学図書館改修工事のため、共用施設棟1階に仮設図書館を設置しています。仮設図書館は新図書館開館準備のため、令和5年4月末で閉鎖し、芸術工学図書館は利用できなくなります。

新図書館は、令和5年6月にリニューアルオープンの予定です。

芸術工学図書館ホームページには、利用案内や開館スケジュール、イベントなどのお知らせを掲載していますので、ご覧ください。

芸術工学図書館HP

<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/libraries/design>



芸術工学図書館受付カウンター TEL：092-553-9490

(5) 工作工房

工作工房は主に、造形やデザインにおいて重要な素材に対する感性や表現力を身に付ける事を目的として、造形作品の制作やデザイン実習の課題制作の場として利用されています。

三階建ての工作工場の施設には、大型作業場、総作業室、溶接作業室など10を超える作業室があり、それぞれの作業室には、用途に合わせて木材加工から金属加工、組み立て、塗装と、多岐にわたる機械類が設置されています。

現在、保有している機器の種類は20数種類、総台数は手持ちの電動工具を含めると100台を超え、ノミやノコギリ、カンナをはじめとした手道具も数多く用意しています。

このように工作工房は、たくさんの道具や工作機械をそろえた実習施設ですから、作業をされる皆さんにはそれなりの危険が伴うとともに経験や技術が必要となります。利用の際には、必ず以下の注意事項をよく読んで、教員や工房職員の説明や指導を理解したうえで作業にのぞむようにしてください。

ア. 利用上の注意

安全のための基本事項

実習作業を始める前には作業内容を十分に理解し余裕のある計画を立てておきましょう。それぞれの作業に適した服装や装備、相応な緊張感も必要となります。また作業中は自分自身の安全だけでなく周囲の作業者の安全にも注意し、作業環境の整理整頓を心がけてケガや事故のない作業環境を目指しましょう。

(ア) 服装について

服装は原則として、袖口や裾の広がっていない長袖、長ズボン等の実習作業に適した動きやすいものを着用してください。半ズボンやスカート等、安全を損なうような服装での作業は認めません。

- 作業服は油や塗料、粉じん、切削片等で汚れます。
- タオル等を使用するときは、首に巻いたり、腰に下げたりしないこと。きちんとポケットの中に入れるか、作業台の上に置いておくこと。またペンダントやネクタイ等も、回転する機械類に巻き込まれる危険性が高いのであらかじめ外しておくこと。
- 工房への入室は必ず靴履きとし、靴底が滑りやすい物やサンダルなどは禁止します。
- 頭髪の長い場合は、まとめるか作業帽を使用すること。

(イ) 作業について

工作工房には、簡単な手道具から複雑な加工を自動的に行うNC加工機まで、数多くの工具や機械があります。いずれも正しい操作法を守って使用すれば安全ですが、不注意や油断、誤った知識や操作法は機器を破損するばかりでなく、使用者自身や周辺の作業者を巻き込む大きな事故へとつながります。

工作工房における機器の使用は、必ず前もって教員又は工作工房職員より注意並びに操作法の指導を受けてください。また、説明等を受けていても、使用の際には必ず担当教員又は工作工房職員の許可を得てください。

- 工作工房にある機械器具は、必ず担当教員または工作工房職員の許可を得て使用すること。
- 作業を行う場合は、事前に作業工程や内容を担当教員又は工作工房職員と検討し、使用する機械や作業の準備をしておくこと。
- 機械の周辺に不用品や障害物があると危険なので、作業前には、必ず機械の周辺の整理整頓をすること。
- 工作機械類の誤った操作は大きな事故につながるため、機械の操作方法等を確認して作業に入ること。
- 2人以上で作業する場合は、必ず合図を行うなど各自の安全を確認した上で、機械を操作すること。
- 事故防止のため、当事者以外の人は作業中の機械には近づかないこと。
- 落下物や高温の切削片の飛散等に備え、作業に応じてヘルメットや作業帽、ゴーグル（保護眼鏡）やマスク、保護手袋等の安全保護具を着用すること。
- 作業終了後は、使用した機械器具および床などの清掃、後片付けを行い、必ず担当教員または工作工房職員の許可を得て退室すること。
- 指導を守らない、もしくは著しく安全を損なうような行為がある場合には、

工房での作業を中止し、退出させる場合があります。

- 授業以外の時間に工房を利用する場合には、担当教員の承認を得て利用すること。

※利用の手続きや利用の際の注意点は「イ．利用手続きについて」の項を参照してください。

(ウ) 工作機械の色分けについて

工作工房では、工作機械を危険度に応じて以下のように色分けし、それぞれの機械の操作部又は電源のスイッチの所にカラーシールを貼っています。使用に際しては経験や技術の習熟が必要とされるものもあり、事前に担当教員または工作工房職員と作業内容を打ち合わせた上で、許可または立ち会い、指導のもとに使用してください。

(アカ) 危険度が高く、使用に当たっては専門的な知識と経験が必要であり、原則として関係教員または工作工房職員以外の使用を認めない。

(オレンジ) 危険度が高く、使用に当たっては高度の知識と経験が必要であり、関係教員または工作工房職員の立ち会いのもとに使用が認められる。

(キイロ) 使用法によっては危険な場合もあり、一定の知識と経験の積み重ねが必要とされ、関係教員または工作工房職員の指導のもとに使用が認められる。

(アオ) 基礎的な知識と経験があれば、関係教員または工作工房職員に申し出ることで使用が認められる。

※機器の色分け、必要とされる条件など、分からないことがあったら担当教員又は工作工房の職員にたずねてください。

イ. 利用手続きについて

工作工房は全学共同の実習施設です。利用の際には安全に気を付けて、お互いに工具や機械、作業スペース等を譲り合って利用してください。下記の要項及び注意事項や手続きをよく理解した上で、利用申請をお願いします。

(ア) 利用できる時間等について

- 工作工房の開室時間は、平日の9時から17時（金曜日は16時30分）まで。閉室30分前には作業を終了し、機器等の後片付け並びに清掃を始めること。
- 平日の12時から13時までの1時間は昼休みのため、工作機械等の使用は禁止します。
- 休業日は土曜、日曜及び祝日、年末年始。
- 上記の利用可能な時間帯でも、メンテナンス等により利用できない場合があります。

(イ) 授業以外での利用について

- 時間内での利用について (平日の9時から17時 (金曜日は16時30分) までの利用)
 - 時間内の利用を希望する場合は、利用前に以下のURLにて利用申請をすること。

<https://forms.gle/wJJPkFgso5dh5QsM6>



- 同じ時間帯に工作工房を利用する授業がある場合は、授業が優先される。
- 利用の際には、以下のURLにて利用申請の承認を確認すること。

<https://bit.ly/31MIGWF>



- 作業内容や使用する機械等によっては、教員や工作工房の職員との打ち合わせが必要になります。
- 時間外での利用について (平日の17時 (金曜日は16時30分) 以降と休業日の利用)
 - 時間外の利用を希望する場合は、工作工房時間外利用願いを工作工房管理室又は担当教員から受け取り、利用希望日前日の17時までに工作工房の管理室まで提出すること。
休日明け初日の利用を希望する場合は、休日前までに書類を提出すること。
 - 平日の17時 (金曜日は16時30分) 以降、または、休業日の作業は担当教員の監督下、20時までとする。
 - 作業室等の鍵の引き渡し並びに返却は、担当教員が行う。
- ※上記項目以外の事については、時間内の利用についての条項に準じます。

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>

→ 「学生支援」 → 「工作工房利用申請及び利用上の注意」



(6) 情報基盤室

ア. はじめに

情報基盤室の情報演習室とコンピュータールームは、授業で使用する時間外はレポート作成や情報収集などの学習のために自由に利用することができます。また、ブラックルームでは、映像音響作品を制作・編集したり視聴したりすることができます。

イ. 各施設の場所と利用時間

コンピュータールーム、情報演習室及びブラックルームの詳細は以下のとおりです。

表1 部屋の詳細

○情報演習室とコンピュータールーム

部屋名(階)	席数	備考
情報演習室(1階)	54席 (講師席含む)	自由に利用可能(授業優先)
コンピュータールーム(2階)	24席 (講師席含む)	

○ブラックルーム(予定)

部屋名(階)	備考
ブラックルーム1(2階)	防音室となっており、映像や音響の高度な編集が可能
ブラックルーム2(2階)	

表2 利用可能時間

○情報演習室とコンピュータールーム

月	平日	土曜・日曜・祝日
4～7月, 10～2月	9:00～20:50	休館
8, 9, 3月	9:00～16:50	休館

○ブラックルーム(予定)

月	平日	土曜・日曜・祝日
1～12月	9:00～16:50	休館

ウ. 利用方法

○情報演習室とコンピュータールーム

授業で使用する時間外であれば自由に利用することができます。

○ブラックルーム

予約したうえで利用することができます。

エ. 利用上の注意

- 研究・教育以外の目的には利用しないでください。
- 席を離れる際は、セキュリティの観点から貴重品は持ち歩くようにしてください。
また、多くの人が入り出るので、忘れ物をしないよう私物の管理は適切に行ってください。
- 臨時の休館等のお知らせは、建物入口近くに掲示するとともに、次の情報基盤室のWebサイトで行います。

情報基盤室

<https://www.imo.design.kyushu-u.ac.jp/>



(7) 体育施設

大橋キャンパスの体育施設には次のようなものがあります。

これらの体育施設の使用については、授業や公認サークルでの使用を優先します。したがって、授業や、公認サークルが使用しているときは、原則として使用できませんので、注意してください。

ア. 体育館

利用時間は次のとおりです。

平日 9:00~21:00

土曜日・日曜日・祝日

開館しない。ただし、使用したい場合は、使用日の3日前（土・日・祝祭日を除く）までに学務課学生係へ願い出てください。

イ. 運動場

土曜日・日曜日・祝日に使用したい場合は、使用日の3日前（土・日・祝祭日を除く）までに学務課学生係へ願い出てください。

ウ. テニスコート

土曜日・日曜日・祝日に使用したい場合は、使用日の3日前（土・日・祝祭日を除く）までに学務課学生係へ願い出てください。

10. 安全の手引き

この便覧には「安全の手引き」の一部を掲載しています。詳細については芸術工学府学生向けサイトも参照してください。

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>

→「学生支援」→「安全の手引き」



(1) 学内生活及び研究活動における安全の心得

ア. 学内生活上の一般的心得

- (ア) 消火器、消火栓、火災報知器、非常電話、避難器具の設置場所を確認しておくとともに、これらの操作法についても熟知しておくこと。
 - (イ) 研究室や実験・実習室内の備品で地震の際に倒れる恐れのあるものは固定しておくこと。
 - (ウ) 研究室や実験・実習室の整理整頓を常に心掛けること。
 - (エ) 大学施設の使用について、止むを得ず夜間学内に留まる場合は、自らの安全に十分に注意すること。
 - 止むを得ず時間外（21時以降）に使用する際は、[※]施設管理者に了解を得た上で、事故や騒音等が発生しないよう適切な使用に努めること。なお、社会常識を逸脱した時間（0時以降）での使用や騒音等は厳に慎むこと。
 - 目的外で使用する場合は、時間内外を問わず、施設管理者に了解を得た上で、適切な使用に努めること。
- ※施設管理者 例 研究室…教員、教室…学務課
- (オ) 不審者に十分注意すること。
 - (カ) 飲酒について

20歳未満の飲酒は法律で禁止されています。十分に注意を払い、飲酒事故防止に努めてください。イッキ飲みや飲酒の強要は厳に慎んでください。懲戒の対象となる場合もあります。

また、次のことに注意すること。

- 飲めない人には、すすめない。
- 食べながら、ゆっくり飲む。
- 飲み過ぎないように、「ほろ酔い」で切りあげる。
- 飲酒・酒気帯び運転は、絶対しない。

(キ) 懲戒について

本学の規則に違反し、又はその本分に反する行為があったとき、退学や停学、訓告等懲戒の対象となる場合があります。例えば、窃盗（空き巣、置引き、万引き等）の犯罪行為を行った場合は、退学、停学又は訓告。他者に飲酒を強制し、死に至らしめた場合は、退学又は停学。インターネット等において誹謗中傷により他者の人格を傷つける行為等を行った場合は、退学、停学又は訓告の対象となります。

(ク) キャンパス内での喫煙について

大橋キャンパスは全面禁煙です。喫煙はキャンパス外の喫煙可能な場所で行ってください。

イ. 研究実験・実習のための一般的心得

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>

→「学生支援」→「安全の手引き」



ウ. 火災防止対策のための一般的心得

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>

→「学生支援」→「安全の手引き」



エ. 交通安全に関する一般的心得

学内外を問わず、交通安全には十分留意し、交通規則を遵守し、交通災害の防止に努めなければなりません。

また、事故を起こした場合又は事故に遭った場合は、必ず学務課学生係に相談してください。

(ア) 学内における注意事項

学内においては、教育・研究の場であることを自覚し、静穏な環境の維持と歩行者の安全な通行を確保するために、自動車・バイク・自転車等の車両の交通については以下の事項を遵守してください。

- 自動車での通学は、身体障がい者又は社会人大学院学生等のみ申請ができ、毎年度更新しなければならない。
- 道路標識に従って運転し、時速15km以下の速度で通行しなければならない。
- 駐車・駐輪場以外の場所に駐車してはならない。特に、消防車、救急車等の緊急時の活動を妨げないように、消火栓付近その他駐停車禁止場所での駐車を厳禁する。

- 本学が指定する構内指定区域外への進入を禁止する。
- 構内には自転車・バイク等を放置しないこと。
- むやみに警笛やエンジンの高音を発して、研究・教育活動を妨害してはならない。
- 事故に備えて、できるだけ任意保険に加入してください。
- 道路上及び広場等でのキャッチボール、ローラースケート、スケートボード等をしてはいけない。

(イ) 学外における注意事項

交通事故を起こさないためにも以下のことを心がけて運転してください。

- 人の生命の尊さを知って運転すること。
- 思いやりと譲り合いの気持ちを持って運転すること。
- 自分の運転能力にあった運転をすること。
- 心身の状態を良好に保って運転すること。
特に、過労、飲酒、病気、携帯電話等に注意すること。
- 常に冷静な気持ちを保って運転すること。
特に、「いそぎ・あせりの心理」、「怒りの心理」、「自己中心の心理」等に注意すること。

オ. 地震に対する安全対策

地震、台風、豪雨、噴火等の自然現象によってもたらされる災害は自然災害と呼ばれています。これらの自然災害の中で最も恐ろしいのは地震です。なぜなら、地震は、構造物の破壊、火災、地すべり崖崩れ、津波等の多岐にわたる災害をもたらす、そのいずれもが多数の人命を一瞬にして奪う可能性があるからです。また、そのような地震が「いつ」・「どこで」・「どのくらいの大きさ」で起こるかを予知することは不可能であるからです。身を護るため、被害を軽減させるために、万一の地震に備えて各自で常に対策を立てておきましょう。

地震に対する安全対策の詳細については、芸術工学府学生向けサイトを参考にしてください。

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>
→「学生支援」→「安全の手引き」



カ. 九州大学安否確認システム (ANPIC)

九州大学では、大規模災害等の危機発生時における安否確認を迅速かつ確実に実施するため、「九州大学安否確認システム (ANPIC)」を導入しています。

福岡県及び福岡県に隣接する府県で「震度5強」以上の地震が発生した場合や、その他大規模災害等が発生した緊急時において、学生基本メールに安否確認メールが一斉送信されます。速やかに身の安全を確保するとともに、自身の安否状況について必ず大学本部に報告してください。

九州大学安否確認システム (ANPIC)

<https://anpic-kyushu-u.jecc.jp/kyushu-u/>



キ. コンピュータネットワークを活用する場合の一般的心得

近年のインターネットの普及に伴い、教育・研究などの目的に限らず、日常的にコンピュータネットワークを利用する機会が増えています。インターネットは大学内外を問わず世界各国で非常に多数の人が利用しているという性質上、一般社会と同じくネットワーク上での情報に関しても注意を払わなくてはなりません。

- (ア) 不用意に自己や他人の情報を公開しないこと。氏名・住所・電話番号・クレジットカードの番号などの情報は、商業的な目的だけでなく、時には犯罪に利用される危険がある。
- (イ) ネットワークを通して秘匿性の必要な情報をやりとりすることは極力避けるか、暗号化などの方策を施した方が無難である。第三者によって通信中の情報を受信・加工・捏造(ねつぞう)することが可能なことがある。
- (ウ) 悪意ある第三者やコンピュータウイルスなどによって、手元のコンピュータのソフトウェアやデータ環境が破壊されあるいは改竄(かいざん)されることがある。パスワードの管理やネットワークからのログインの許可体制に注意するとともに、出所不明なソフトウェアの使用は極力避けるなど注意を払うこと。
- (エ) 意識的、無意識的に関わらず、法に抵触する行為は避けること。例えば、以下のようなことに留意すること。
 - ホームページを制作する場合には、他人の音楽、絵画・漫画、写真などを使いがちであるが、著作権のあるものを使う場合は権利者の許諾を得ること。
 - コンピュータ・プログラムも音楽や絵画と同じように著作物としての保護があるので、私的使用のための複製など法律が認めた一定の場合以外は、無断で複製しないこと。

- 自分のホームページに他人の論文などを無断で引用できる場合があるが、それは引用する必然性があること、自分の論文が主で他人のそれは従であること。「」を付けるなど引用部分を明らかにすること、出所を明示するなどの条件を全てクリアしなければならないこと。
 - インターネットで他人のプライバシーを侵害するようなことをしたり、他人を誹謗（ひぼう）中傷したり、猥褻（わいせつ）な画像を流すなど、法令に違反するようなことは大学生として厳に慎むこと。
 - 古文書などのように著作権の保護期間の消滅しているもの（一般には著作者の死後50年間で消滅するものが多い）は自由に使えること。また、著作権の放棄をした著作物もその条件に従った範囲内での利用は可能であること。
- (オ) Twitter等のSNSは、不特定多数の人が閲覧できるサービスであるため、そのことを忘れずに軽率な書き込みをしないこと。社会的責任を問われる場合や、個人情報保護法などの法律に抵触する場合もあり、懲戒の対象となる場合がある。

ク. 海外渡航時の注意事項

- (ア) 海外渡航の届け出を学務課学生係へ提出する。
- (イ) 身の安全確保に十分注意を！
- (ウ) 無理なプランは避けましょう。
- (エ) 在外公館のアドバイスや勧告には従いましょう。
- (オ) 健康管理や携行医療品について、医師のアドバイスを受けましょう。
- (カ) 事件・事故にあったら、在外公館へ連絡・相談を！
- (キ) 外務省渡航登録サービス（3か月未満：たびレジ、3か月以上：在留届け）
海外渡航前に「外務省渡航登録サービス」で登録を行ってください。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp>



(2) 緊急時の対応

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>
→ 「学生支援」 → 「安全の手引き」



(3) 課外活動における安全の心得

学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>
→ 「学生支援」 → 「安全の手引き」



11. 受賞情報の報告について

学生の皆さんの作品・論文・研究成果等がコンペ等で表彰を受けた場合には、部局での学生表彰の資料に活用したり、芸術工学府HP等での公表をしたいので、その都度、指導教員へ報告してください。

報告の様式は芸術工学府学生向けサイトに掲載していますので、ダウンロードの上、必要情報を記入し指導教員へ提出してください。

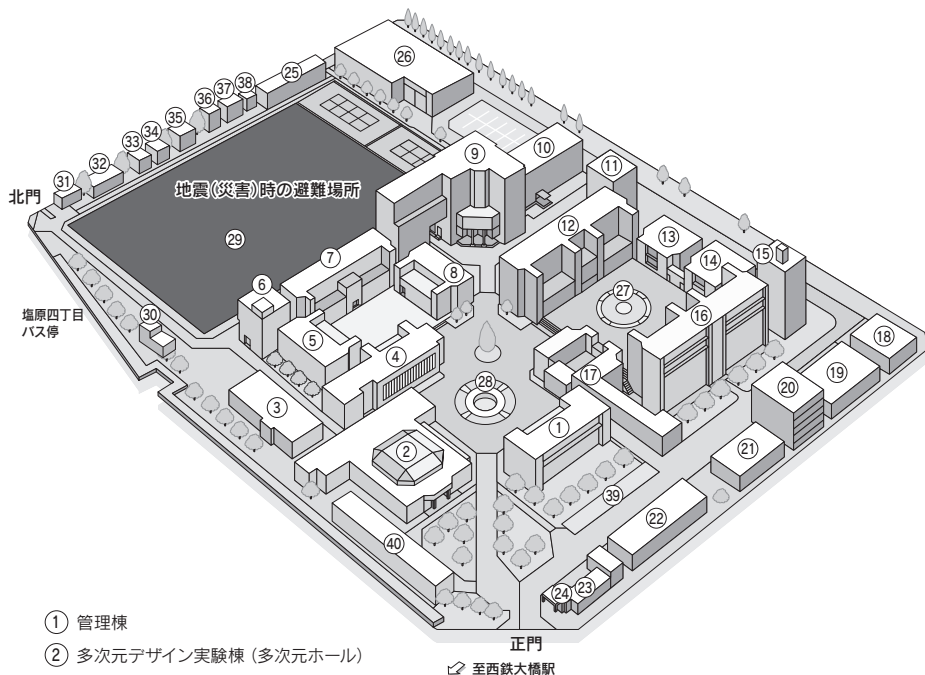
学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>

→ 「学生支援」 → 「受賞情報報告書」



付 録

1. 学内建物配置図



- | | | |
|--|---------|---|
| ① 管理棟 | | |
| ② 次元デザイン実験棟 (次元ホール) | | |
| ③ 情報基盤室 (情報統括本部 大橋分室) | | |
| ④ 芸術工学図書館 | | |
| ⑤ 8号館 | | |
| ⑥ グローバルイノベーションセンター
アドバンスデザインプロジェクト棟 | ⑬ 画像特殊棟 | ⑳ 総合研究棟 |
| ⑦ 7号館 | ⑭ 音響特殊棟 | ㉑ 環境適応研究実験施設 |
| ⑧ 6号館 | ⑮ 3号館 | ㉒ 設備棟 |
| ⑨ 5号館 | ⑯ 1号館 | ㉓ 車庫 |
| ⑩ 共用施設棟 | ⑰ 工作工房 | ㉔ 守衛所 |
| ⑪ 4号館 | | ㉕ サークル共用施設 |
| ⑫ 2号館 | | ㉖ 体育館 |
| ⑬ 画像特殊棟 | | ㉗ フライバン |
| ⑭ 音響特殊棟 | | ㉘ 噴水 (池) |
| ⑮ 3号館 | | ㉙ グラウンド |
| ⑯ 1号館 | | ㉚ 居住空間実験住宅 |
| ⑰ 工作工房 | | ㉛ 環境実験棟 |
| | | ㉜ 印刷実験棟 |
| | | ㉝ 環境実験棟 |
| | | ㉞ 廃棄物置場 |
| | | ㉟ // |
| | | ㊱ 廃液倉庫 |
| | | ㊲ 返納倉庫 |
| | | ㊳ 自治会室 |
| | | ㊴ 備蓄倉庫 |
| | | ㊵ 学生部倉庫 |
| | | ㊶ 倉庫 |
| | | ㊷ バイク置場 |
| | | ㊸ デザインコモン |
| | | (食堂, 売店, キャンパス
ライフ・健康支援センター
大橋分室) |

※ 駐輪場は芸術工学府学生向けサイトを参照してください。

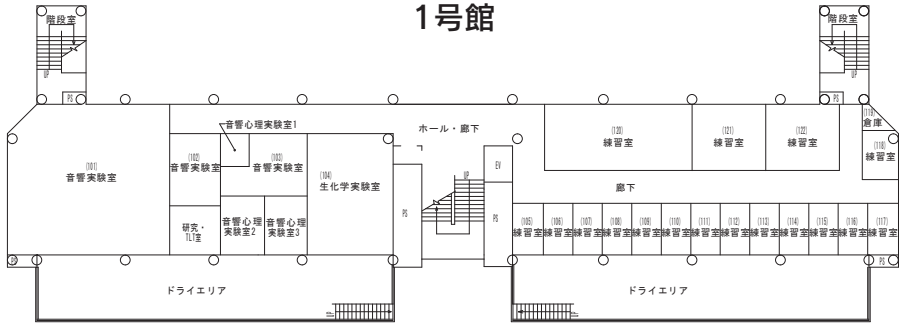
学生向けサイト <https://std.design.kyushu-u.ac.jp/>
→ 「学生支援」 → 「駐輪場・バイク置場」



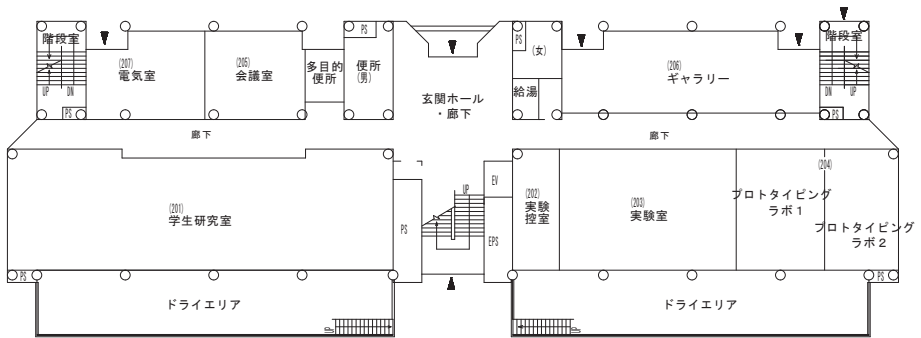
2. 各号館及び施設の平面図 (教員の異動等により、教員研究室等が) 変更する場合があります。

[令和5年3月現在]

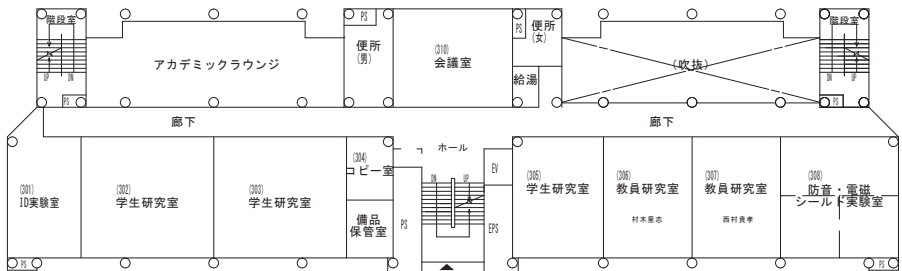
1号館



1階

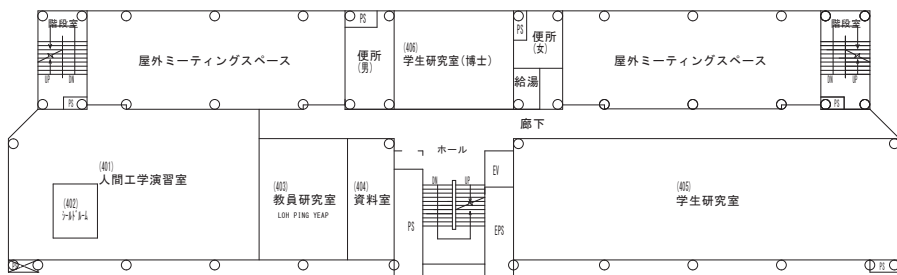


2階

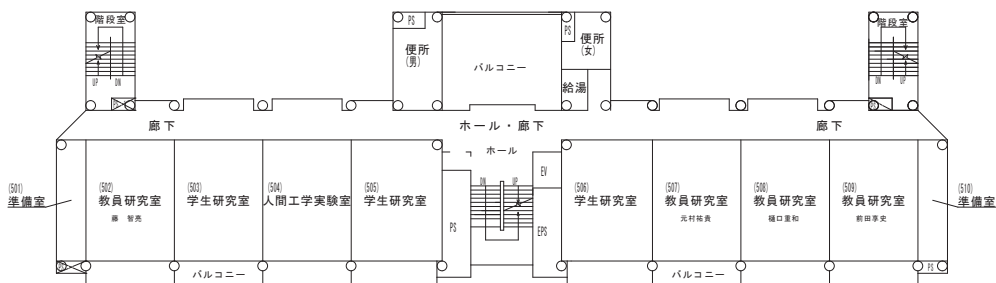


3階

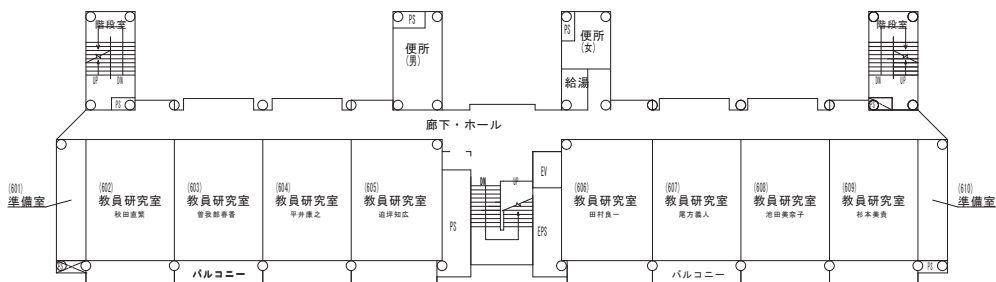
1号館



4階

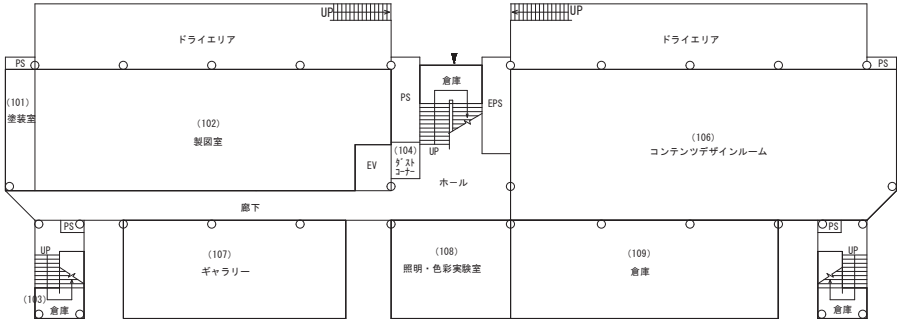


5階

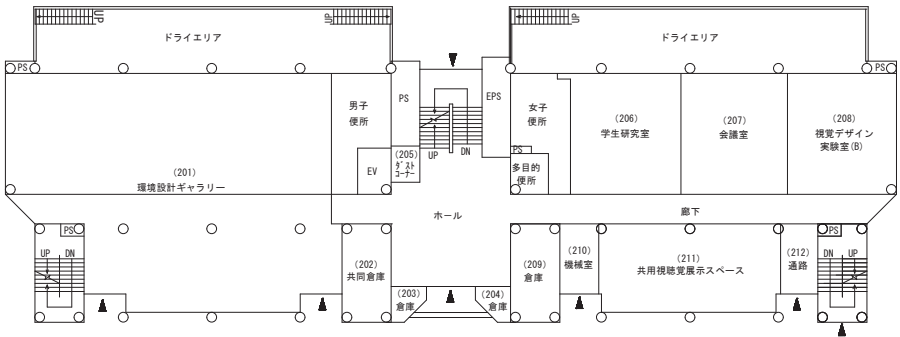


6階

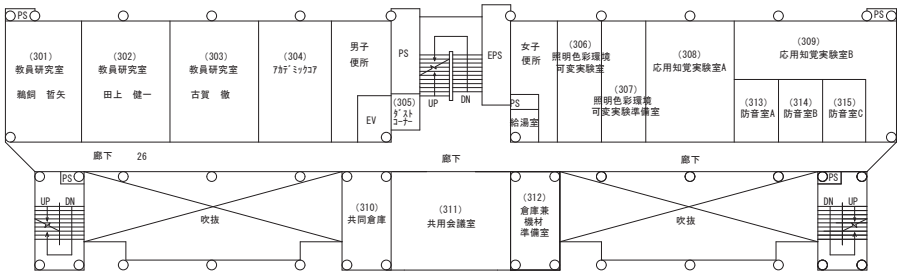
2号館



1階

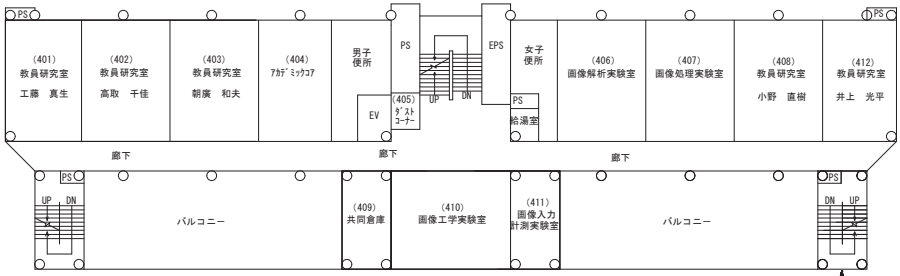


2階

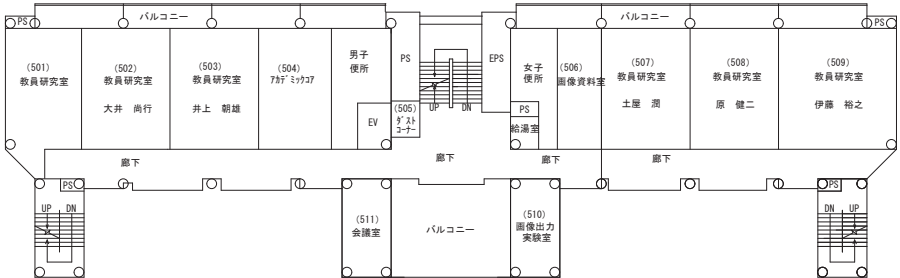


3階

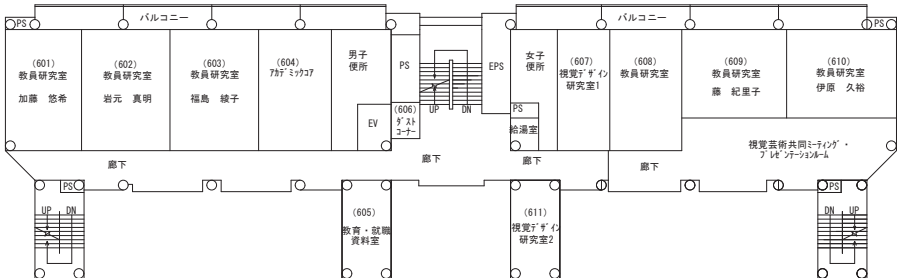
2号館



4階

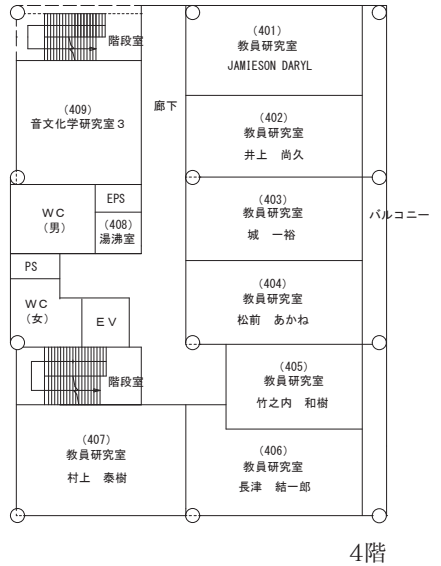
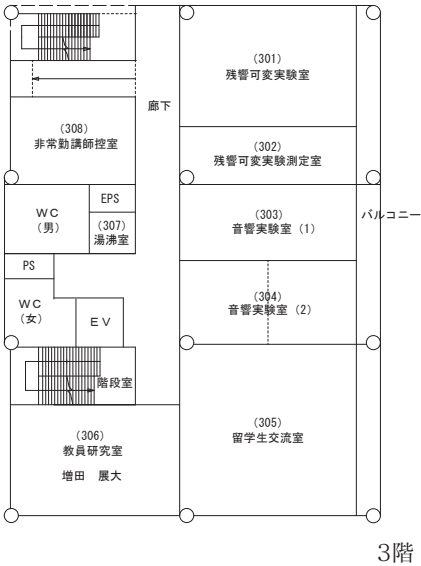
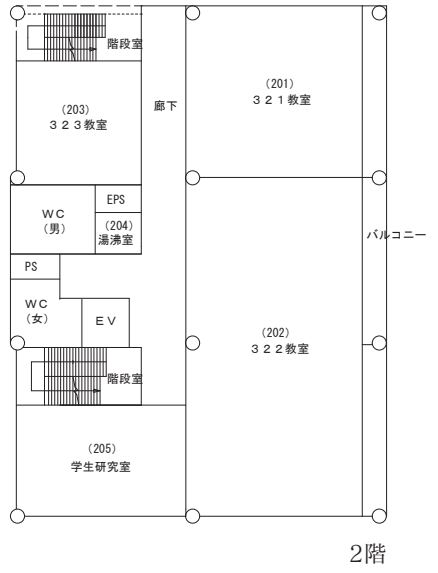
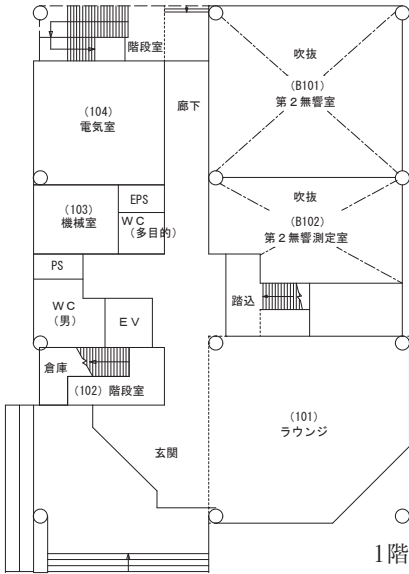


5階

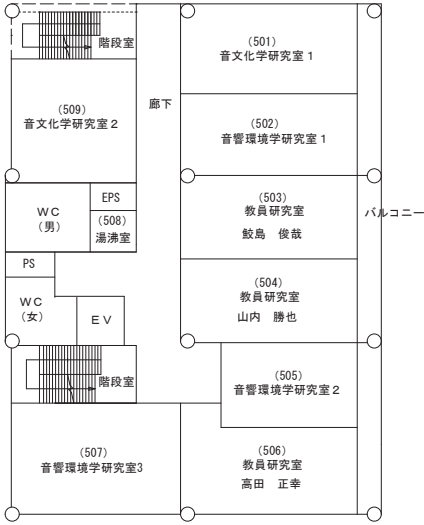


6階

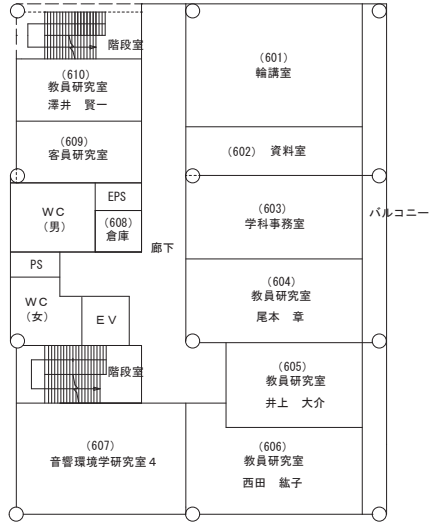
3号館



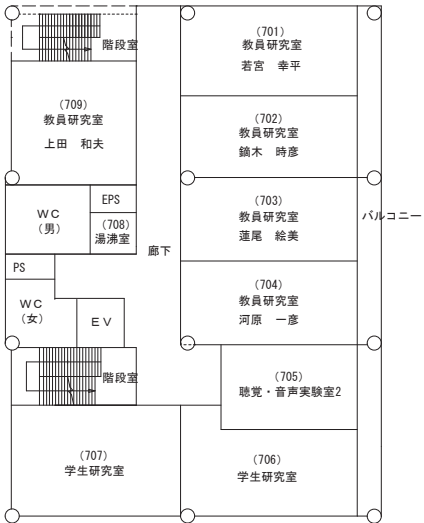
3号館



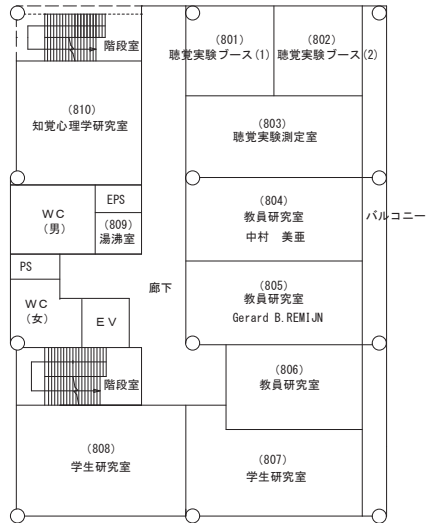
5階



6階

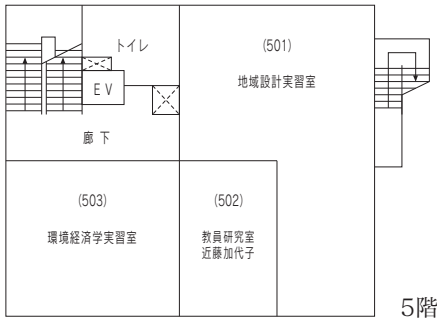
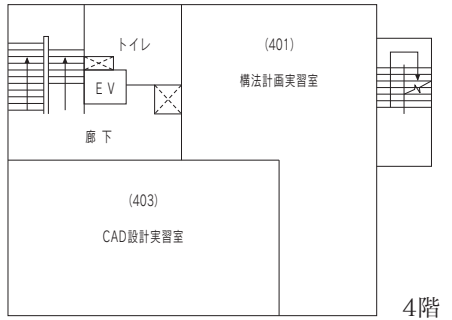
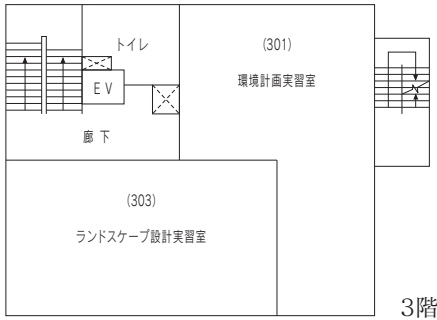
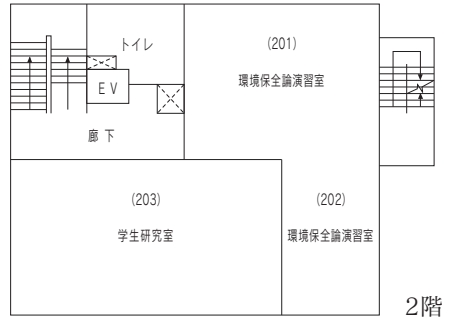
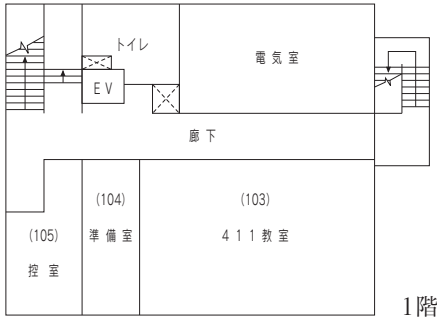


7階

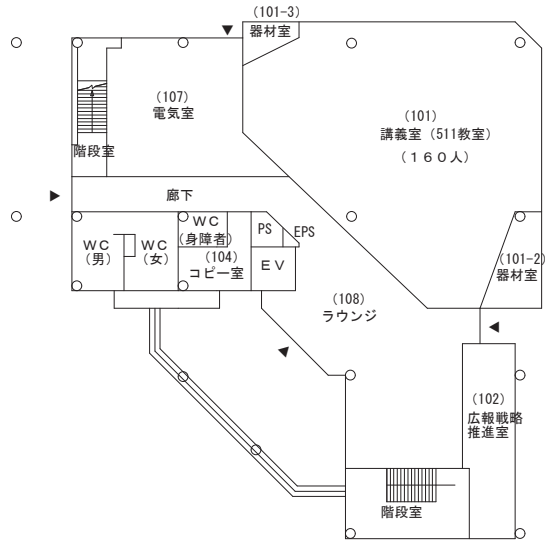
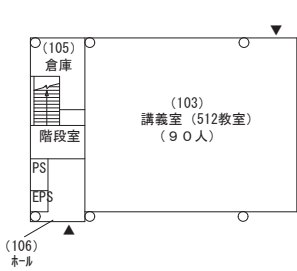


8階

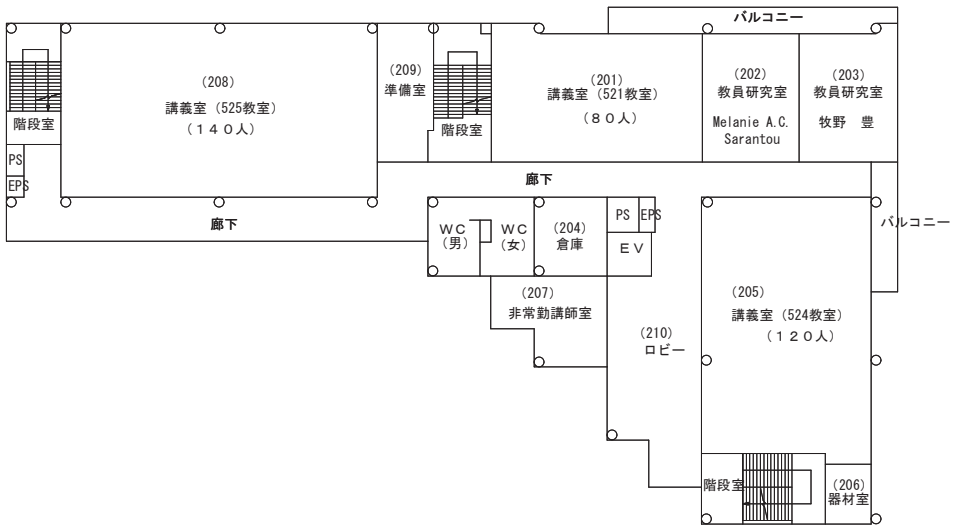
4号館



5号館

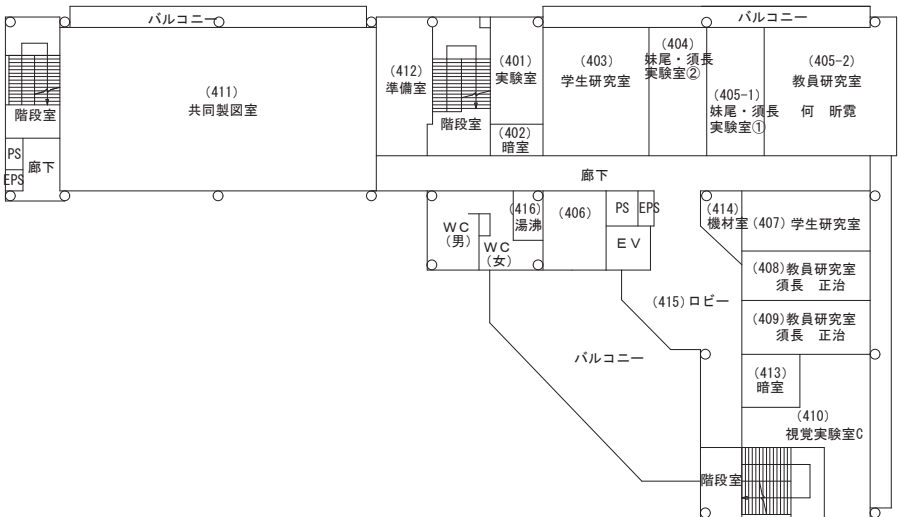
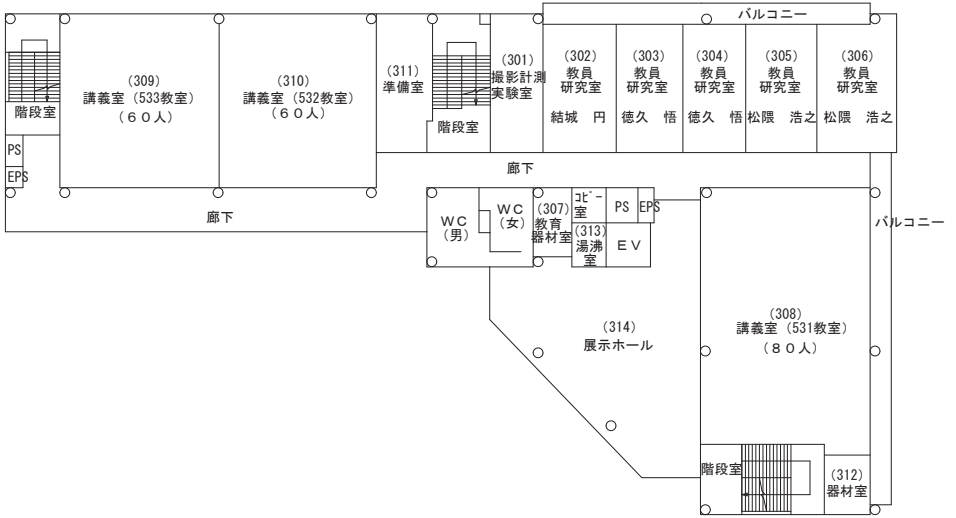


1階

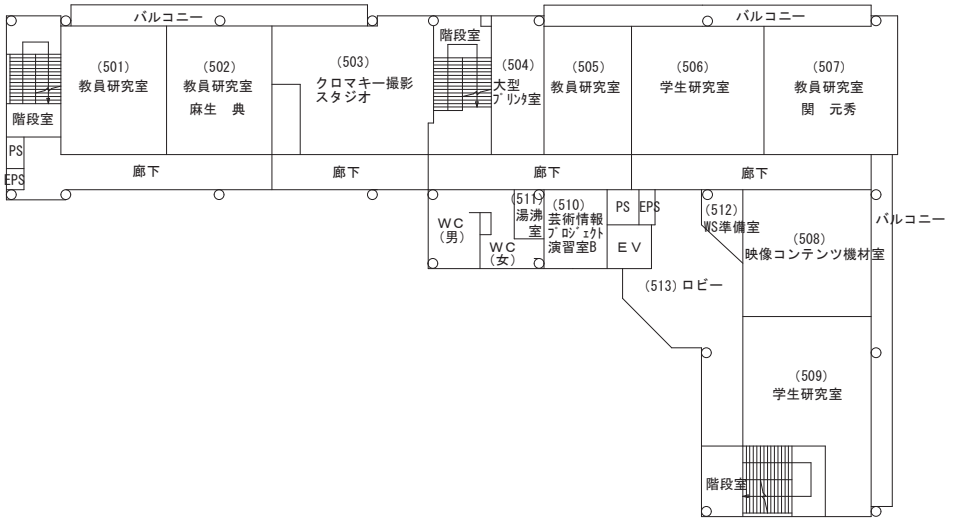


2階

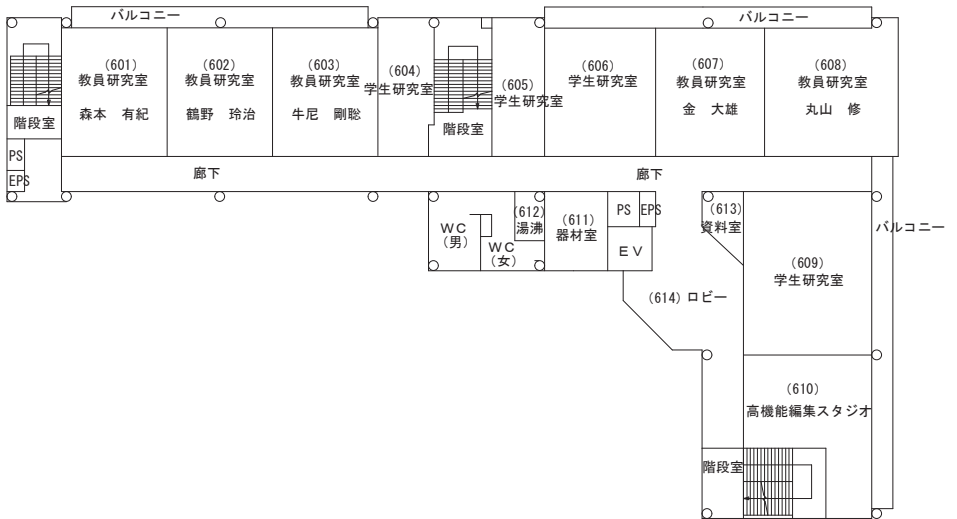
5号館



5号館

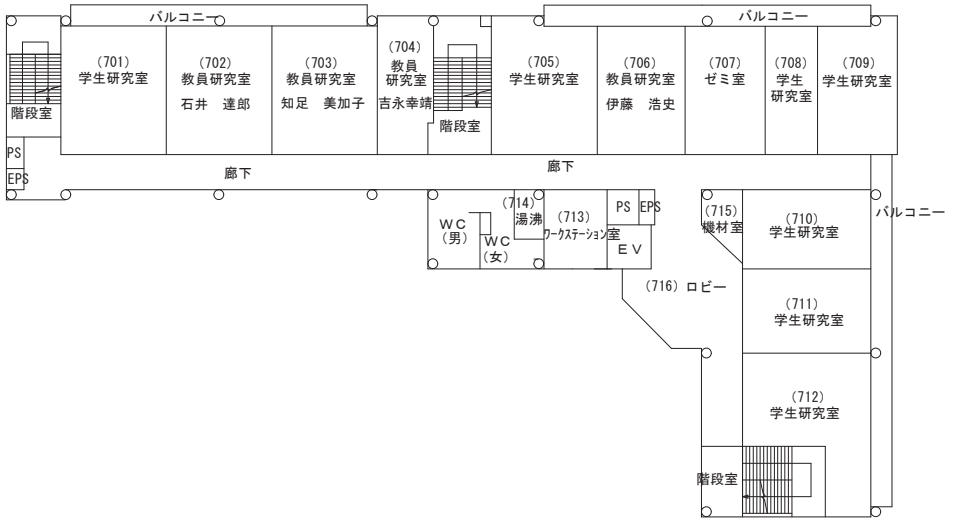


5階



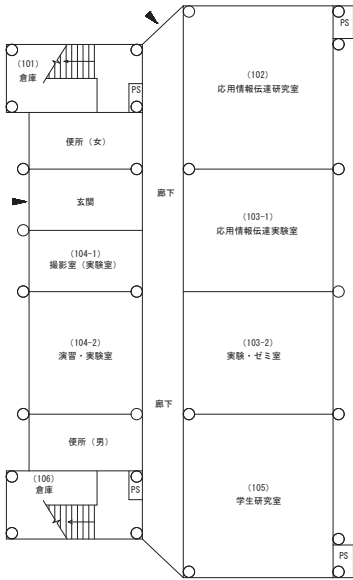
6階

5号館

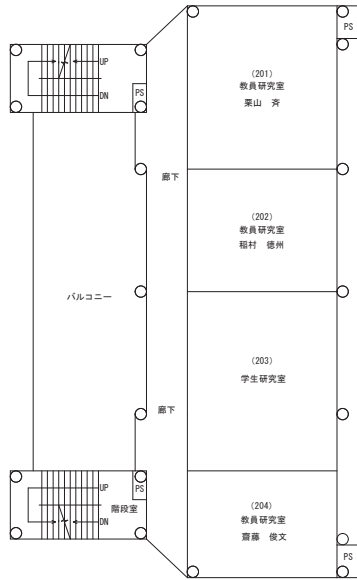


7階

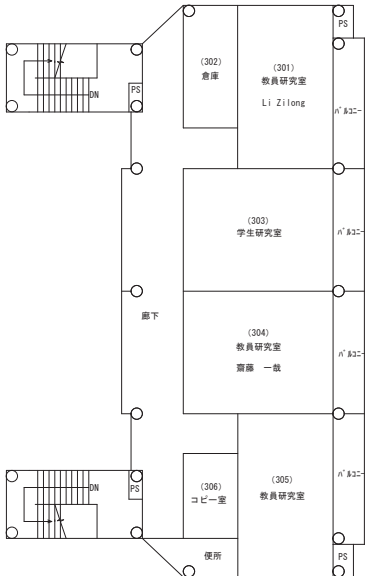
6号館



1階

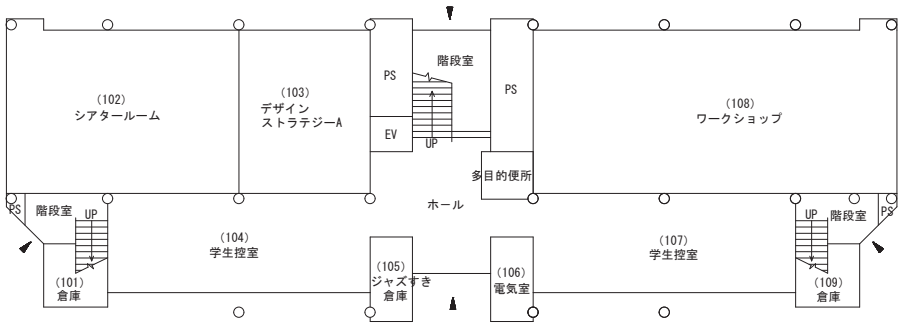


2階

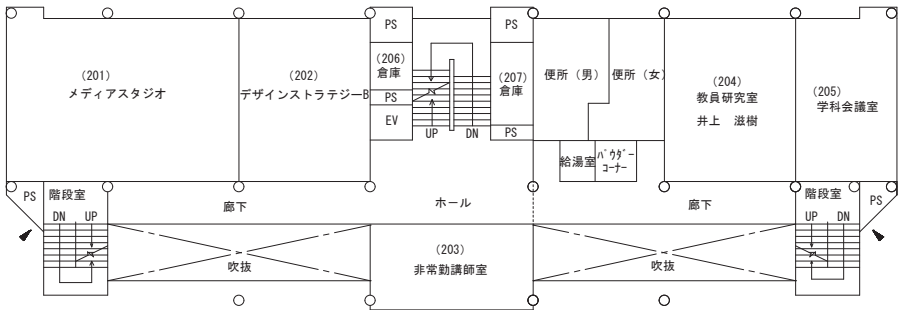


3階

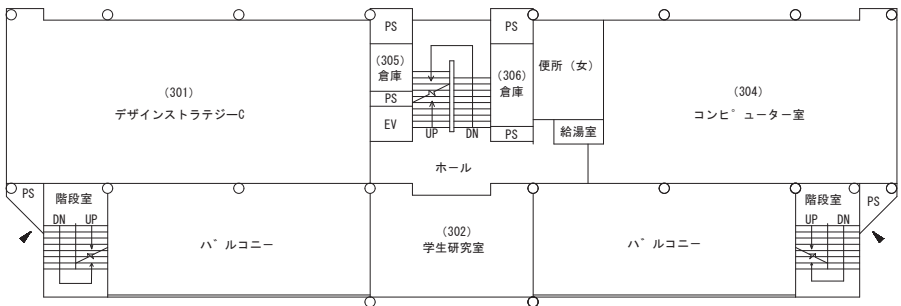
7号館



1階

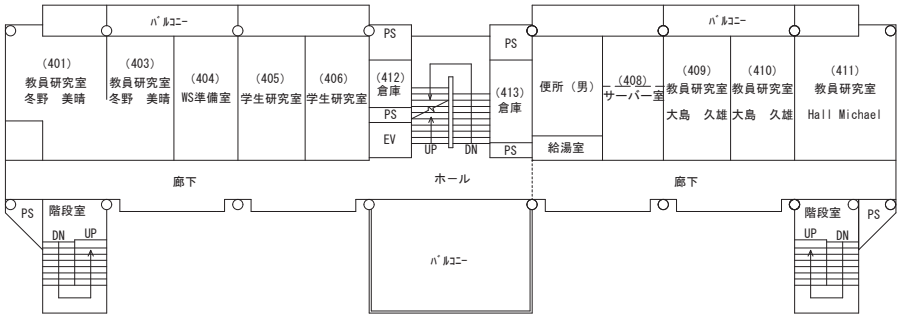


2階



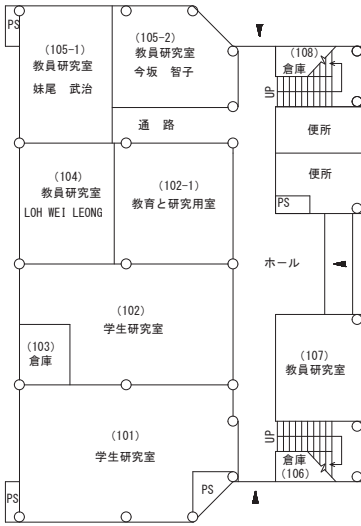
3階

7号館

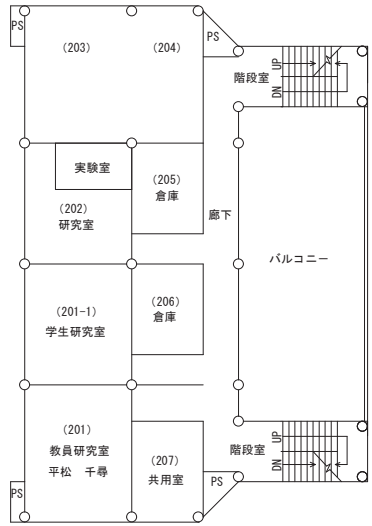


4階

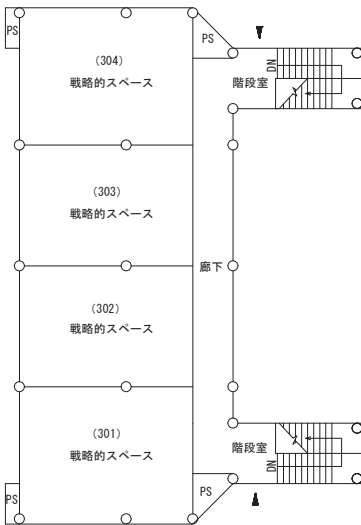
8号館



1階

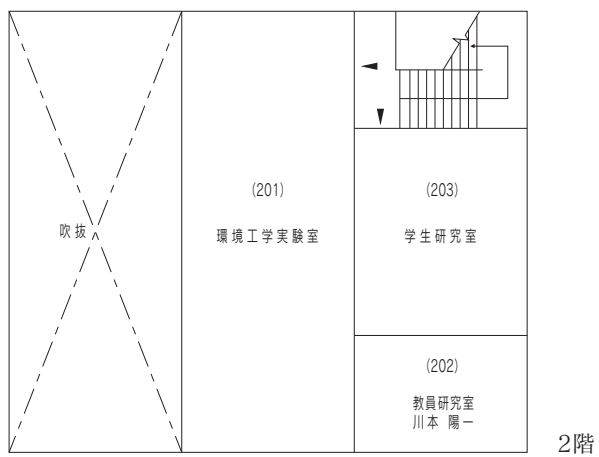
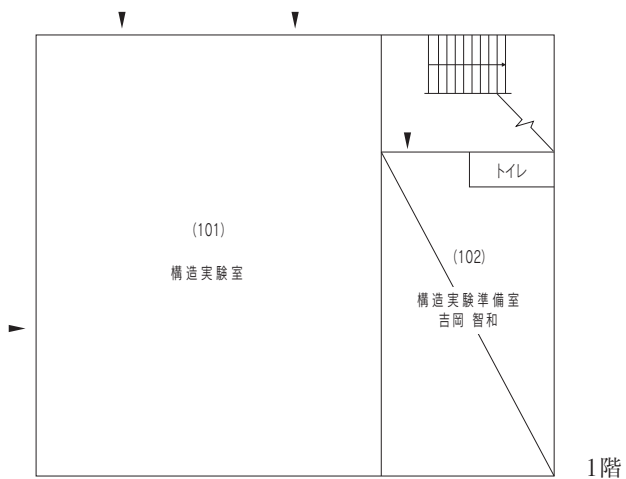


2階

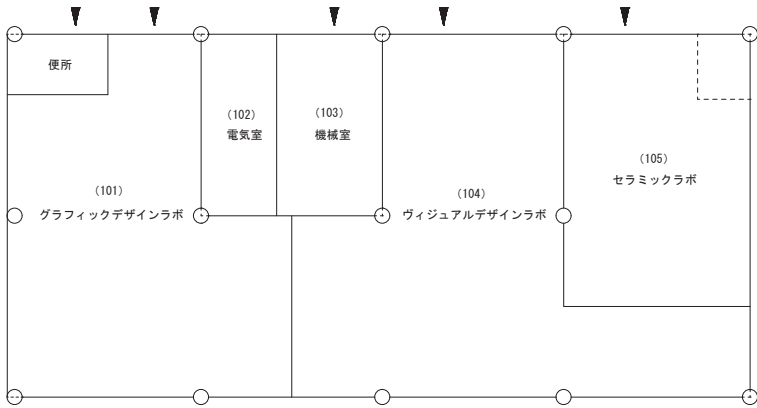


3階

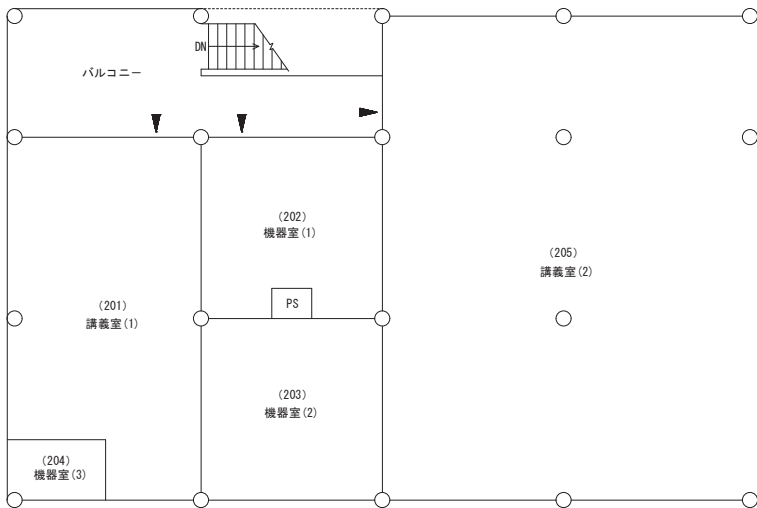
環境実験棟



印刷実験棟

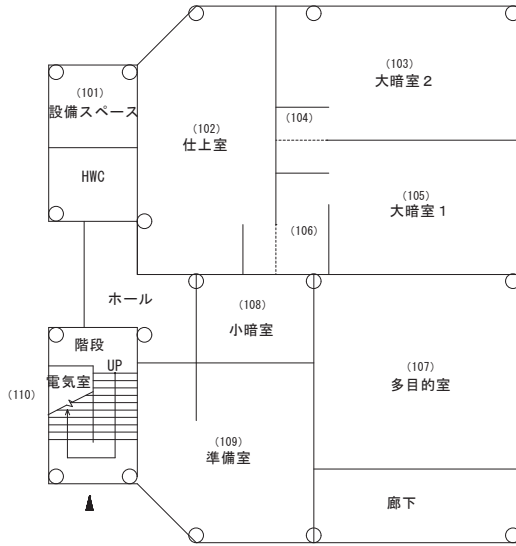


1階

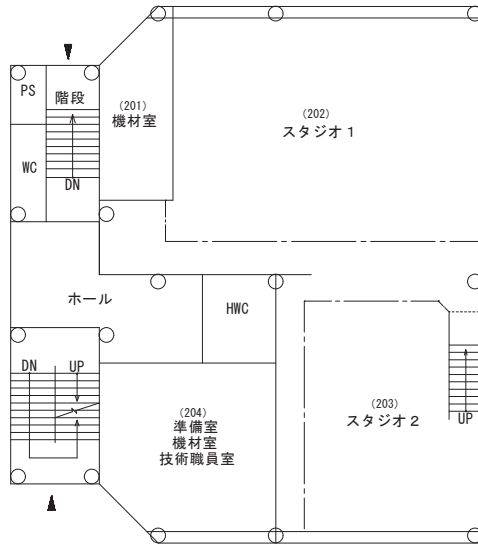


2階

画像特殊棟

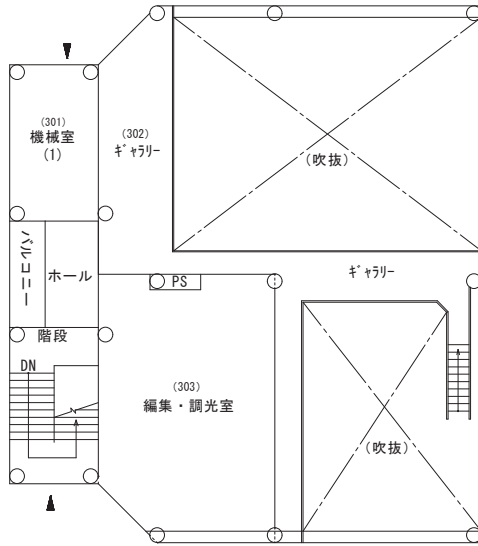


1階



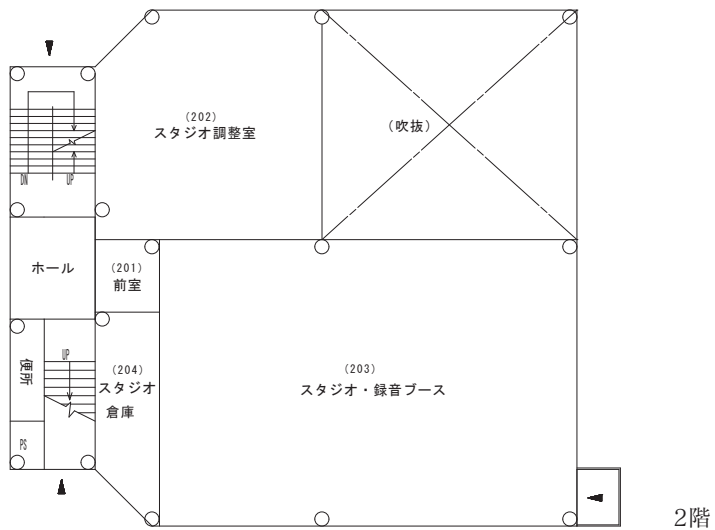
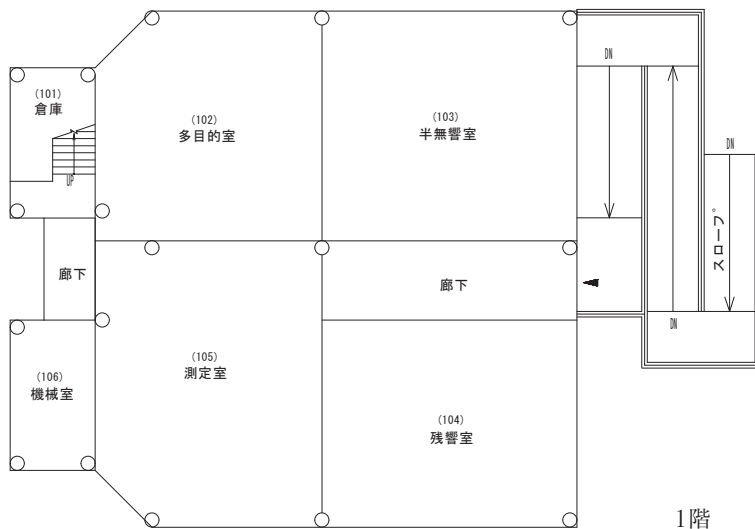
2階

画像特殊棟

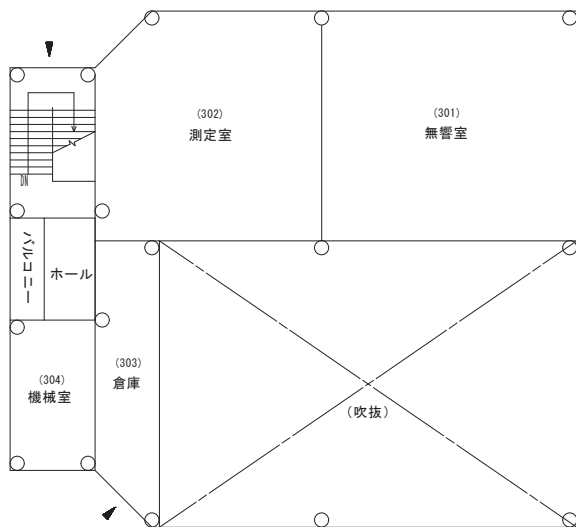


3階

音響特殊棟

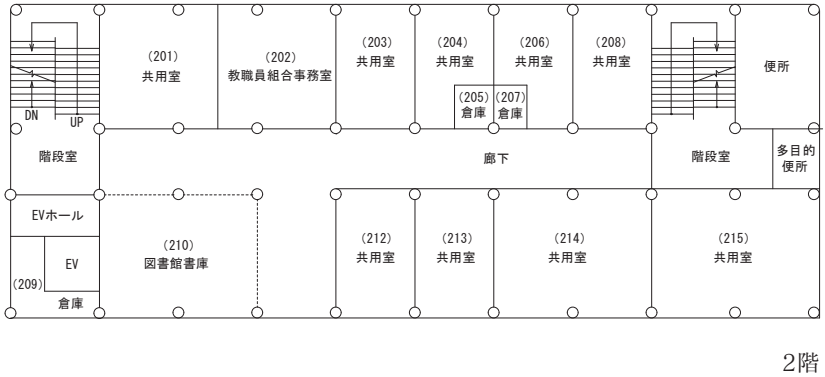
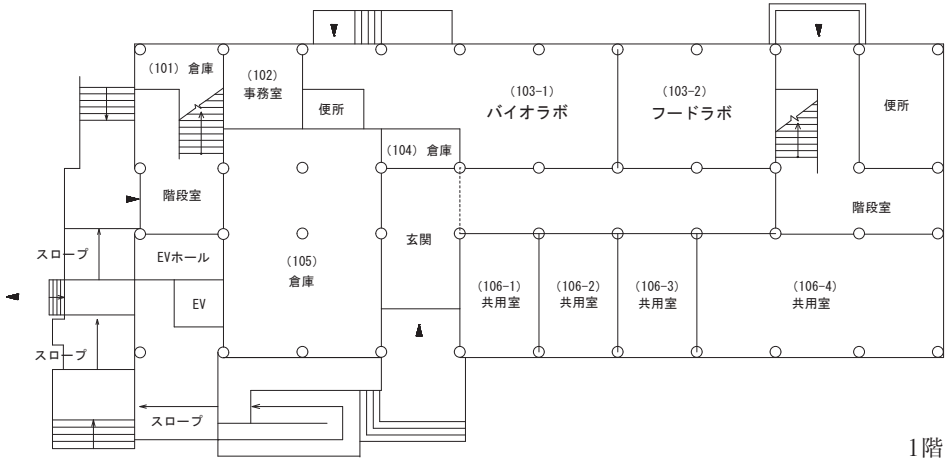


音響特殊棟

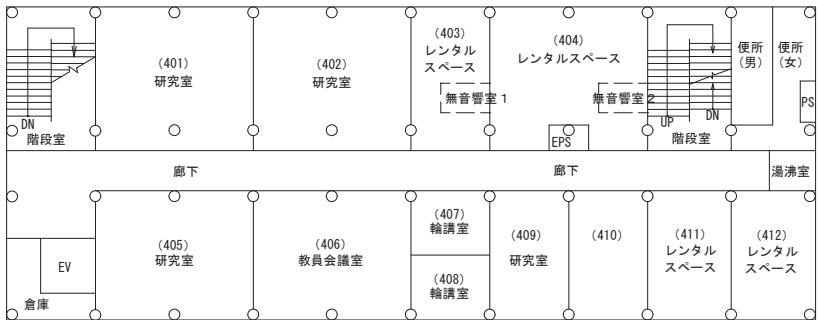
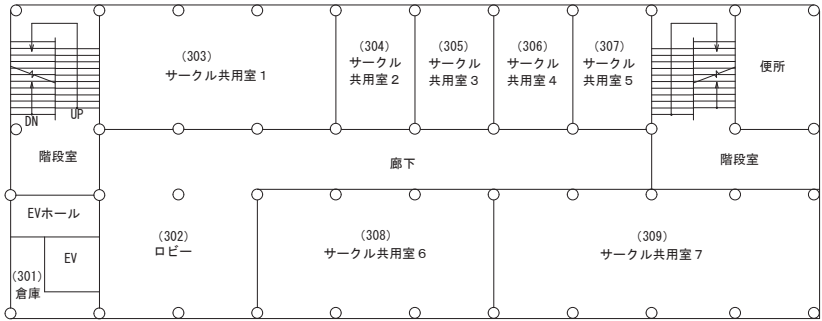


3階

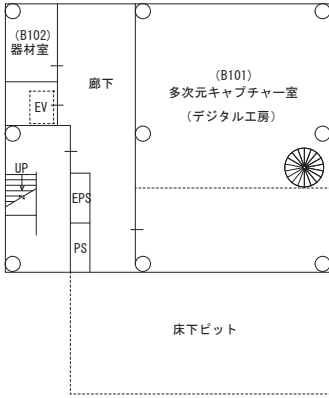
共用施設棟



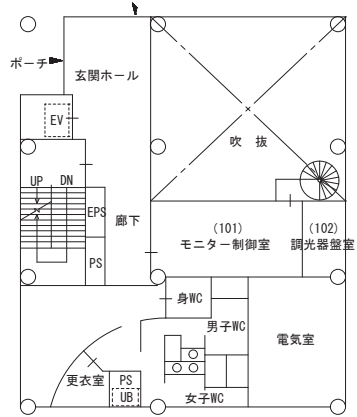
共用施設棟



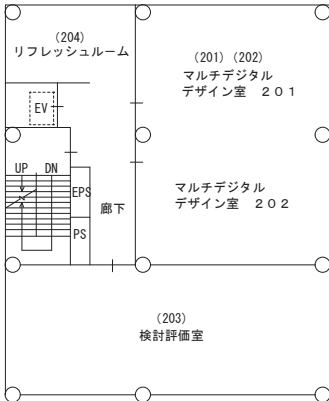
総合研究棟



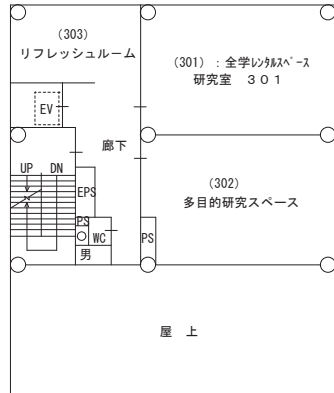
地下1階



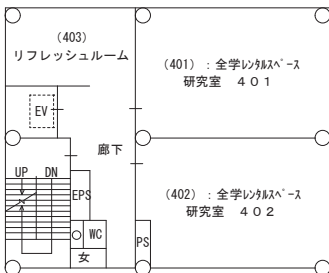
1階



2階

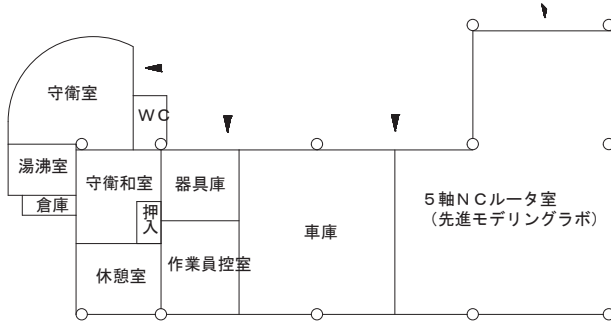


3階

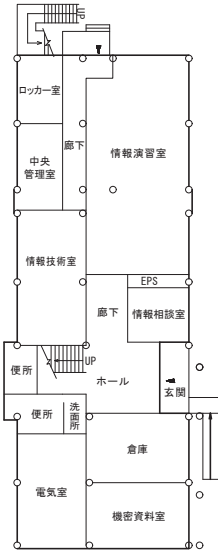


4階

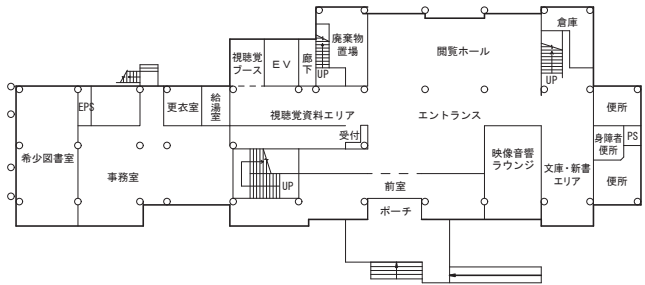
車庫



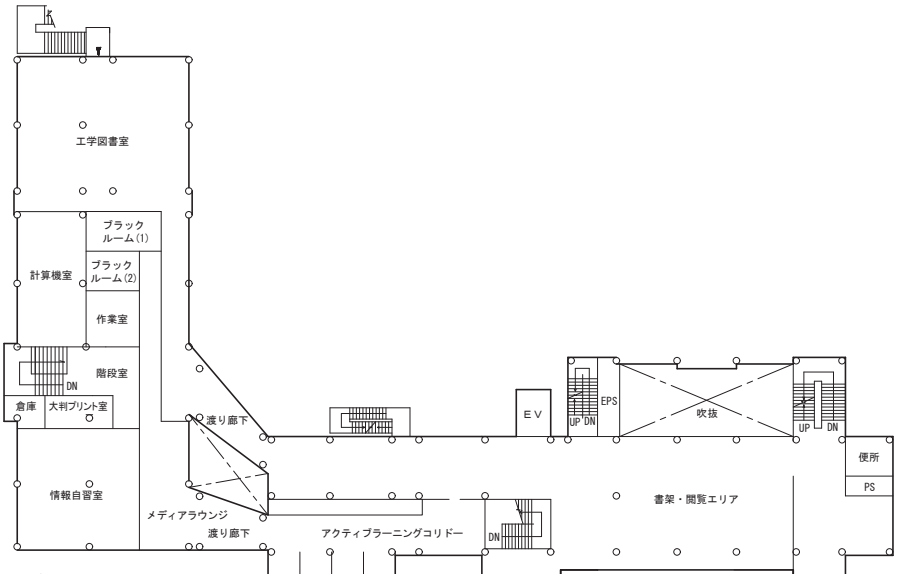
情報基盤室・芸術工学図書館



情報基盤室 1階



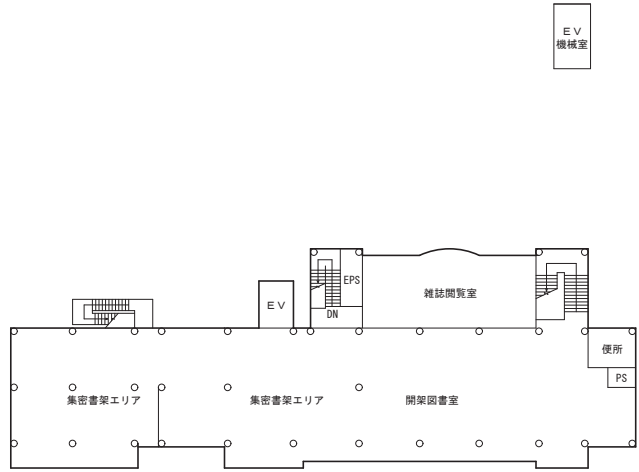
芸術工学図書館 1階



情報基盤室 2階

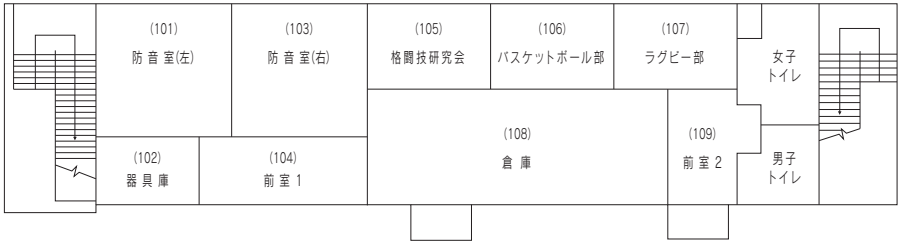
芸術工学図書館 2階

芸術工学図書館

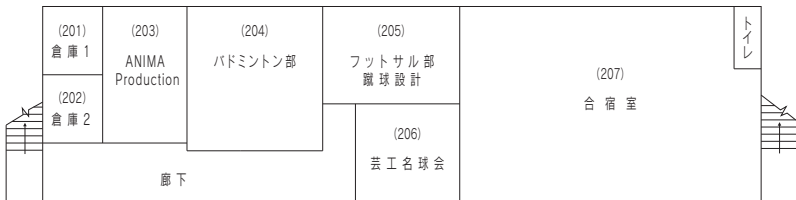


芸術工学図書館 3階

サークル共用施設

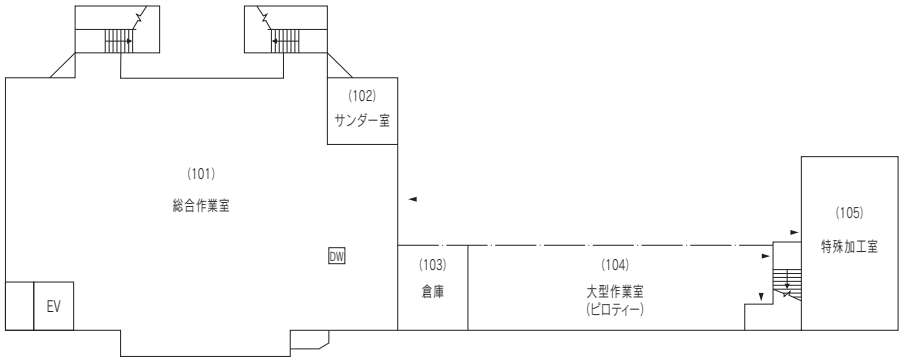


1階

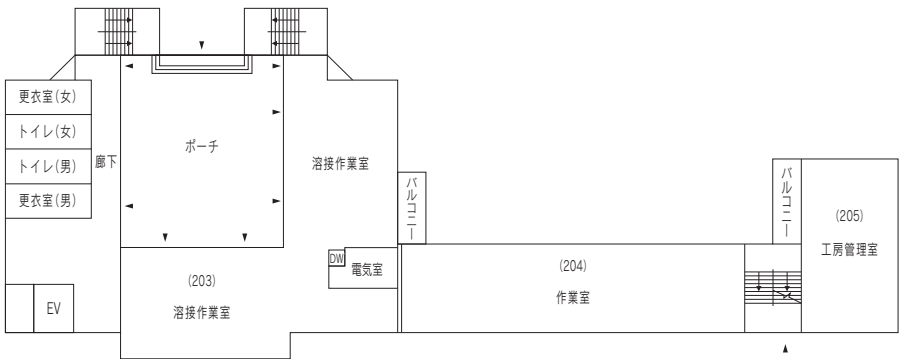


2階

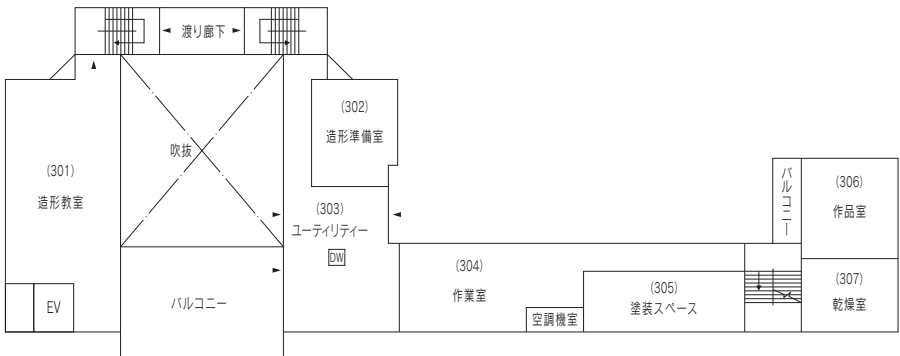
工作工房



1階

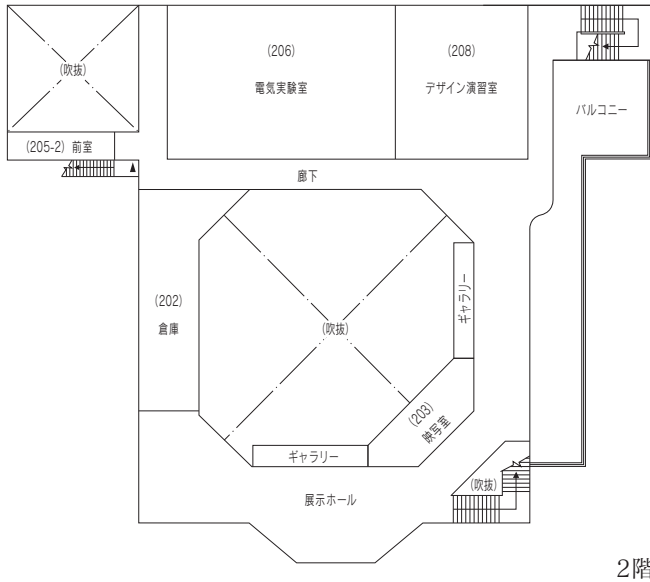
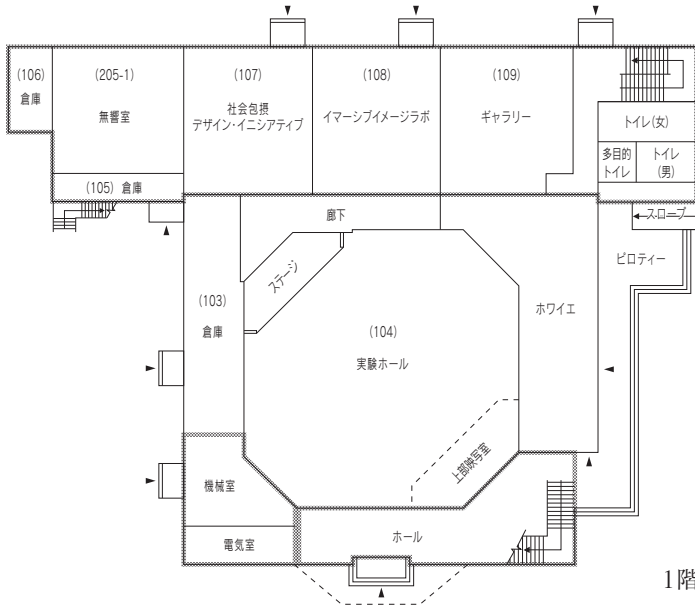


2階

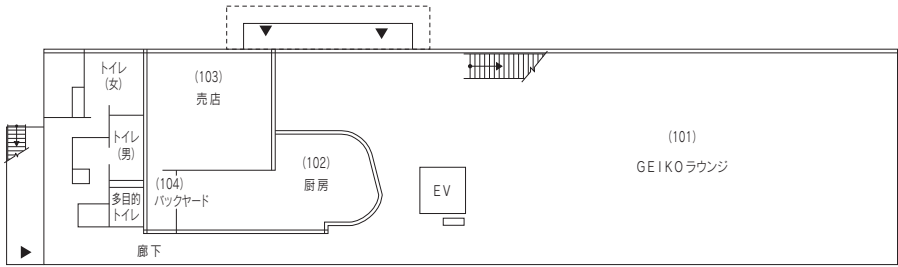


3階

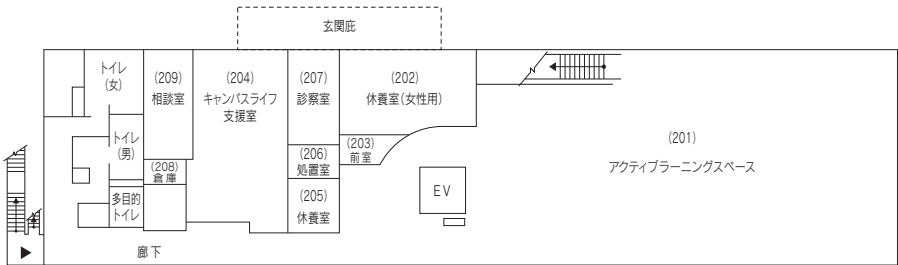
多次元デザイン実験棟



デザインコモン

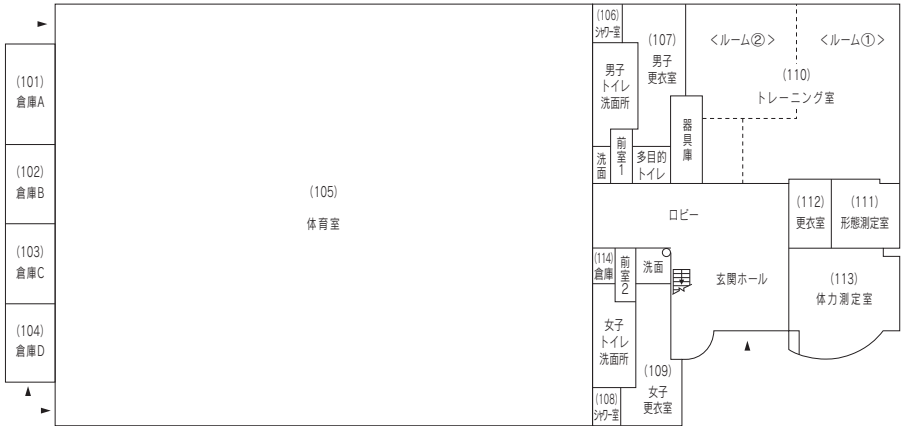


1階

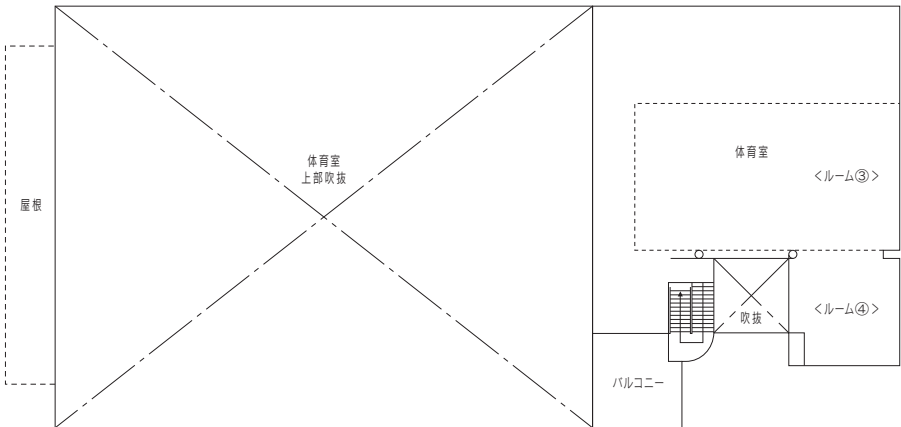


2階

体育館



1階



2階

3. 九州芸術工科大学学生歌



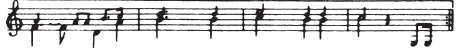
1. はるには はなはな はなはな のののの おおーも いあ り、つど
2. まあき はははは はははは のののの おおーも いあ り、つど
3. あふゆ はははは はははは のののの おおーも いあ り、つど
4. はるには はなはな はなはな のののの おおーも いあ り、つど



い てま お お お き そ が れ く ゑ い の に、 め
お お り り り り り り り り り り り り り り り り
お お り り り り り り り り り り り り り り り り
お お り り り り り り り り り り り り り り り り



を ら 一 わ か て ゆ く す え の わ
ら 一 わ か て ゆ く す え の わ
ら 一 わ か て ゆ く す え の わ



ら の あ す を て ら し む、 2. な つ
わ り え む と お す ら ど し ら む、 3. あ
ら の あ す を て ら し む、 4. ふ



ゆ う ち か い 一 を と も に は た す べ し。
(い を と も に)

注：1. 2. 3. 4番とも括弧内は二部にわかれて
いるが、1. 2. 3番については下声、4番
については上声が主旋律になる。しかし
実際は二部合唱になるのが望ましい。

創立10周年記念募集

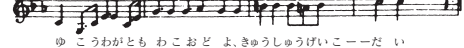
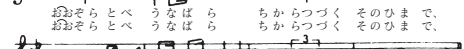
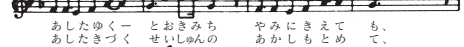
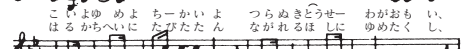
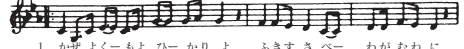
九州芸術工科大学学生歌 (I)

学舎の四季

まなびや

作詞 返田 良
作曲 川畑邦弘

- 1 春には春の思いあり
集いて多きそれぞれの
夢をわかつて行末の
我等の明日を照らしてむ
- 2 夏には夏の思いあり
炎まばゆき学祭に
我等の夢を託す間に
燃ゆる命の踊るらむ
- 3 秋には秋の思いあり
憂い驕るもあるものを
ここに芸術工学の
理得むとすればなむ
- 4 冬には冬の思いあり
来たる門出はそれぞれに
誓れ多かれわが学友
誓いをともにはたすべし



ゆ こうわがとも わこおど よ、きゆうしゅうげいこーだーい
ゆ こうわがとも わこおど よ、きゆうしゅうげいこーだーい

創立10周年記念募集

九州芸術工科大学学生歌 (II)

芸工大青春応援歌

作詞・作曲 三木弘和

- 1 風よ雲よ光よ 吹き荒べ我が胸に
恋よ夢よ誓いよ 貫き通せ我が想い
明日行く遠き道 闇に消えても
昨日までの遙か夢 光に変えて
飛べ大空 飛べ海原 力続くその日まで
行こう我が友 若人よ 九州芸工大
- 2 登る朝日に身を論し 赤き夕日に涙捨て
遙か地平に旅立たん 流れる星に夢託し
明日築く青春の 燈求めて
歌え 己れと創造の 誓いに賭けて
飛べ大空 飛べ海原 力続くその日まで
行こう我が友 若人よ 九州芸工大

創立20周年記念募集

九州芸術工科大学学生歌 (IV)



われら わこうど 1.とも-そうじやない かわか
2.もや-そうじやない かわか
3.きす-こうじやない かわか



き-せいしゆん きぼうの ひかりあるわか
ゆいじおねつ そのほのおたかぶるせい
やくみらい えいえんの こころをひらい



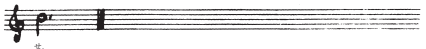
いじかんをおかしてつぎなるじだい
しんよに-しめきんとかがや-くひとみ
てふるきを-みつ-めまこと-をちとめ



をむかえるため-に いざと-もき-
ほにがよ-もてあ-す いざも-やき-
であらた-をつく-り いざき-すか



ん き-ぼうの ひ ———— ともせともせとも
ん じおつ の おもやせもやせもや
ん わ-れらの みらいきすけきすけきす



せ
け

いざ、若人!!

作詞・作曲 永沢裕之

1 我ら若人 燈そうじゃあないか
若き青春 希望の灯
限りある若い時間を謳歌して
次なる時代を迎えるために
いざ燈さん 希望の灯
燈せ、燈せ、燈せ!!

2 我ら若人 燃そうじゃあないか
まばゆい情熱 その炎
たかぶ
昂る精神世に示さんと
に
輝く瞳は苦が世も照らす
いざ燃さん 情熱の炎
燃せ、燃せ、燃せ!!

3 我ら若人 築こうじゃあないか
輝く未来 永遠の
心を開いて古きを見つめ
真を求めて新たを創り
いざ築かん 我らの未来
築け、築け、築け!!

創立20周年記念募集

九州芸術工科大学学生歌 (V)

—— 明日への轍 ——

作詞・作曲 植田洋一

Moderato

1. 2 ながれるときは はやかろうとおそか
あ うといはに ここに ひろく めぐりあえな一 なかま たち
あ うといつ の ひにも かなを たたきあえよ もだちで いま

じよん のあまを 追いかけることも
きみの ながした なみだはきつと かなち

で きずにあまが ながて いるな らぬか に しんが ったこと
をかえてここへ のなかで みらし るべに なる みしなう ことな

はるか らなつへと きせつが めぐるように
あきか らふゆへと きせつが つるように

きみがあるき だすのを みんなが ま
きみのすてきな おを みんなが ま

つてん ころが かるく なったなら あるき だせば
げんき ほど ぶんで きたなら げんき だせば

いっ—から つねに たときは さんめく な ねえまはいいから
そばに います きせつは したるまは しなくていいから

1 流れる時代が はやかろうと
おそかろうと
今はここにひとつ
めぐり逢えた仲間たち
自分の夢を
追いかけることも出来ずに
君が泣いているなら
誰かにしゃべってごらんよ
春から夏へと季節が巡るように
君が歩き出すのを
みんなが待ってる
心が軽くなったなら
歩き出せばいいから
疲れた時は遠慮なく
立ち止まればいいから

2 流れる時代が はやかろうと
おそかろうと
いつの日にも肩をたたき合える
友達でしよう
君の流した涙はきつと形を変えて
心の中で道標になる
見失なうことない
秋から冬へと季節が移るように
君の素敵な笑顔を
みんなが待ってる
元気は自分でできなくちゃ
けれど友達が側にいる
つまづきや傷を恥じる事は
しなくていいから

創立20周年記念募集

九州芸術工科大学学生歌 (VI)

—— 明日への轍 ——

わだち

作詞 植田洋一

作曲 岡崎道成

1. ながれるときが 二 はやかろうとおそかろうと
2. ながれるときが 二 はやかろうとおそかろうと

いまほここにひとつ ひとりありあまたな かまたら
いつの日にもかたき たたき あるふともたち さいよう

じぶんの跡めを 一 おいかけること らできず に
きみのながした なみだは きつとがたらを かまて

きみがいないなら だれかにしゃべって
さうなかでみちしるべになる みうしなう

ごらんよ 二 はるからなつへと
ことない 春からふゆへと

きせつがめぐる ように きみがあるだけのを
きせつがめぐる ように きみのすてきなおを

みんながま っ てる ごころがかるくな
みんながま っ てる げんき ほじとんでた

つたなら あるきだせばいいから つかれなときほま
きなわら げれどもちがそばにいる つまずきやまずをほ

んげなくたちどまれば 二 いいから 二
じることほし なくて

- 1 流れる^{とき}時代が はやかろうと
おそかろうと
今はここにひとつ
めぐり逢えた仲間たち
自分の夢を
追いかけることも出来ずに
君が泣いているなら
誰かにしゃべってごらんよ
春から夏へと季節が巡るように
君が歩き出すのを
みんなが待ってる
心が軽くなったなら
歩き出せばいいから
疲れた時は遠慮なく
立ち止まればいいから

- 2 流れる^{とき}時代が はやかろうと
おそかろうと
いつの日にも肩をたたき合える
友達でいよう
君の流した涙はきつと形を変えて
心の中で^{みちしるべ}道標になる
見失なうことない
秋から冬へと季節が移るように
君の素敵な笑顔を
みんなが待ってる
元気は自分でできなくちゃ
けれど友達が側にいる
つまづきや傷を恥じる事は
しなくていいから

4. 九州大学大学院芸術工学府規則（抜粋）

（科目等履修生及び聴講生に関する条項、別表は省略）

（趣旨）

第1条 この規則は、九州大学大学院通則（平成16年度九大規則第3号。以下「通則」という。）及び九州大学学位規則（平成16年度九大規則第86号）により各学府規則において定めるように規定されている事項その他芸術工学府（以下「本学府」という。）の教育に関し必要と認める事項について定めるものとする。

（教育研究上の目的）

第1条の2 本学府は、技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基盤である科学と人間精神の最も自由な発現である芸術とを統合し、技術の進路を計画し、その機能の設計について研究するとともに、人文、社会、自然にまたがる知識と芸術的感性を基盤とする高次の設計家を組織的に養成する。

（コース）

第1条の3 本学府芸術工学専攻修士課程に、次のコースを置く。

ストラテジックデザインコース

環境設計コース

人間生活デザインコース

未来共生デザインコース

メディアデザインコース

音響設計コース

（入学考査）

第2条 入学を志願する者に対する考査は、学力検査、出身大学の成績証明書その他本学府の定める資料によって行うものとする。

2 学力検査の方法については、本学府教授会の議を経て、芸術工学府長（以下「本学府長」という。）が定める。

（学期）

第3条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

2 前項に定める各学期の授業期間は、別に定める。

（授業及び研究指導）

第4条 本学府の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。

（授業科目、単位及び履修方法等）

第5条 授業科目、単位及び履修方法は、修士課程にあつては別表第1、博士後期課程にあつては別表第2の定めるところにより、単位を修得しなければならない。

2 前項に定めるもののほか、臨時に開設する授業科目は、その都度本学府教授会の議を経て、本学府長が別に定める。

3 単位計算の基準は、原則として、講義については15時間をもって1単位、演習については15時間又は30時間をもって1単位、実験及び実習については30時間又は45時間をもって1単位とする。ただし、これによりがたい場合は、本学府教授会の議を経て、本学府長が別に定める。

第6条 学生は、各学期の始めに、履修しようとする授業科目を、指導教員の指示に従って選定し、本学府長に届け出なければならない。

第7条 本学府において、教育上有益と認めるときは、大学院基幹教育若しくは他の学府又は学部の課程による授業科目を履修させることができる。

第8条 各授業科目の単位修得の認定は、本学府教授会の議を経て、本学府長が行う。
(他の大学院における授業科目の履修等)

第9条 本学府長は、本学府教授会の議を経て、教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、他の大学院の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した単位は、修士課程及び博士後期課程を通して15単位を限度として、本学府教授会の議を経て、課程修了の要件となる単位として認めることができる。

3 本学府において、教育上有益と認めるときは、他の大学院等との協議の上、本学府長の承認を得て、他の大学院等において必要な研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受けさせる期間は、1年を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第9条の2 本学府の学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を本学府長に申し出たときは、本学府教授会の議を経て、その計画的な履修を認めることができる。

(修士課程の修了要件)

第10条 本学府の修士課程の修了要件は、修士課程に2年以上在学し、この規則の定めるところにより、40単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は修士作品（以下「修士論文等」という。）を提出して、本学府教授会の行う修士論文等の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、総長が認めるときは、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(博士課程の修了要件)

第11条 本学府の博士課程の修了要件は、博士課程に5年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、この規則の定めるところにより、50単位以上（他の学府又は

他の大学院の修士課程を修了した者にあつては博士後期課程において10単位以上)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、総長が認めるときは、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、博士課程に3年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

2 大学院設置基準第3条第3項の規定により標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程を修了した者及び前条ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了要件については、前項中「5年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)」とあるのは「修士課程における在学期間に3年を加えた期間」と、「3年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)」とあるのは「3年(修士課程における在学期間を含む。)」と読み替えて前項の規定を適用する。

3 前2項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第156条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が、博士後期課程に入学した場合の博士課程の修了要件は、博士後期課程に3年(法科大学院の課程を修了した者にあつては、2年)以上在学し、この規則の定めるところにより10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、総長が認めるときは、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、博士後期課程に1年(標準修業年限が1年以上2年未満の専門職学位課程を修了した者にあつては、3年から当該1年以上2年未満の期間を減じた期間)以上在学すれば足りるものとする。(修士論文等の提出及び審査)

第12条 修士論文等は、在学期間中に指導教員を経て、本学府長に提出しなければならない。

2 修士論文等及び最終試験の合格又は不合格は、専攻の行う調査に基づき、本学府教授会が審査する。

3 修士論文等の提出期日その他については、あらかじめ公示する。
(博士論文の提出)

第13条 博士論文は、博士後期課程に2年以上在学し、この規則により履修すべき所要の単位を修得した者又は当該年度末までに修得する見込みの者で、かつ、必要な研究指導を受けた者でなければ提出できない。ただし、本学府教授会の議を経て、本学府長が優れた研究業績を上げたと認めた者は、博士後期課程における在学期間が2年に満たなくても博士論文を提出することができる。

第14条 最終試験は、学位論文を提出した者について行うものとする。

(留学)

第15条 留学を志望する本学府の学生は、書面をもって本学府長に願い出て、その許可を受けなければならない。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第10条及び第11条の課程修了の要件としての在学期間に加えることができる。

3 第9条の規定は、本学府の学生が留学する場合について準用する。この場合において、同条中「他の大学院」とあるのは、「外国の大学院」と読み替えるものとする。(他の大学院における授業科目の履修により修得した単位の上限)

第15条の2 第9条第2項及び前条第3項の規定により課程修了の要件となる単位として認定することができる単位数は、通則第15条、第17条及び第17条の2に規定する転学等の場合を除き、修士課程及び博士後期課程を通して合わせて15単位を限度とする。

(ホールマネジメントエンジニア育成プログラム)

第15条の3 劇場、ホール等の文化施設(以下「施設」という。)の音響、照明、舞台機構等に関する工学的知識及び文化芸術に関する知識を備えた施設の総合的管理運営能力を有する人材を育成するため、本学府修士課程にホールマネジメントエンジニア育成プログラム(以下この条において「プログラム」という。)を置く。

2 プログラムの授業科目、単位、履修方法等は、本学府教授会の議を経て、本学府長が別に定める。

3 プログラムの授業科目の所定の単位を修得した者には、プログラム修了証を授与する。

(グローバル・アーキテクト・プログラム)

第15条の4 建築・環境設計に関する工学的知識及び文化芸術に関する知識を備えた、総合的な設計能力を有する人材を育成するため、本学府修士課程にグローバル・アーキテクト・プログラム(以下この条において「プログラム」という。)を置く。

2 プログラムの授業科目、単位、履修方法等は、本学府教授会の議を経て、本学府長が別に定める。

3 プログラムの授業科目の所定の単位を修得した者には、プログラム修了証を授与する。

(クリエイティブリーダーシップ・プログラム)

第15条の5 創造的思考力に基づく社会・文化の長期的なビジョンを構想でき、深い人間・環境理解に基づく価値提案を実践でき、提案しようとする価値を社会実装するために多様な他者への共感力・協働力を備え、イノベーション・プロジェクトを遂行する能力を持つ高度デザイン人材を育成するため、本学府修士課程にクリエイティブリーダーシップ・プログラム(以下この条において「プログラム」という。)を置く。

2 プログラムの授業科目、単位、履修方法等は、本学府教授会の議を経て、本学府長が別に定める。

3 プログラムの授業科目の所定の単位を修得した者には、プログラム修了証を授与する。

(雑則)

第20条 この規則その他の規則等に定めるもののほか、本学府の校務について必要な事項は、本学府教授会の議を経て、本学府長が別に定める。

附 則

1 この規則は、令和4年4月1日から施行する。

2 この規則による改正後の九州大学大学院芸術工学府規則は、令和4年4月1日に本学府に入学する者から適用し、令和4年3月31日に本学府に在学し、同年4月1日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

発行日 令和5年4月1日

九州大学大学院芸術工学府

〒815-8540
福岡市南区塩原4丁目9番1号
TEL(092)553-4418(学務課教務係)

印刷 (株)ミドリ印刷
